

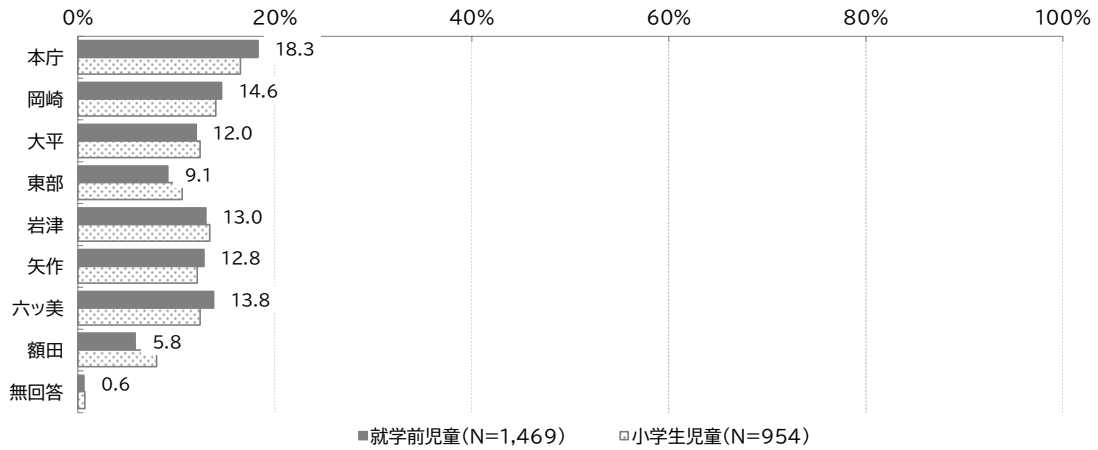
# 岡崎市子ども・子育てに関する アンケート調査報告書（抜粋）

令和6年（2024年）3月

# I. 調査結果（就学前児童・小学生児童）

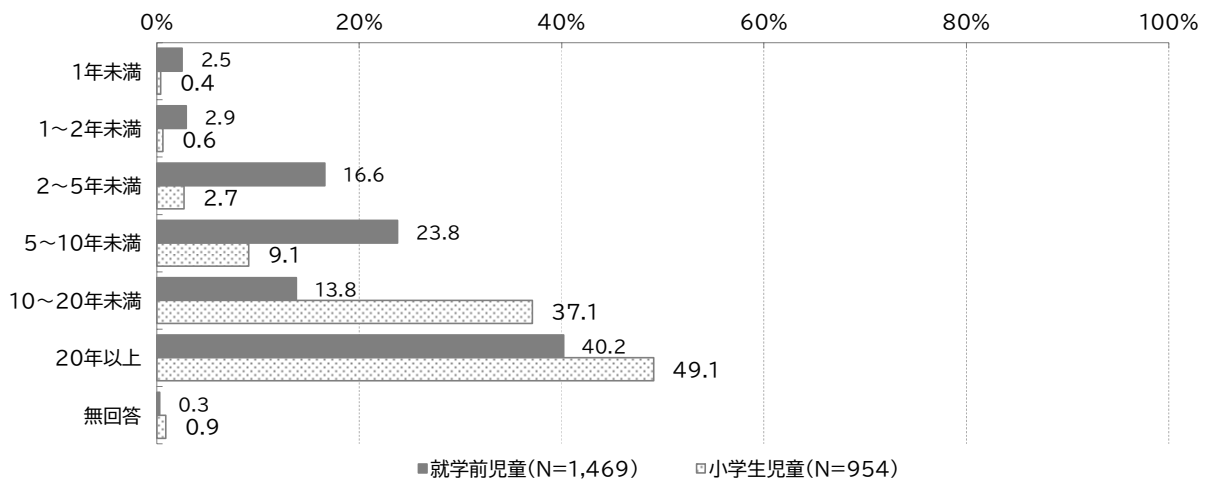
## （１）お住まいの地域の小学校区名を記入してください

（就学前児童調査・小学生児童調査…問1）



## （２）岡崎市に住んで何年になりますか。＜単数回答＞

（就学前児童調査・小学生児童調査…問2）

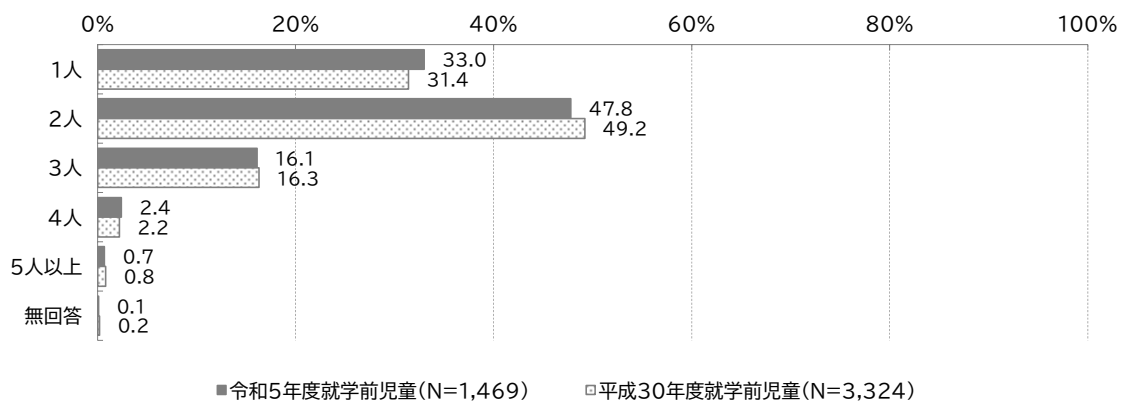


### (3) お子さんは何人いらっしゃいますか。〈数量回答〉

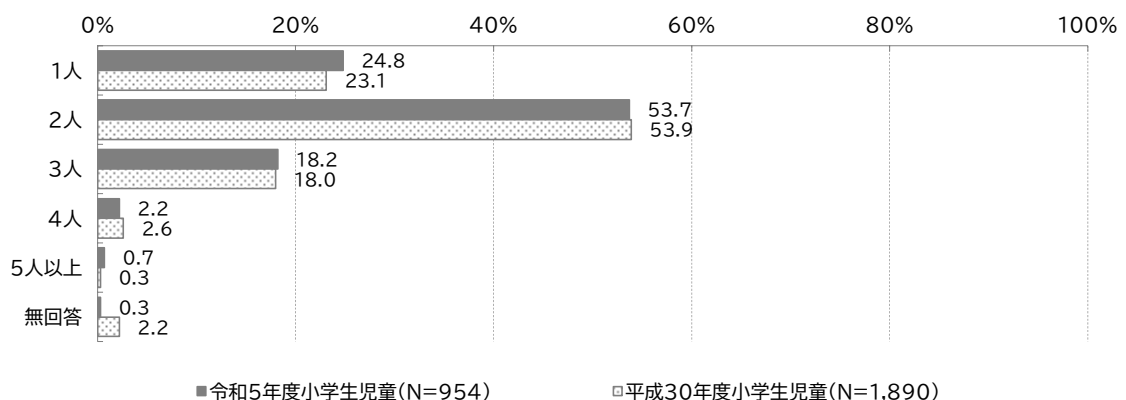
(就学前児童調査・小学生児童調査…問4)

きょうだいの人数についてみると、「2人」が就学前児童で47.8%、小学生児童で53.7%となっている。次いで「1人」が就学前児童で33.0%、小学生児童で24.8%であり、前回調査時とほぼ同様の傾向となっている。

#### 【就学前児童】



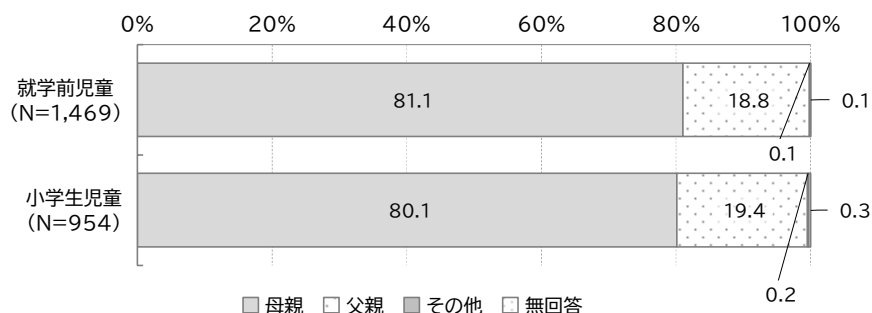
#### 【小学生児童】



### (4) この調査票にご回答いただく方はどなたですか。〈単数回答〉

(就学前児童調査・小学生児童調査…問5)

就学前児童では「母親」が81.1%、「父親」が18.8%となっている。小学生児童では「母親」が80.1%、「父親」が19.4%となっている。

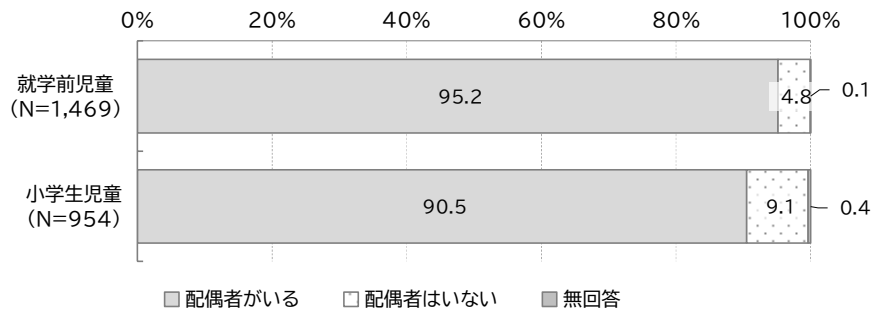


(5) この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

<単数回答>

(就学前児童調査・小学生児童調査…問6)

就学前児童では「配偶者がいる」が95.2%、「配偶者はいない」が4.8%となっている。小学生児童では「配偶者がいる」が90.5%、「配偶者はいない」が9.1%となっている。

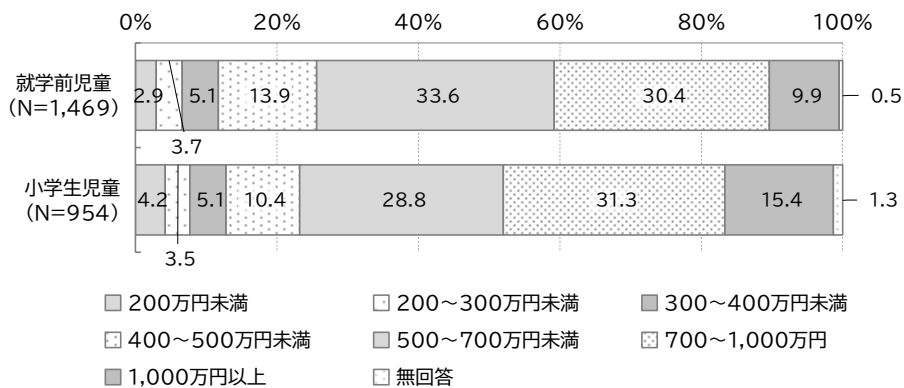


(6) 世帯全体の年収(税込)は、おおよそどのくらいですか。 <単数回答>

(就学前児童調査・小学生児童調査…問7)

就学前児童では「500~700万円未満」が33.6%と最も多く、次いで「700~1,000万円未満」が30.4%、「400~500万円未満」が13.9%となっている。

小学生児童では「700~1,000万円未満」が31.3%と最も多く、次いで「500~700万円未満」が28.8%、「1,000万円以上」が15.4%となっている。



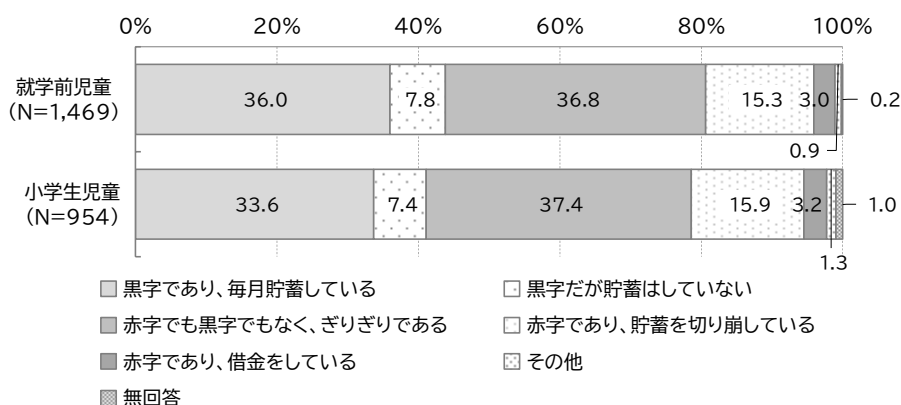
(7) 現在の家計について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

<単数回答>

(就学前児童調査・小学生児童調査…問8)

就学前児童では「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」が36.8%と最も多く、次いで「黒字であり、毎月貯蓄している」が36.0%、「赤字であり、貯蓄を切り崩している」が15.3%となっている。

小学生児童では「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」が37.4%と最も多く、次いで「黒字であり、毎月貯蓄している」が33.6%、「赤字であり、貯蓄を切り崩している」が15.9%となっている。



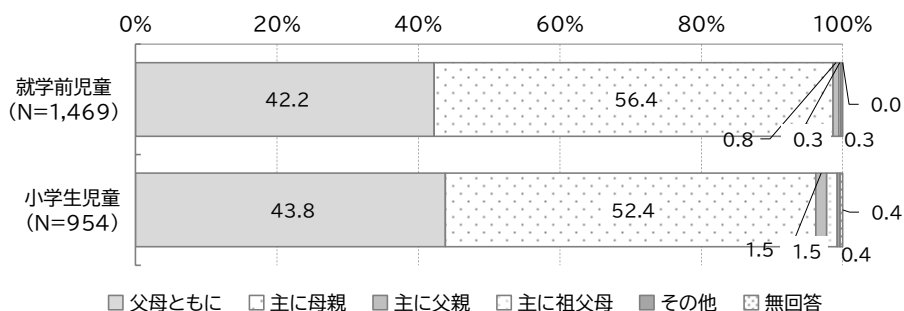
(8) お子さんの子育て(教育を含む)を主に行っているのはどなたですか。

<単数回答>

(就学前児童調査・小学生児童調査…問9)

就学前児童では「主に母親」が56.4%と最も多く、次いで「父母ともに」が42.2%、「主に祖父母」が0.8%となっている。

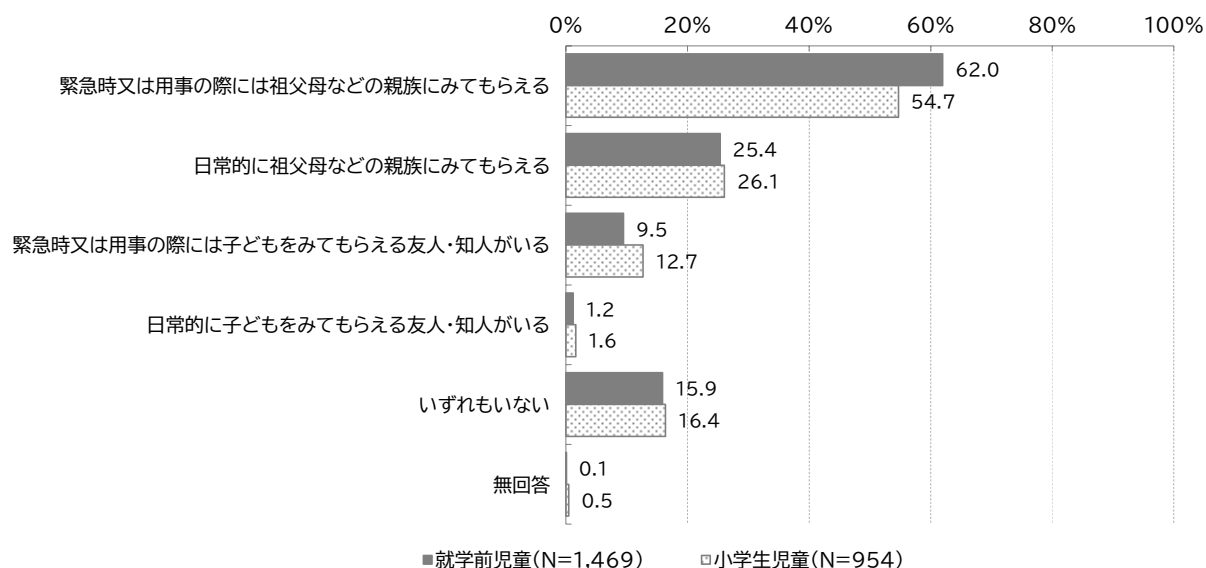
小学生児童では「主に母親」が52.4%と最も多く、次いで「父母ともに」が43.8%、「主に祖父母」が1.5%となっている。



### (9) 日頃、お子さんを見てもらえる親族・知人はいますか。〈複数回答〉

(就学前児童調査・小学生児童調査…問 10)

就学前児童・小学生児童ともに「緊急時又は用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」が最も多く、それぞれ 62.0%、54.7%となっている。次いで「日常的に祖父母などの親族にみてもらえる」が 25.4%、26.1%、「いずれもない」が 15.9%、16.4%となっている。



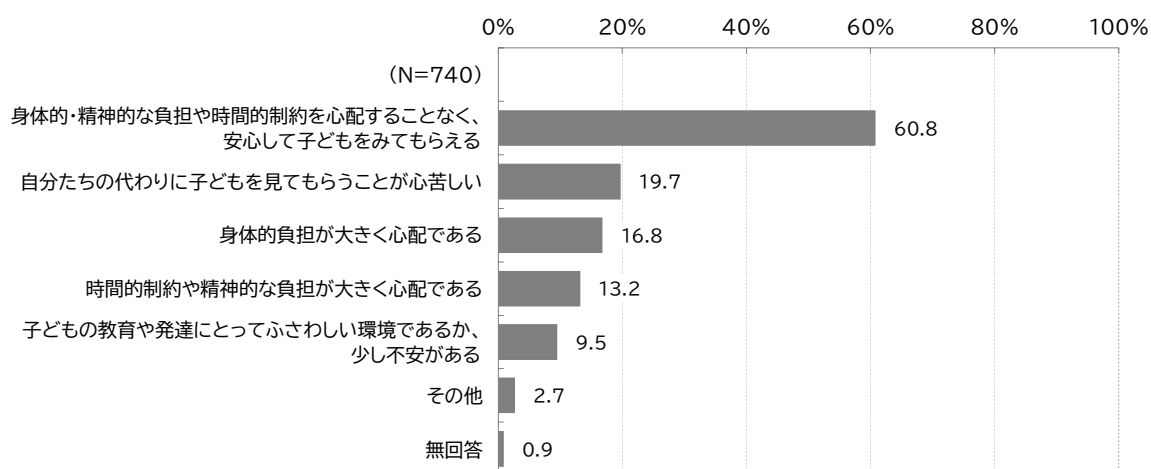
## (10) お子さんをみてもらっている状況についてお答えください。〈複数回答〉

(小学生児童調査…問 10-1)

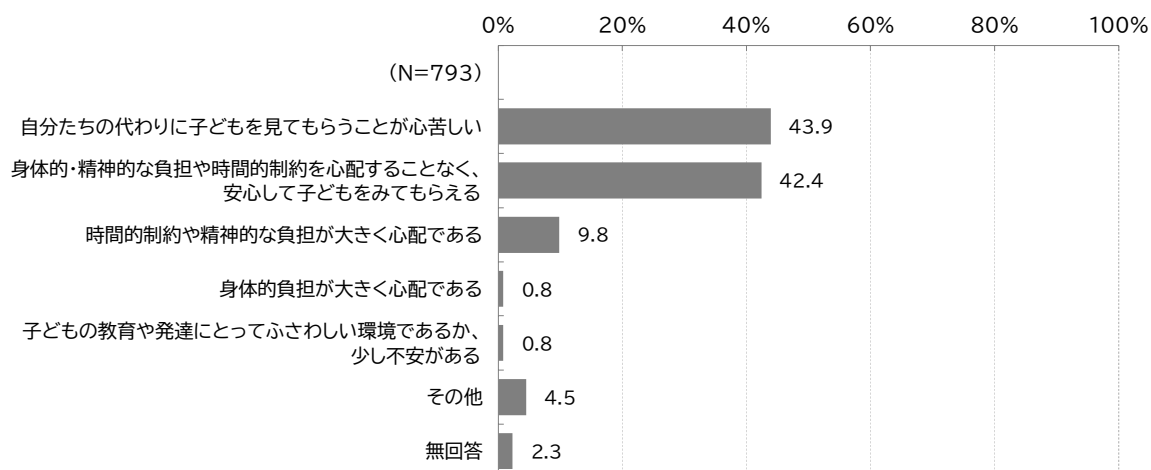
「祖父母など」では「身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が60.8%と最も多く、次いで「自分たちの代わりに子どもを見てもらうことが心苦しい」が19.7%、「身体的負担が大きく心配である」が16.8%となっている。

「友人・知人」では「自分たちの代わりに子どもを見てもらうことが心苦しい」が43.9%と最も多く、次いで「身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が42.4%、「時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が9.8%となっている。

### 【祖父母などの親族】



### 【友人・知人】

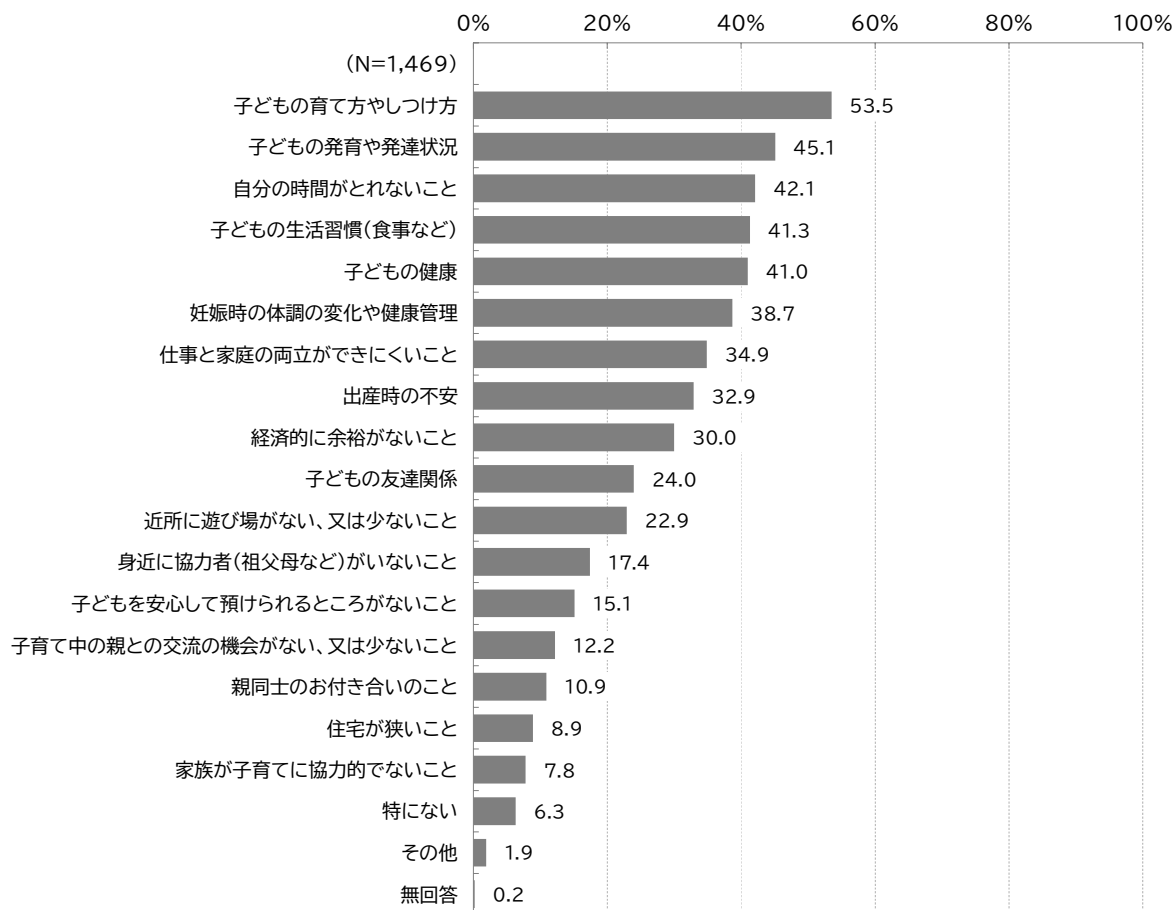


### (11) 妊娠、出産、子育てを通じて、困ったことや悩んだことはありますか

<複数回答>

(就学前児童調査…問 11)

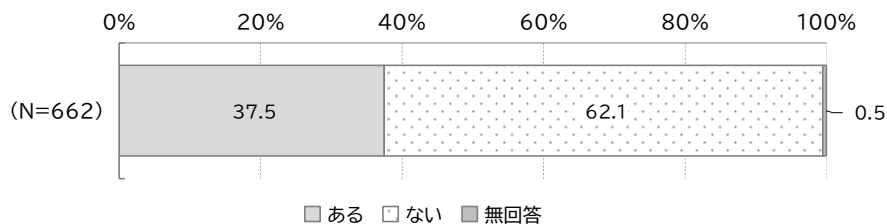
「子どもの育て方やしつけ方」が53.5%と最も多く、次いで「子どもの発育や発達状況」が45.1%、「自分の時間がとれないこと」が42.1%となっている。



### (12) あなたは相談窓口を利用したことがありますか。<単数回答>

(就学前児童調査…問 11-1)

「ある」が37.5%、「ない」が62.1%となっている。

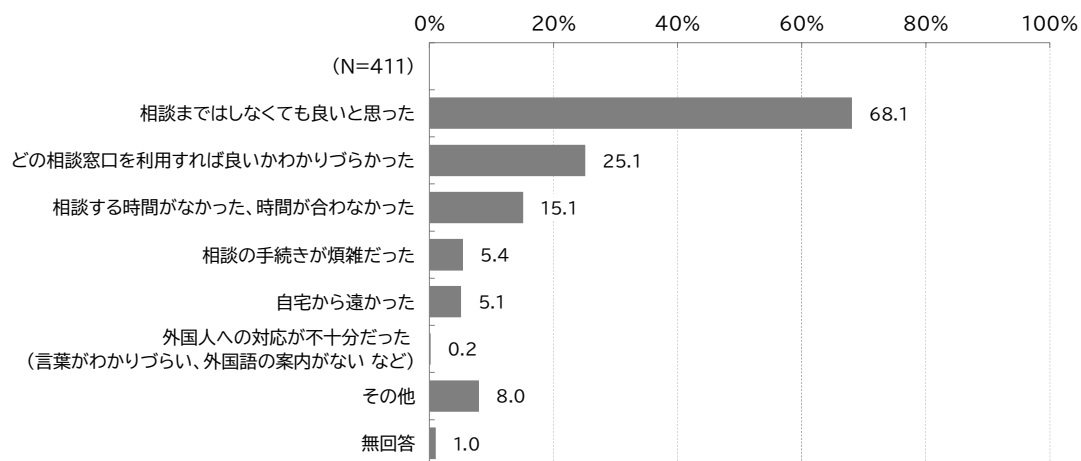




### (13) 利用したことがない理由は何ですか。

(就学前児童調査…問 11-2)

「相談まではしなくても良いと思った」が68.1%と最も多く、次いで「どの相談窓口を利用すれば良いかわかりづらかった」が25.1%、「相談する時間がなかった、時間が合わなかった」が15.1%となっている。



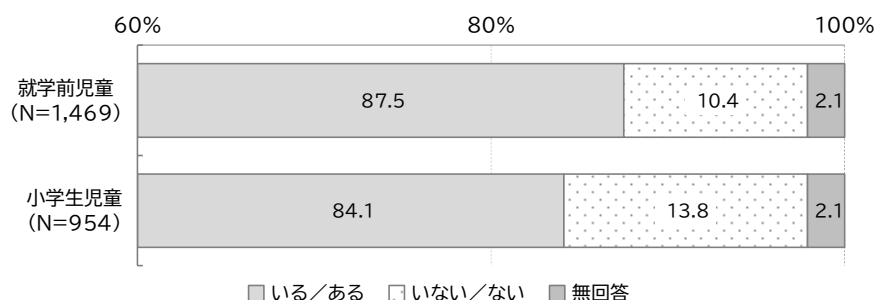
### (14) お子さまの子育てをする上で、気軽に相談できる人はいますか。

<単数回答>

(就学前児童調査…問 12 小学生児童調査…問 11)

就学前児童では「いる／ある」が87.5%と最も多く、次いで「いない／ない」が10.4%となっている。

小学生児童では「いる／ある」が84.1%と最も多く、次いで「いない／ない」が13.8%となっている。

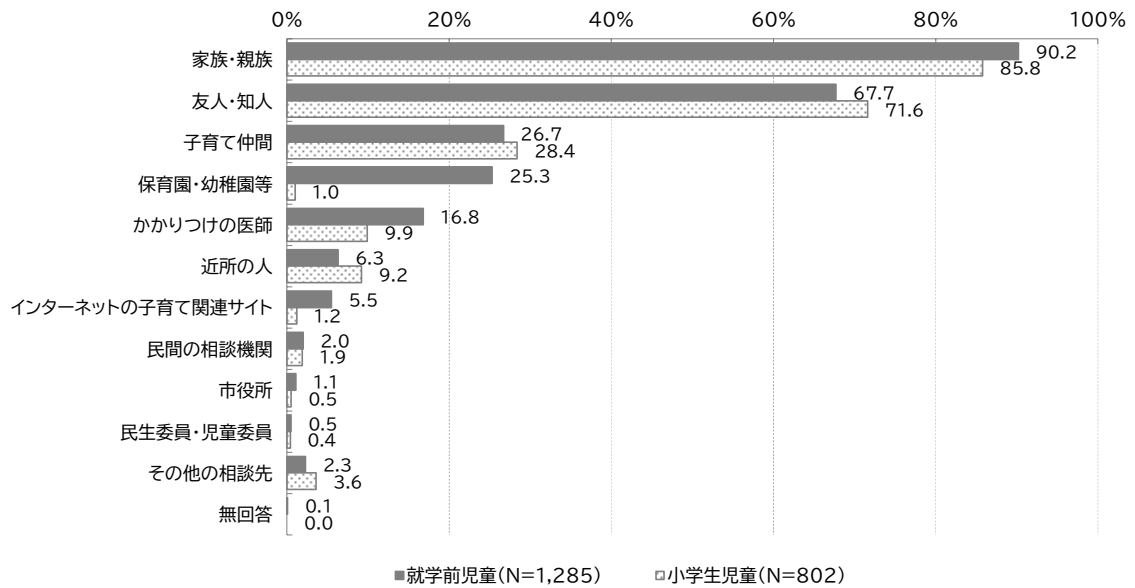


### (15) 気軽に相談できる先は誰（どこ）ですか。＜複数回答＞

(就学前児童調査…問 12-1 小学生児童調査…問 11-1)

就学前児童では「家族・親族」が90.2%と最も多く、次いで「友人・知人」が67.7%、「子育て仲間」が26.7%となっている。

小学生児童では「家族・親族」が85.8%と最も多く、次いで「友人・知人」が71.6%、「子育て仲間」が28.4%となっている。



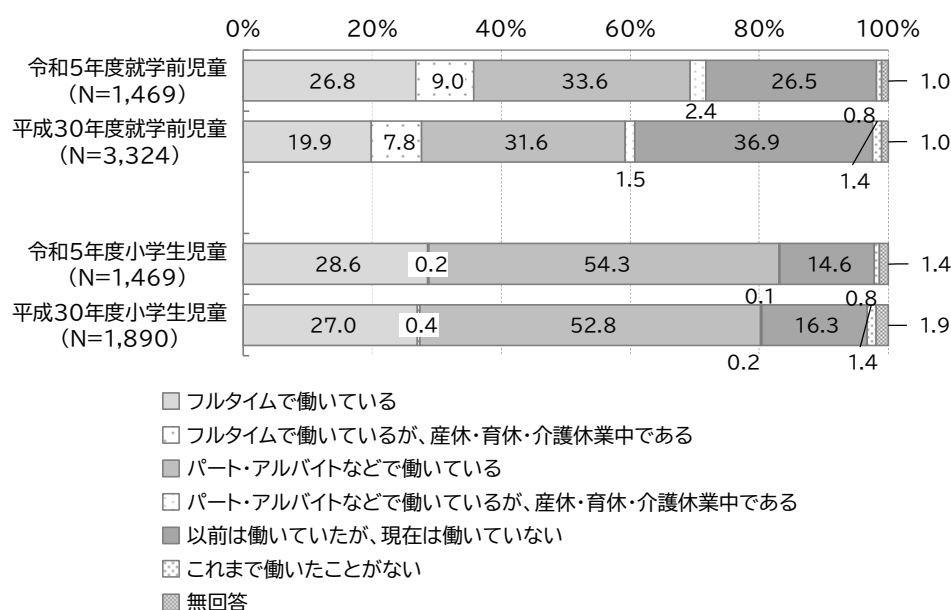
(16) お子さんの保護者の現在の就労状況について、①母親、②父親のそれぞれで当てはまる番号1つに○をつけてください。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問13 小学生児童調査…12)

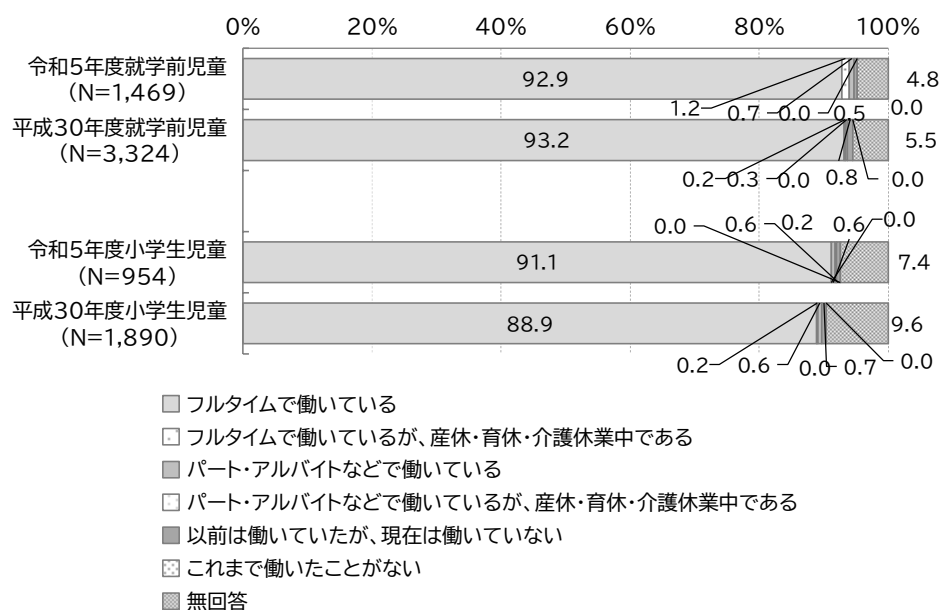
就学前児童の母親では「フルタイムで働いている」が26.8%であり、前回調査時の19.9%から増加している。小学生児童は28.6%であり、前回調査時の27.0%に比べてやや増加している。

父親については就学前児童・小学生児童ともに前回調査時と同程度となっている。

【母親】



【父親】



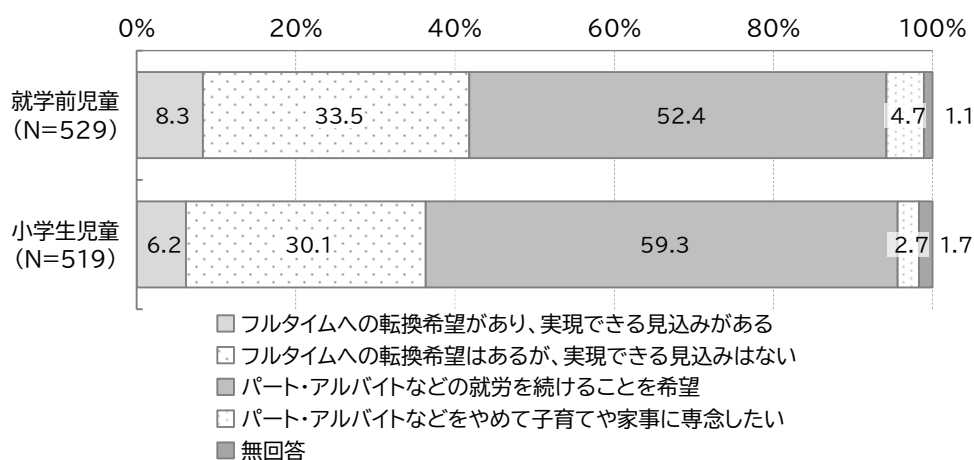
## (17) フルタイムへの転換希望はありますか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 14 小学生児童調査…問 13)

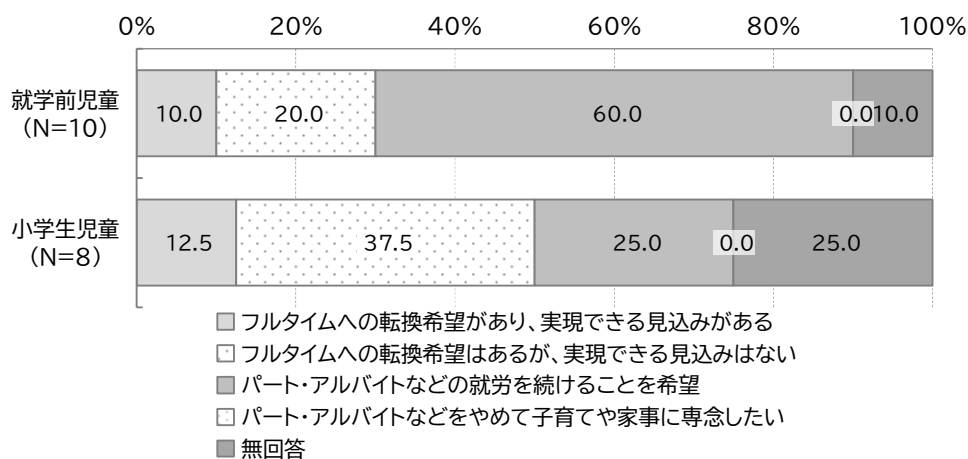
就学前児童の母親では「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」が52.4%であり、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が33.5%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が8.3%となっている。小学生児童の母親も同様の傾向となっている。

就学前児童の父親では「パート・アルバイトなどの就労を続けることを希望」が59.3%と最も多くなっている。

### 【母親】



### 【父親】



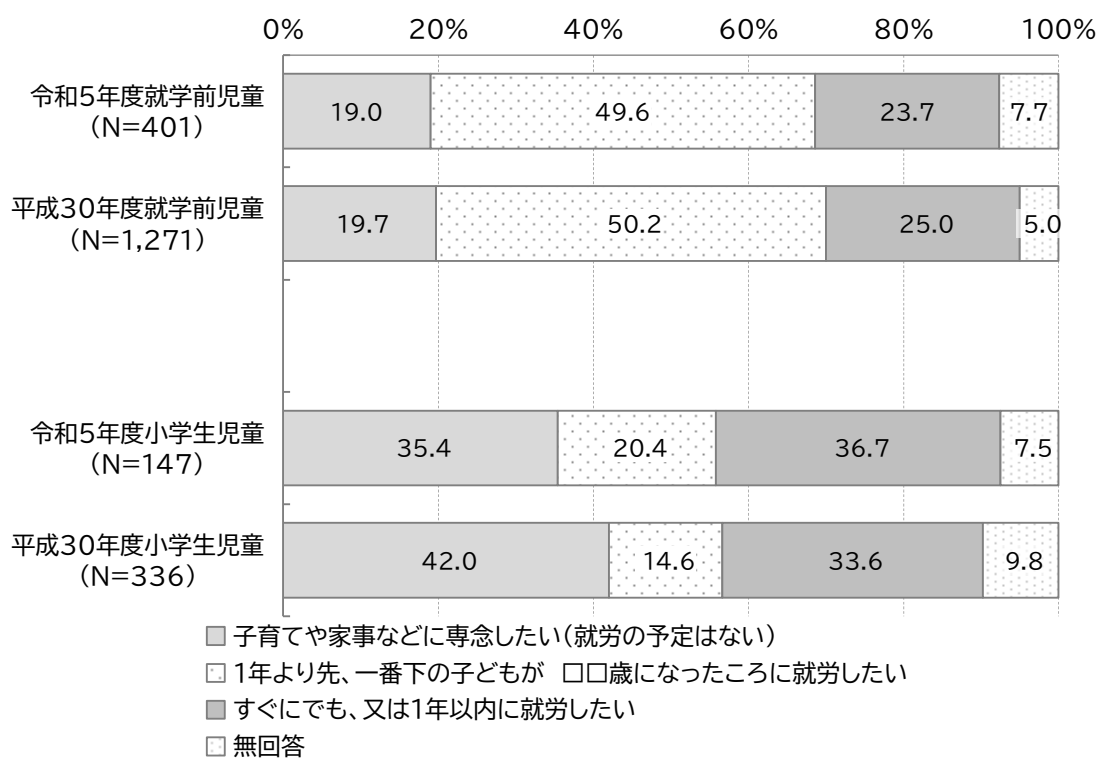
## (18) 就労したいという希望はありますか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 15 小学生児童調査…問 14)

令和5年度における就学前児童の母親の就労希望では「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」が49.6%と最も多く、次いで「すぐにでも、又は1年以内に就労したい」が23.7%、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が19.0%となっており、前回調査時と比べて同様の傾向となっている。

令和5年度における小学生児童の母親の就労希望では「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が35.4%と最も多くなっているが、前回調査時の42.0%に比べて6.6ポイント減少した。一方、「すぐにでも、又は1年以内に就労したい」が36.7%であり、前回調査時の33.6%から3.1ポイント増加した。

### 【母親】

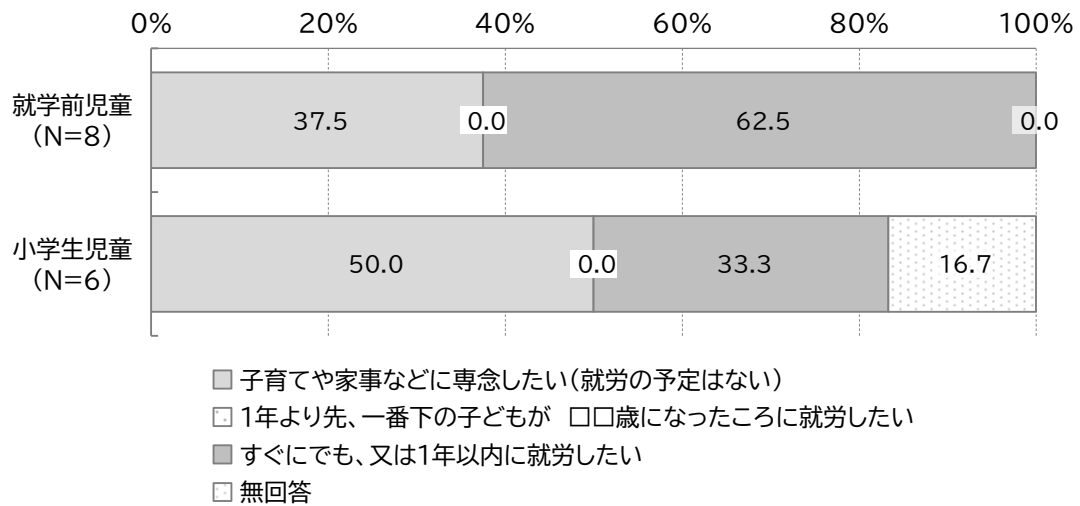


就学前児童の父親では「すぐにでも、又は1年以内に就労したい」が62.5%と最も多く、次いで「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が37.5%となっている。

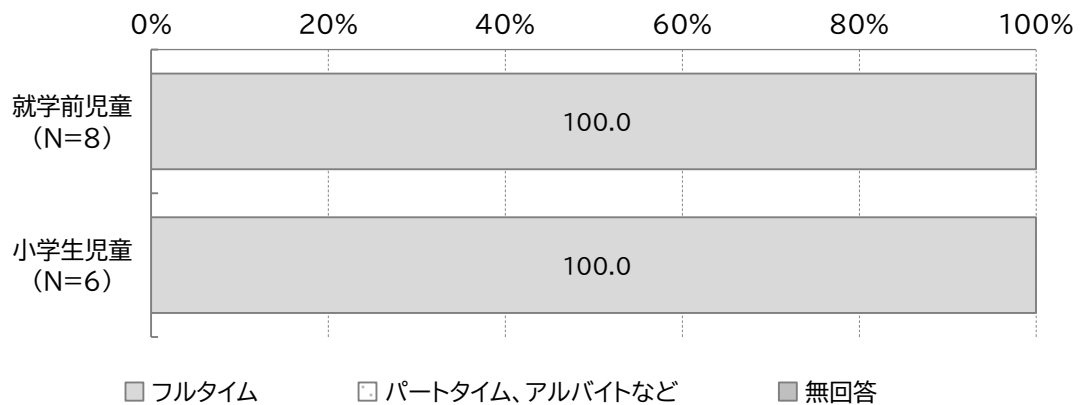
小学生児童の父親では「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が50.0%と最も多く、次いで「すぐにでも、又は1年以内に就労したい」が33.3%となっている。

希望する就労形態は「フルタイム」が100.0%となっている。

### 【父親】



### 【希望する就労形態\_父親】

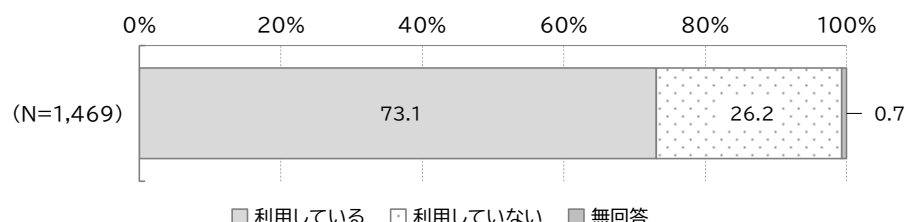


**(19) お子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。＜単数回答＞**

(就学前児童調査…問 16)

「利用している」が73.1%、「利用していない」が26.2%となっている。

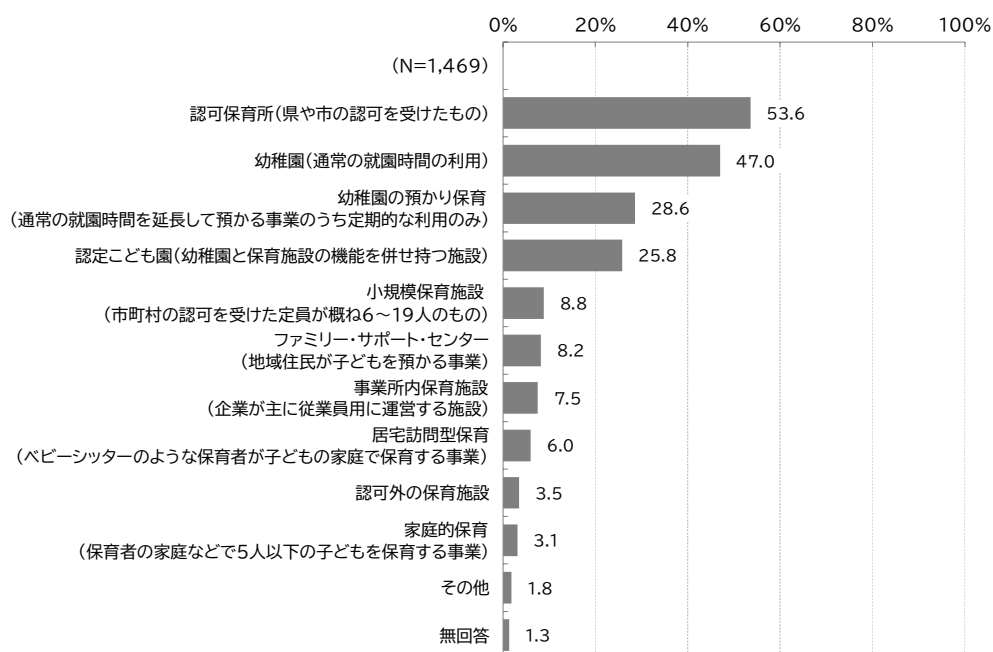
年齢別では、3歳以上において「利用している」が9割を超えている。また、区域別ではいずれも「利用している」が7割を超えている。



**(20) 現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。＜複数回答＞**

(就学前児童調査…問 17)

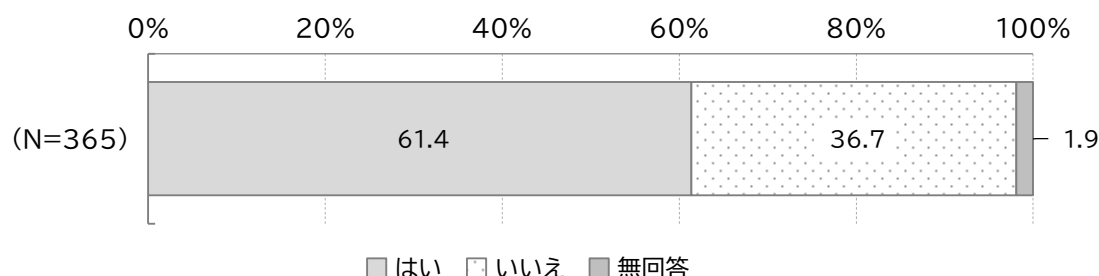
「認可保育所（県や市の認可を受けたもの）」が53.6%と最も多く、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が47.0%、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）」が28.6%となっている。また、年齢別では、0歳～3歳において「認可保育所」、4歳・5歳は「幼稚園」が最も多く、区域別では、本町・岡崎・岩津において「幼稚園」そのほかの区域において「認可保育所」が最も多い。



(21) 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。＜単数回答＞

（就学前児童調査…問 17-1）

「はい」が61.4%、「いいえ」が36.7%となっている。

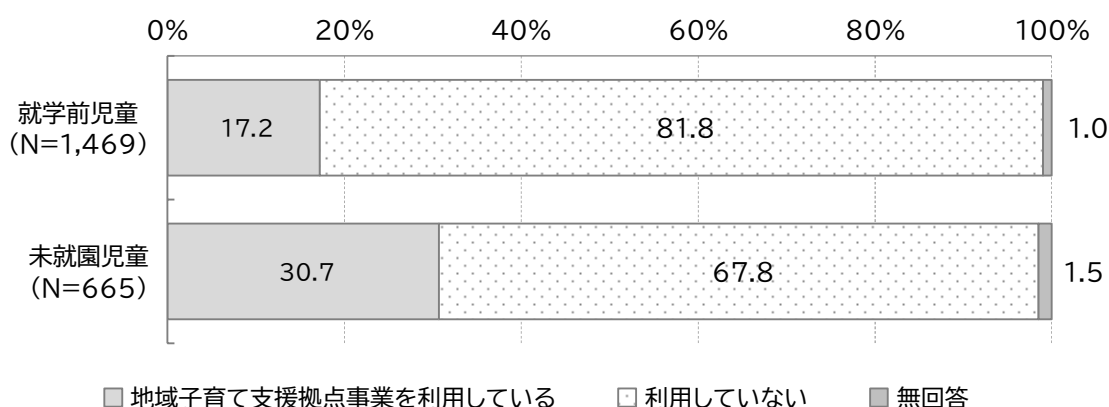


(22) お子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「つどいの広場（地域交流センター、げんき館などのプレイルーム）」「子育て支援センター」などと呼ばれています）を利用していますか。＜単数回答・数量回答＞

（就学前児童調査…問 18）

就学前児童全体では「利用していない」が81.8%、「地域子育て支援拠点事業を利用している」が17.2%となっている。

未就園児童（0～2歳）は「地域子育て支援拠点事業を利用している」が30.7%であり、就学前児童全体に比べて高い。

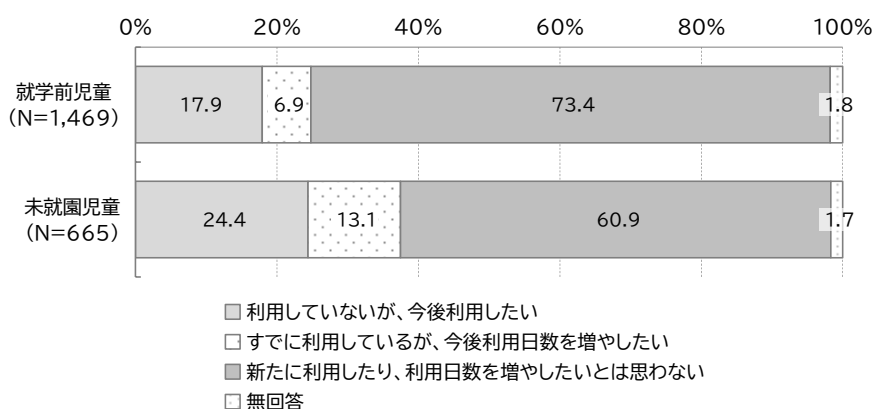




(23) 今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いませんか。＜単数回答・数量回答＞

(就学前児童調査…問 19)

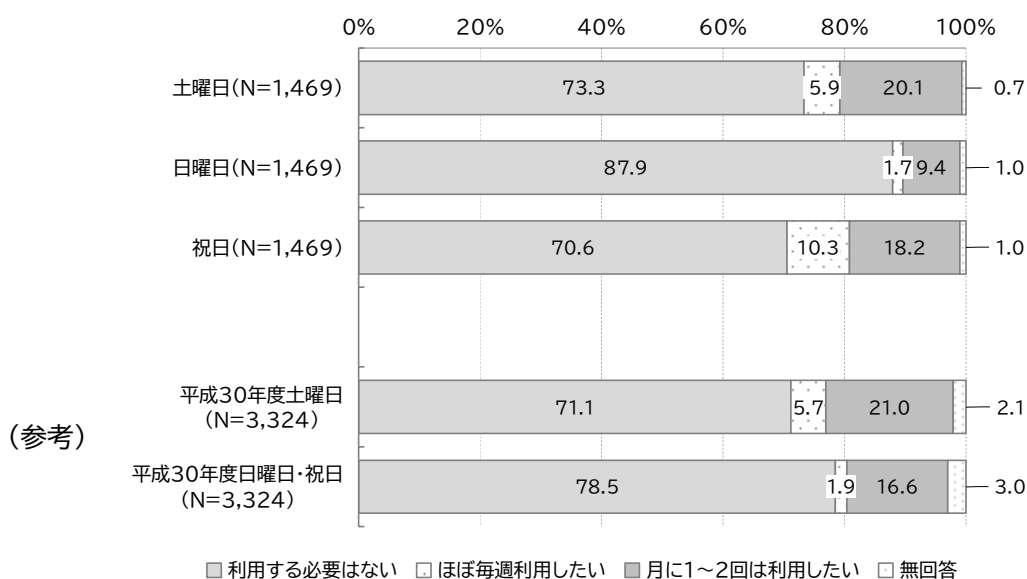
就学前児童全体では「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が73.4%と最も多く、次いで「利用していないが、今後利用したい」が17.9%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が6.9%となっている。未就園児童も同様の傾向となっているが、「利用していないが、今後利用したい」「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」の割合が就学前児童全体に比べて増加している。



(24) お子さんについて、土曜日、日曜日、祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。＜単数回答・数量回答＞

(就学前児童調査…問 20)

おおむね「利用する必要はない」が最も多い。また、日曜日は「月に1～2回は利用したい」が9.4%であり、土曜日の20.1%や祝日の18.2%に比べて低くなっている。

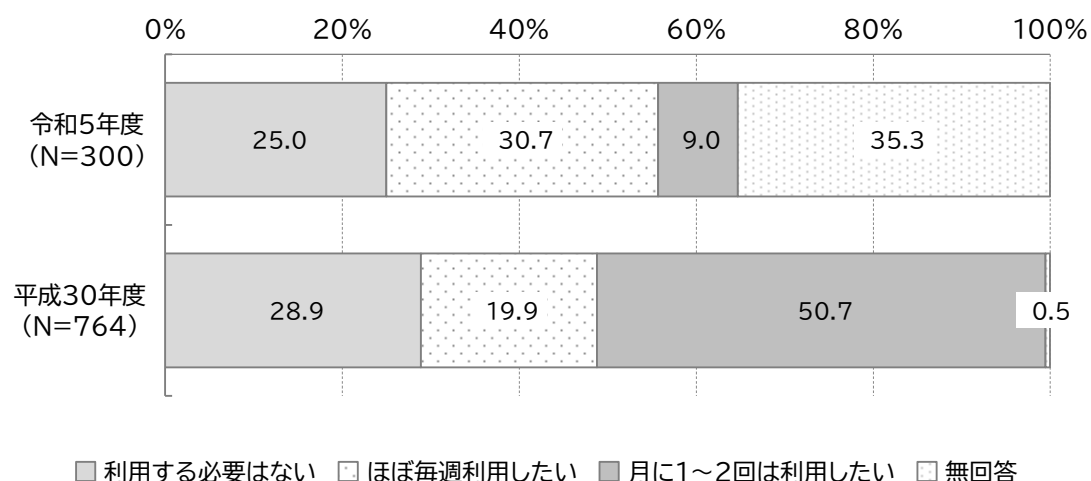


※前回調査では「日曜日・祝日」となっている。

(25) お子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。＜単数回答・数量回答＞

(就学前児童調査…問 21)

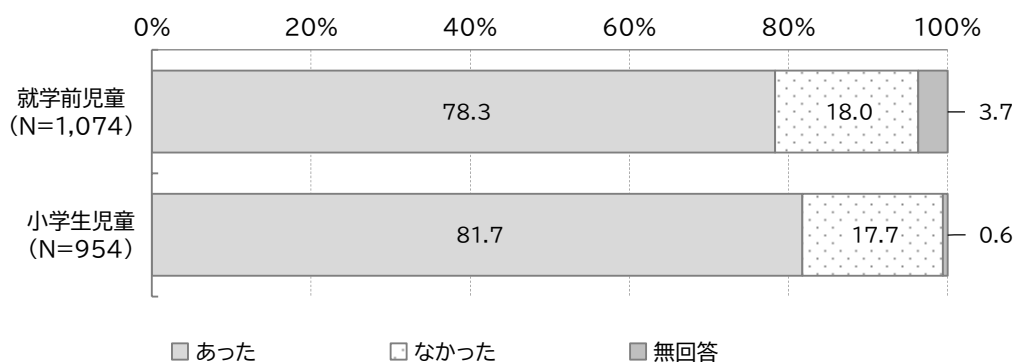
「ほぼ毎週利用したい」が30.7%、「利用する必要はない」が25.0%となっている。



(26) この1年間に、お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。＜単数回答＞

(就学前児童調査…問 22 小学生児童調査…問 18)

就学前児童では「あった」が78.3%、「なかった」が18.0%となっている。小学生児童では「あった」が81.7%、「なかった」が17.7%であり、おおむね同様の傾向となっている。



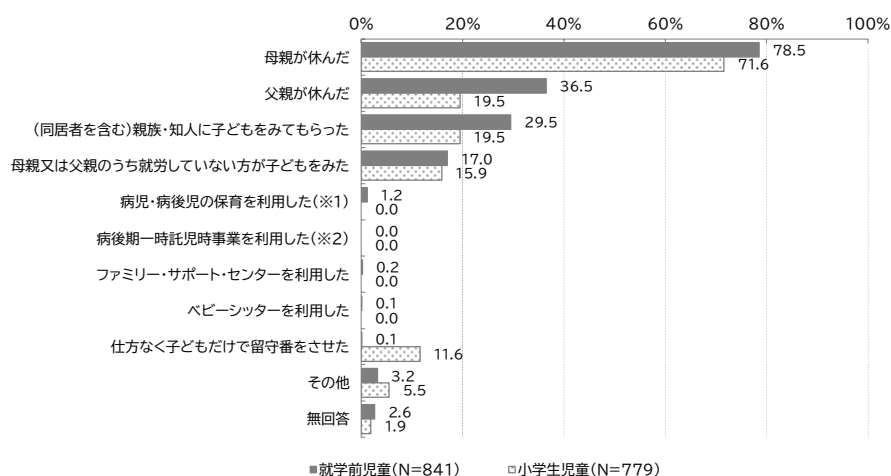
(27) お子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法として当てはまる記号すべてに○をつけ、それぞれの日数を口内に数字でご記入ください

<複数回答・数量回答>

(就学前児童調査…問 22-1 小学生児童調査…問 18-1)

就学前児童について、「母親が休んだ」が78.5%と最も多く、次いで「父親が休んだ」が36.5%、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が29.5%となっている。

小学生児童について、「母親が休んだ」が71.6%と最も多く、次いで「父親が休んだ」「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」がそれぞれ19.5%となっている。



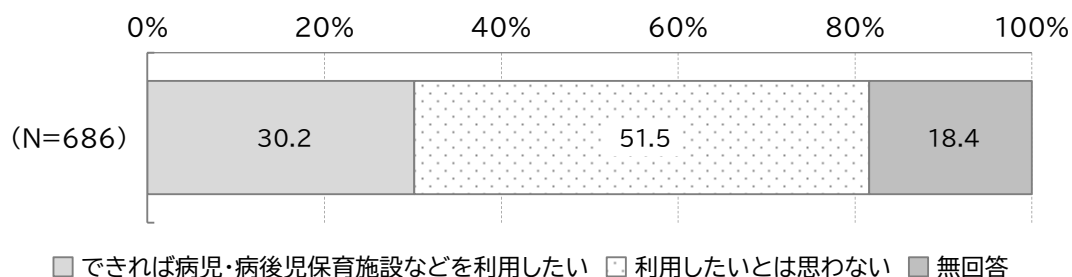
(28) 「できれば病児・病後児のための保育施設(小学生児童は病後期一時託児事業)などを利用したい」と思われましたか。<単数回答>

(就学前児童調査…問 22-2 小学生児童調査…問 18-2)

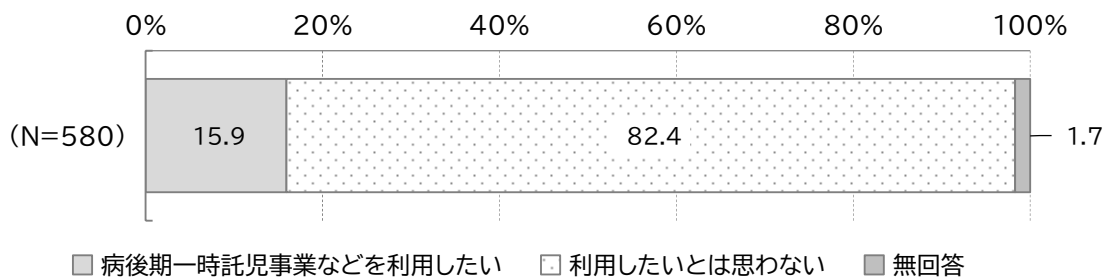
就学前児童では「利用したいとは思わない」が51.5%、「できれば病児・病後児保育施設などを利用したい」が30.2%となっている。また、利用希望日数は「10日以上」が35.7%と最も多く、次いで「5日」が25.6%となっている。

小学生児童も同様の傾向であり、「利用したいとは思わない」が82.4%、「病後期一時託児事業などを利用したい」が15.9%となっている。また、利用希望日数は「2日」が34.8%と最も多く、次いで「3日」が20.7%となっている。

【利用意向\_就学前児童】



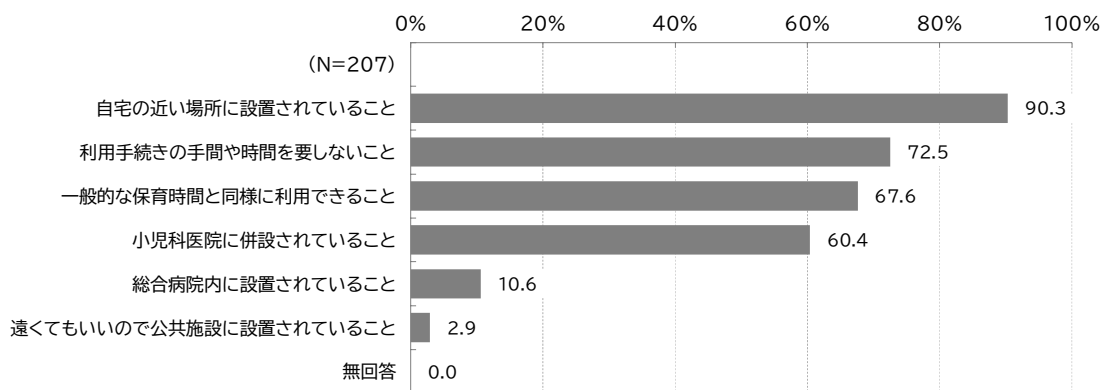
## 【利用意向\_小学生児童】



## (29) 病児・病後児保育施設について、希望する条件はありますか。＜複数回答＞

(就学前児童調査…問 22-3)

「自宅の近い場所に設置されていること」が90.3%と最も多く、次いで「利用手続きの手間や時間を要しないこと」が72.5%、「一般的な保育時間と同様に利用できること」が67.6%となっている。



(30) お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不特定の就労などの目的で不定期に利用している事業はありますか。

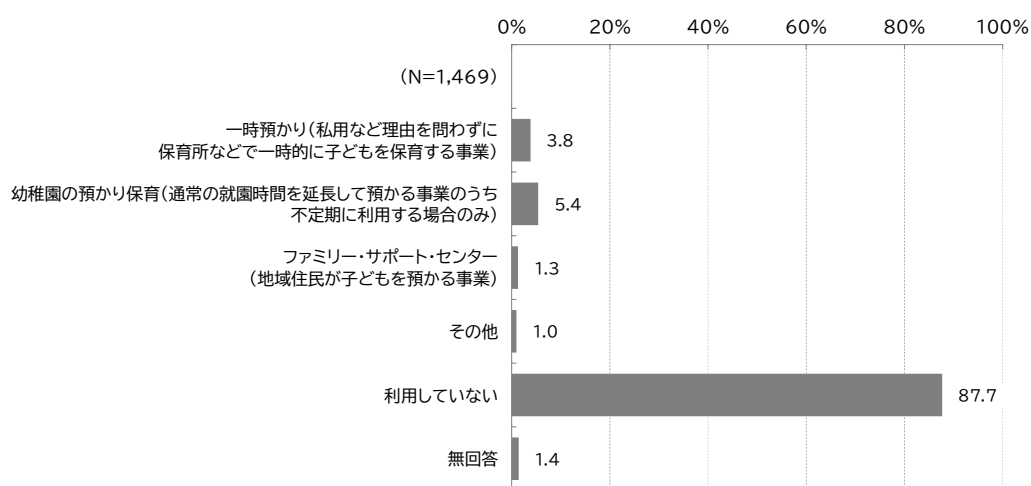
<複数回答・数量回答>

(就学前児童調査…問 23 小学生児童調査…問 19)

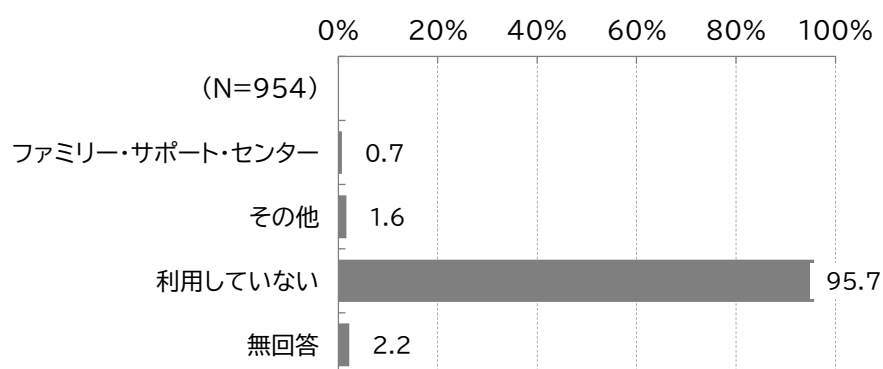
就学前児童では「利用していない」が87.7%と最も多く、次いで「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）」が5.4%、「一時預かり（私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）」が3.8%となっている。

小学生児童では「利用していない」が95.7%と最も多く、次いで「その他」が1.6%、「ファミリー・サポート・センター」が0.7%となっている。

【利用している事業\_就学前児童】



【利用している事業\_小学生児童】



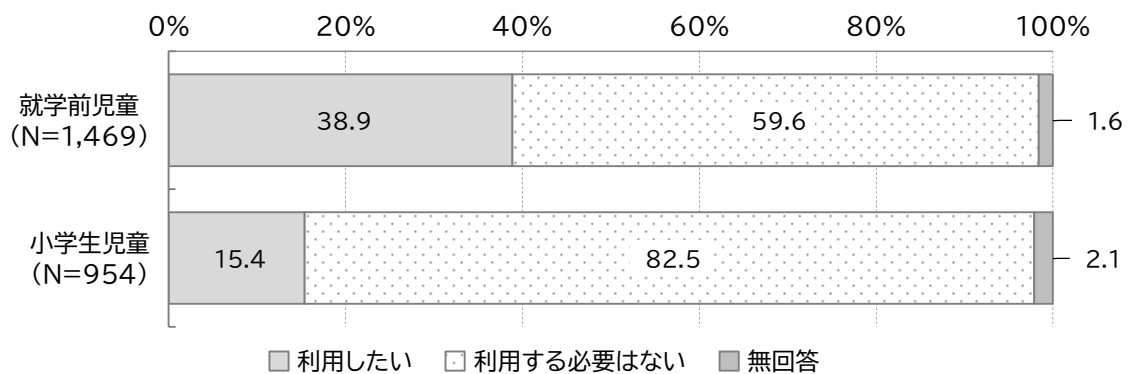
(31) お子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労などの目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。

<単数回答・複数回答・数量回答>

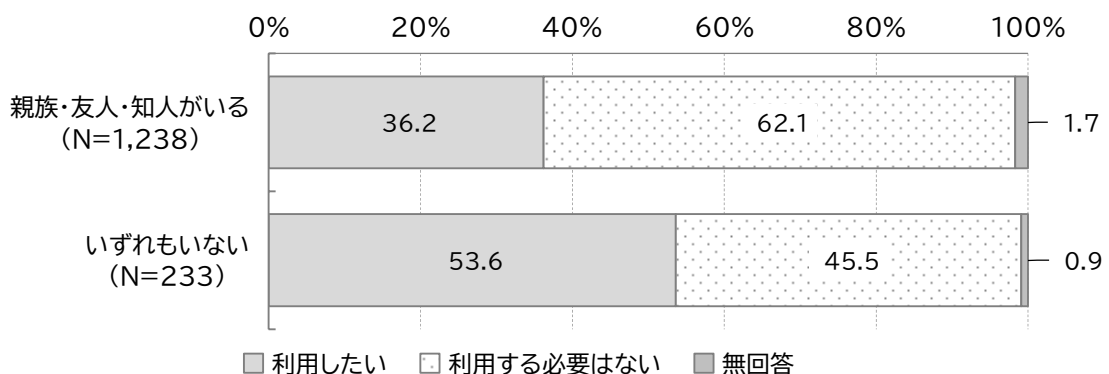
(就学前児童調査…問 24 小学生児童調査…問 20)

就学前児童では「利用する必要はない」が59.6%、「利用したい」が38.9%であり、小学生児童では「利用する必要はない」が82.5%、「利用したい」が15.4%となっている。また、子どもをみてもらえる親族・友人・知人がいない人は「利用したい」が多い傾向にある。

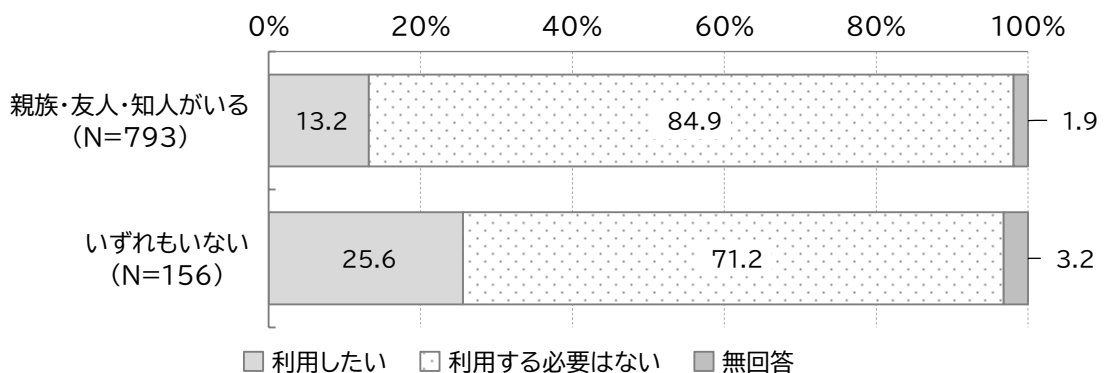
【利用意向】



【子どもをみてもらえる親族・友人・知人の有無\_就学前児童】

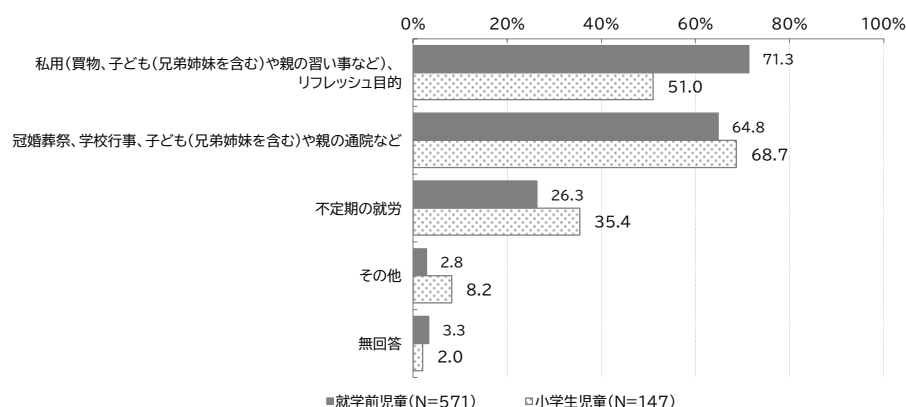


【子どもをみてもらえる親族・友人・知人の有無\_小学生児童】



利用目的について、就学前児童では「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事など）、リフレッシュ目的」が71.3%と最も多く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院など」が64.8%、「不特定の就労」が26.3%となっている。小学生児童では「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院など」が64.8%と最も多く、次いで「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事など）、リフレッシュ目的」が51.0%、「不特定の就労」が35.4%となっている。

### 【利用目的】



(32) 宛名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

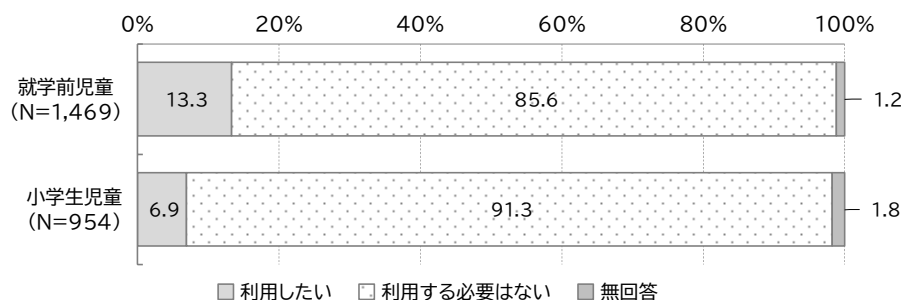
<単数回答・複数回答・数量回答>

(就学前児童調査…問 25 小学生児童調査…問 21)

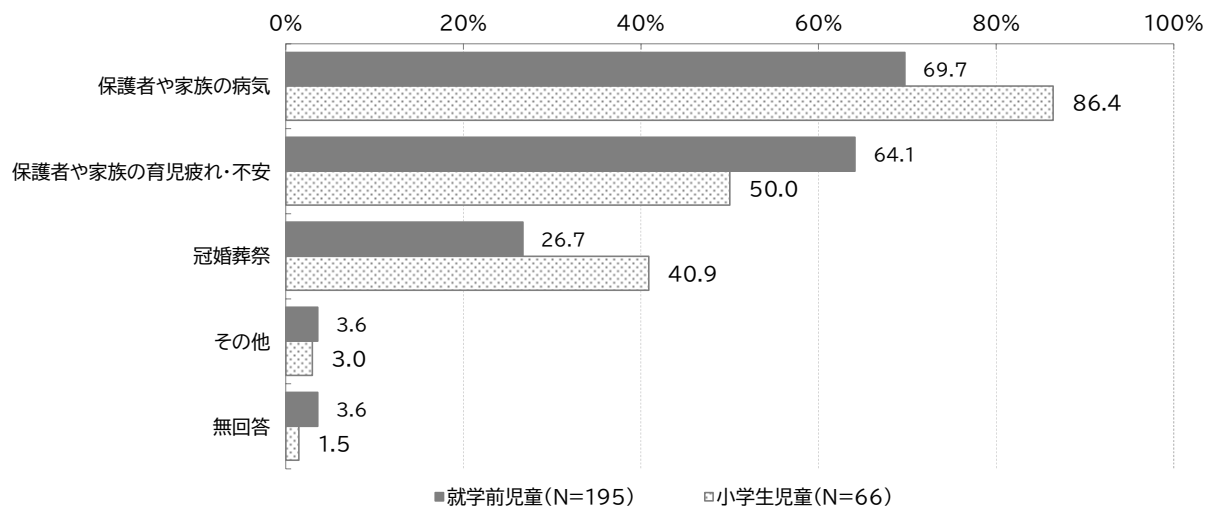
利用意向について、就学前児童では「利用する必要はない」が85.6%、「利用したい」が13.3%となっている。小学生児童では「利用する必要はない」が91.3%、「利用したい」が6.9%となっており、就学前児童に比べて利用する必要性が低い。

利用目的について、就学前児童・小学生児童ともに「保護者や家族の病気」が最も多く、それぞれ69.7%、86.4%となっている。次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安」がそれぞれ64.1%、50.0%となっている。

### 【利用意向】



## 【利用目的】



### (33) 宛名のお子さんについて、小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

<複数回答・数量回答>

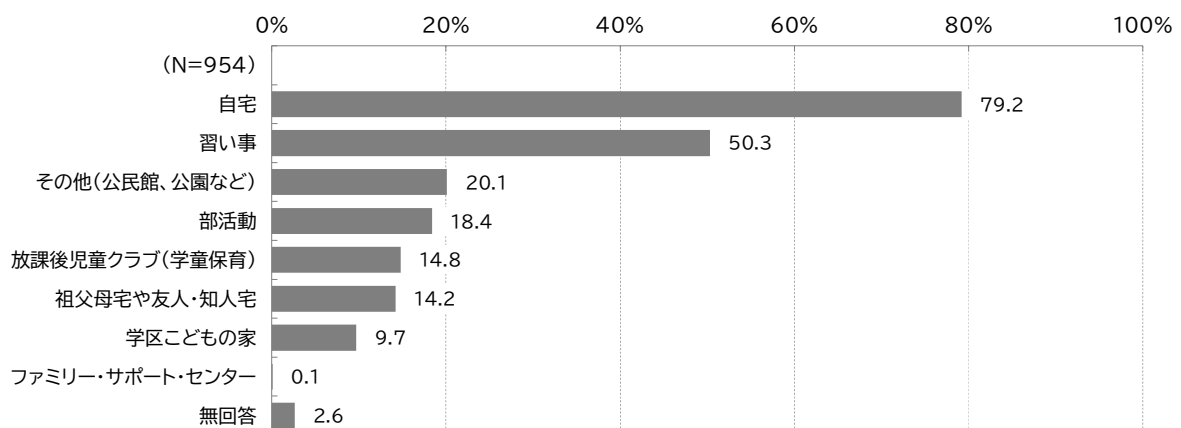
(就学前児童調査…問 26 小学生児童調査…問 22)

小学生児童における現在の過ごし方は「自宅」が79.2%と最も多く、次いで「習い事」が50.3%、「その他（公民館、公園など）」が20.1%となっている。

低学年における希望の放課後の過ごし方は、就学前児童・小学生児童ともに「自宅」が最も多く、それぞれ36.0%、66.6%となっている。次いで、就学前児童では「放課後児童クラブ（学童保育）」が32.5%、小学生児童では「習い事」が45.6%となっている。

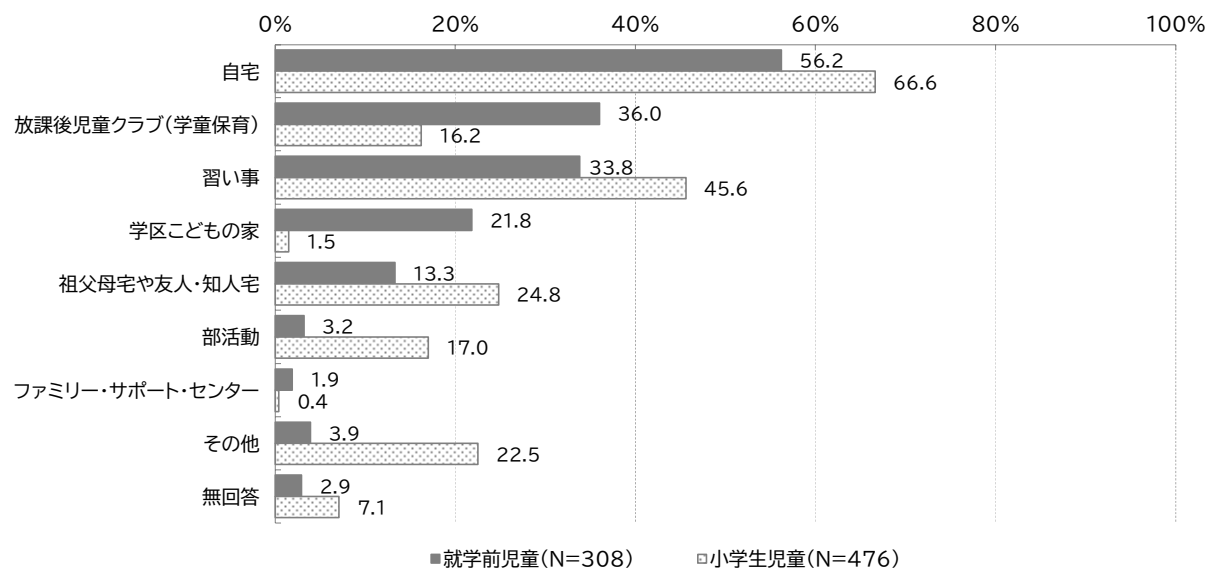
小学校高学年での放課後に過ごさせたい場所について、就学前児童・小学生児童ともに「自宅」が最も多く、それぞれ41.3%、69.7%となっている。また、「部活動」の割合が小学校低学年に対して就学前児童・小学生児童ともに増加している。

## 【現在の過ごし方（小学生児童）】

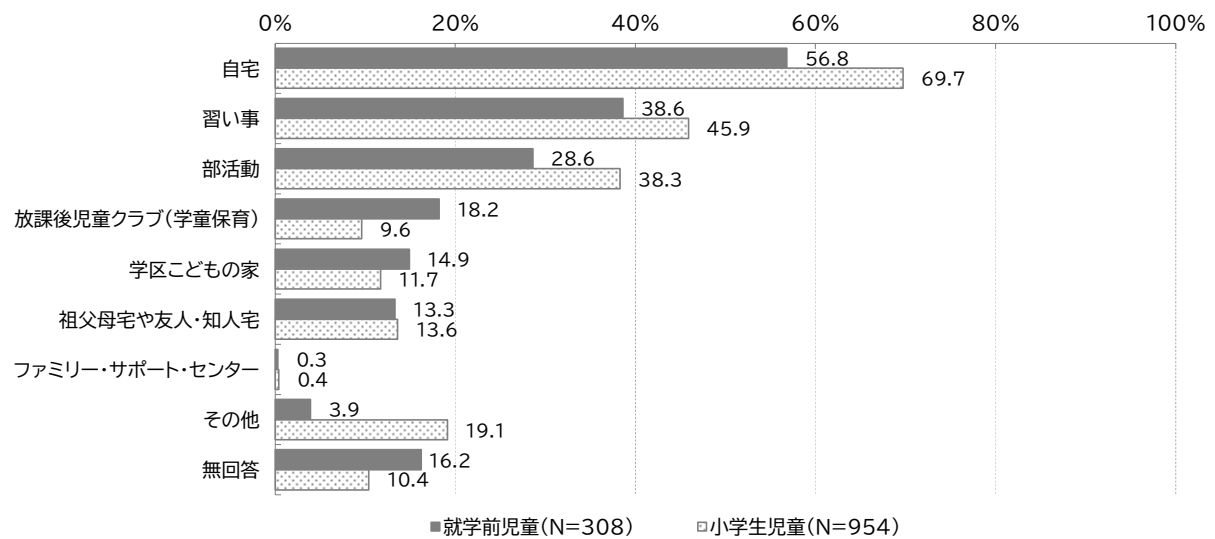




### 【希望の過ごし方\_低学年】



### 【希望の過ごし方\_高学年】



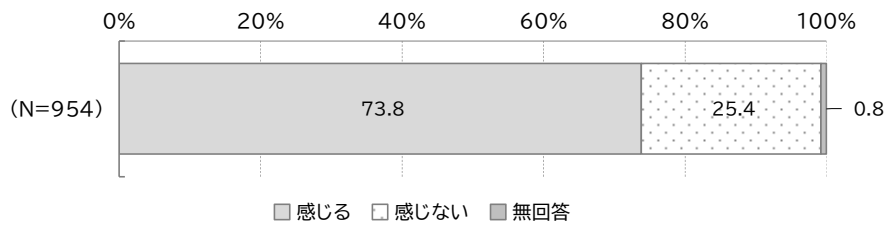
(34) 小学生の子どもが家で1人又はきょうだいだけで過ごすことに不安を感じますか。〈単数回答・数量回答〉

(小学生児童調査…問 23)

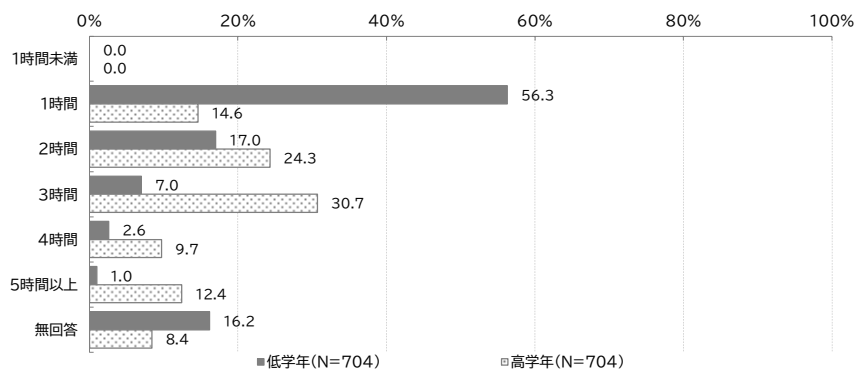
「感じる」が73.8%、「感じない」が25.4%となっている。

留守番させることに不安を感じる時間について、低学年では「1時間」が56.3%と最も多く、次いで「2時間」が17.0%、「3時間」が7.0%となっている。

高学年では「3時間」が30.7%と最も多く、次いで「2時間」が24.3%、「1時間」が14.6%となっている。



【留守番させることに不安を感じる時間】

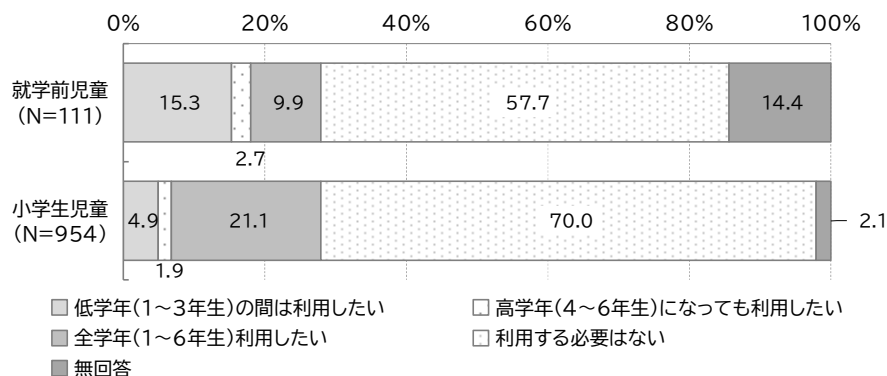


(35) お子さんについて、土曜日、祝日、長期休暇（夏休み・冬休みなど）に、  
放課後児童クラブの利用希望はありますか。＜単数回答・数量回答＞

（就学前児童調査…問 26-1 小学生児童調査…問 24）

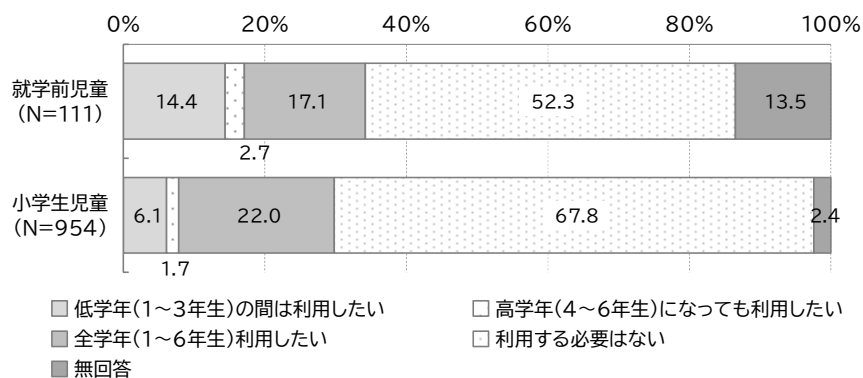
土曜日の利用について、就学前児童・小学生児童ともに「利用する必要はない」が最も多く、それぞれ57.7%、70.0%となっている。次いで就学前児童は「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が15.3%、小学生児童は「全学年（1～6年生）利用したい」が21.1%となっている。

【土曜日】



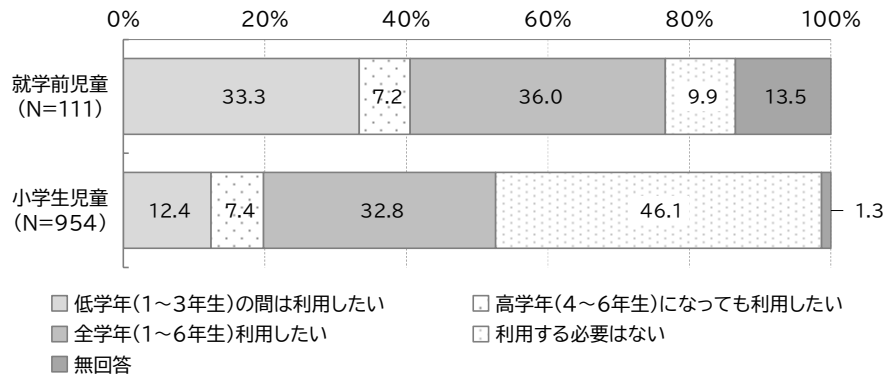
祝日の利用について、就学前児童・小学生児童ともに「利用する必要はない」が最も多く、それぞれ52.3%、67.8%となっている。「全学年（1～6年生）利用したい」がそれぞれ17.1%、22.0%となっている。

【祝日】



長期休暇（夏休み・冬休みなど）の利用について、就学前児童は「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が33.3%、小学生児童は「利用する必要がない」が46.1%と最も多くなっている。

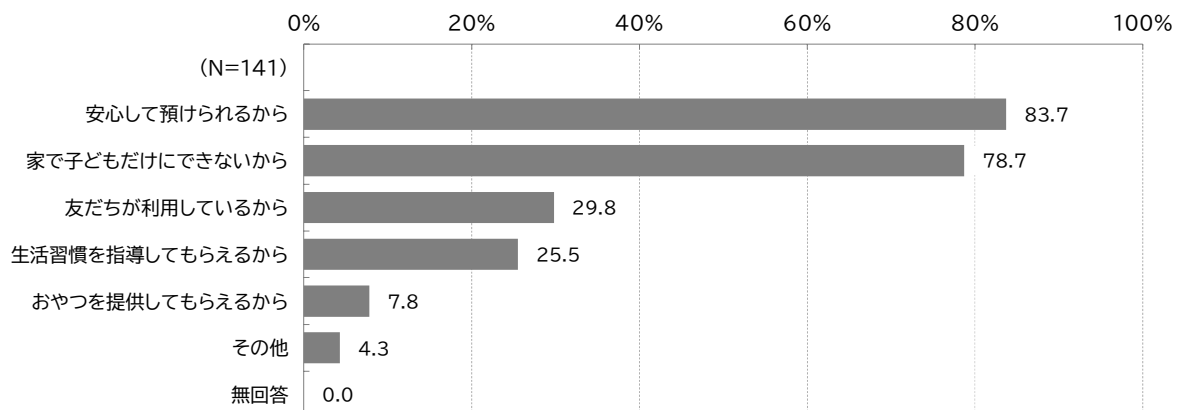
【長期休暇（夏休み・冬休みなど）】



(36) 放課後児童クラブを利用する理由として、当てはまる番号すべてに○をつけてください。＜複数回答＞

(小学生児童調査…問 25)

「安心して預けられるから」が83.7%と最も多く、次いで「家で子どもだけにできないから」が78.7%、「友だちが利用しているから」が29.8%となっている。

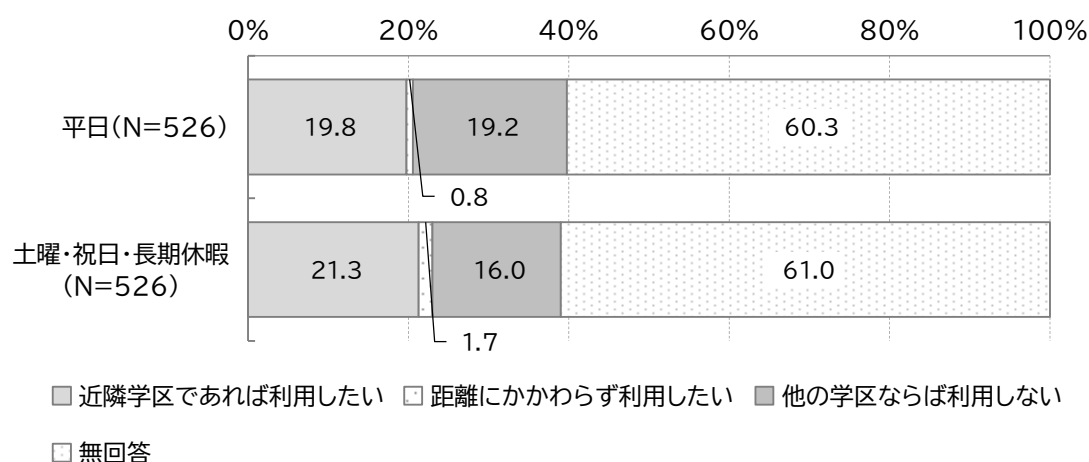


**(37) お住まいの学区の放課後児童クラブが利用できない場合、他の学区の放課後児童クラブを利用したいと思いますか。〈単数回答〉**

(小学生児童調査…問 25-1)

平日では「近隣学区であれば利用したい」が19.8%と最も多く、次いで「他の学区ならば利用しない」が19.2%、「距離にかかわらず利用したい」が0.8%となっている。

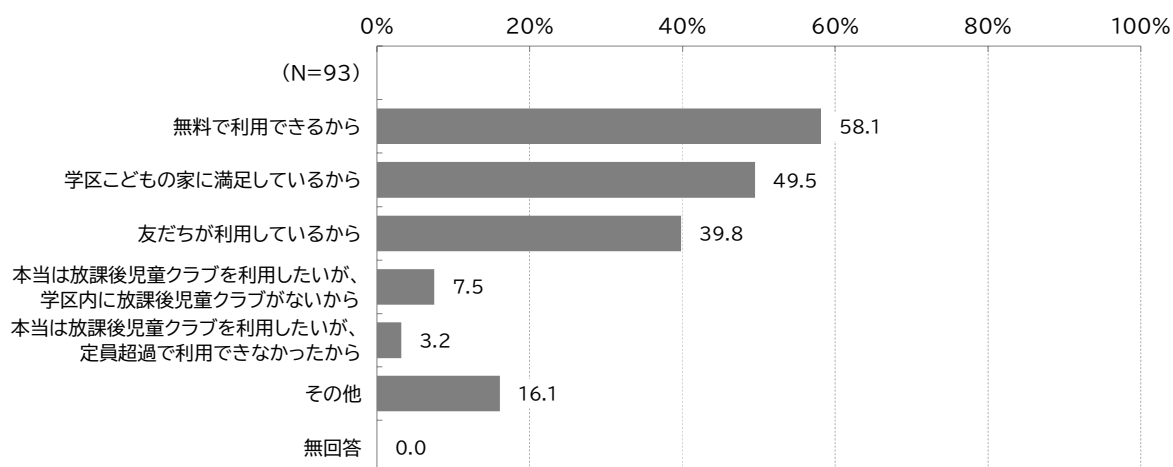
土曜・祝日・長期休暇も同様の傾向であり、「近隣学区であれば利用したい」が21.3%と最も多く、次いで「他の学区ならば利用しない」が16.0%、「距離にかかわらず利用したい」が1.7%となっている。



**(38) 学区こどもの家を利用する理由として、当てはまる番号すべてに○をつけてください。〈複数回答〉**

(小学生児童調査…問 26)

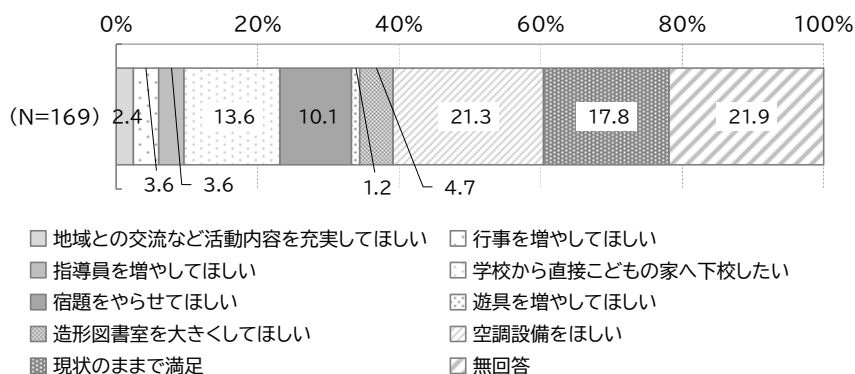
「無料で利用できるから」が58.1%と最も多く、次いで「学区こどもの家に満足しているから」が49.5%、「友だちが利用しているから」が39.8%となっている。



(39) お子さんが学区こどもの家を利用するに当たり、こどもの家の機能として望むものを、当てはまる番号1つに○をつけてください。〈単数回答〉

(小学生児童調査…問 26-1)

「空調設備をほしい」が21.3%と最も多く、次いで「現状のままで満足」が17.8%、「学校から直接こどもの家へ下校したい」が13.6%となっている。

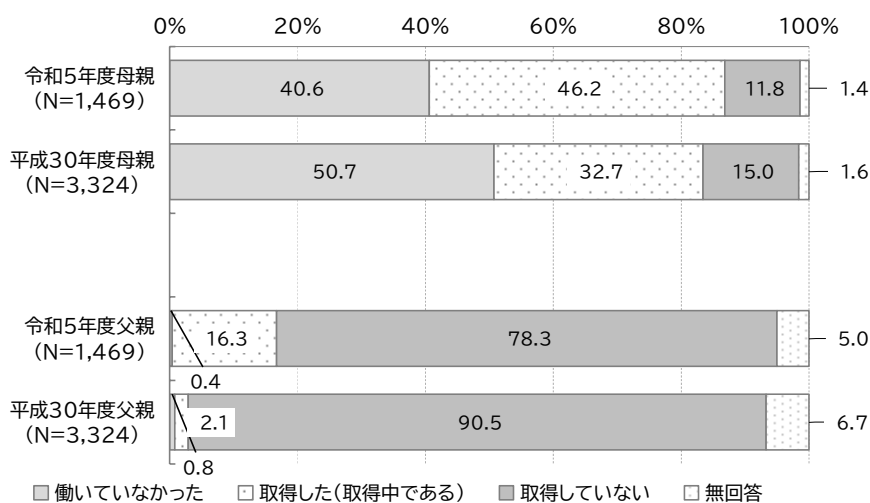


(40) お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 27)

令和5年度の母親では「取得した(取得中である)」が46.2%であり、前回調査時の32.7%に比べて3.5ポイント増加した。

令和5年度の父親では「取得した(取得中である)」が16.3%であり、母親に比べて依然低い水準となっているが、前回調査時の2.1%に比べて14.2ポイント増加した。また、「取得していない」が78.3%であり、前回調査時の90.5%に比べて11.7ポイント減少した。

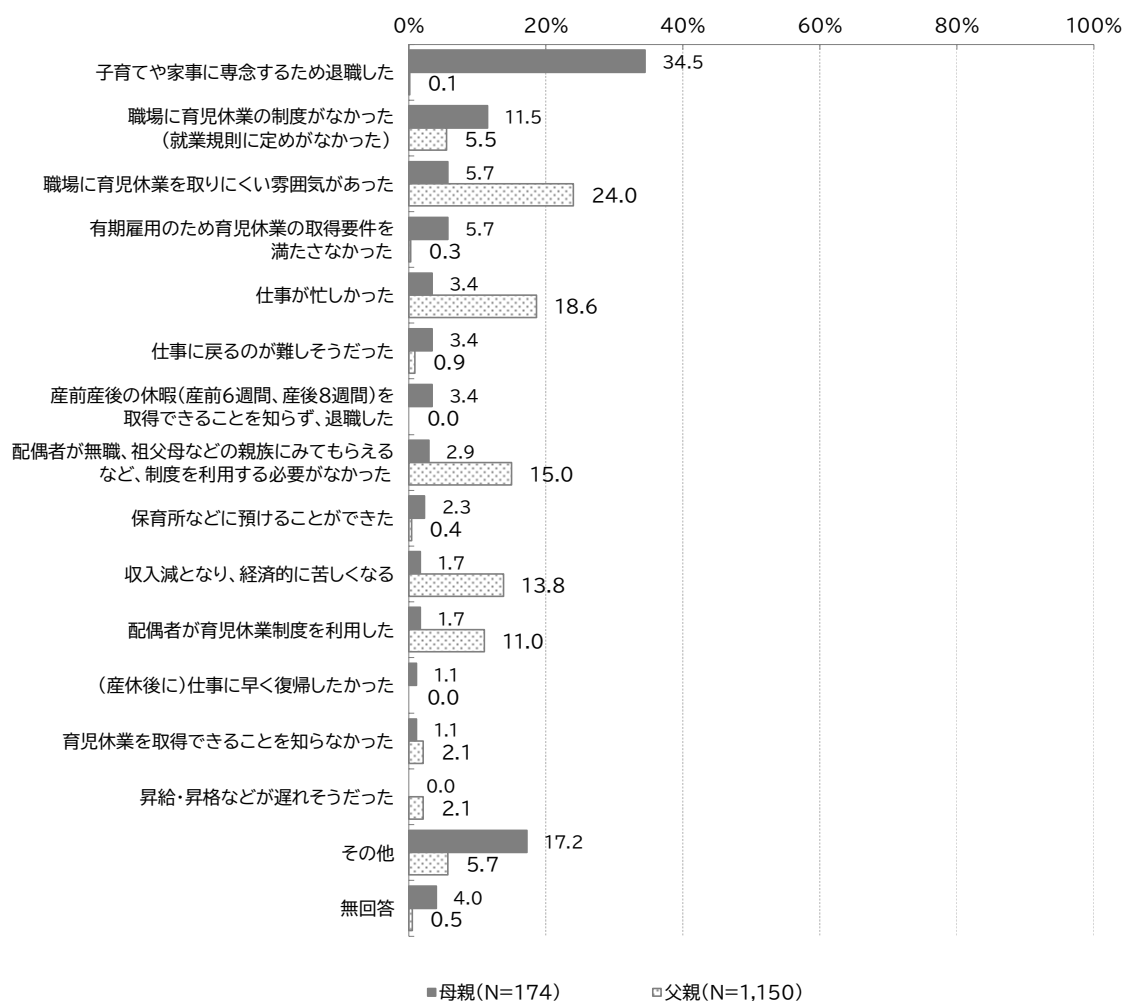


## (41) 育児休業を取得していない理由<複数回答>

(就学前児童調査…問 27-1)

母親は「子育てや家事に専念するため退職した」が34.5%と最も多く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が11.5%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」がそれぞれ5.7%となっている。

父親は「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が24.0%と最も多く、次いで「仕事が忙しかった」が18.6%、「配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が15.0%となっている。

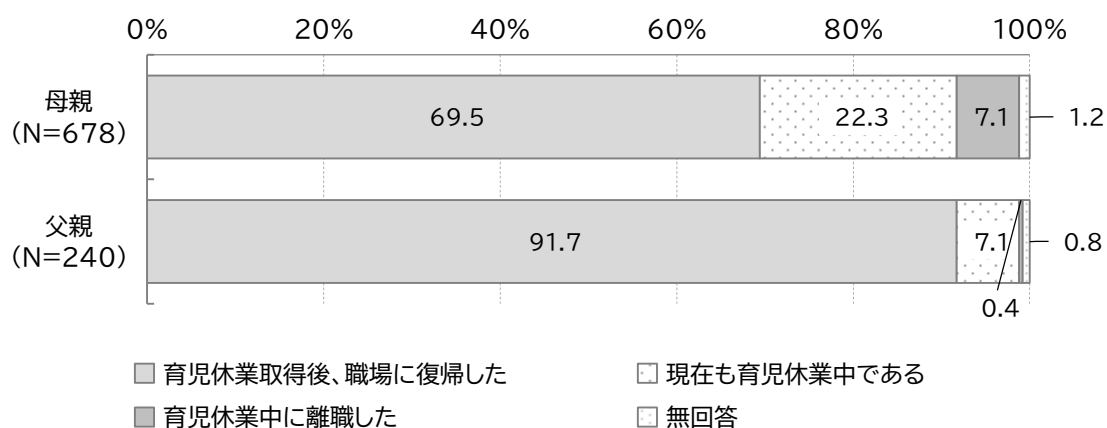


## (42) 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 27-2)

母親は「育児休業取得後、職場に復帰した」が69.5%と最も多く、次いで「現在も育児休業中である」が22.3%、「育児休業中に離職した」が7.1%となっている。

父親は「育児休業取得後、職場に復帰した」が91.7%と最も多く、次いで「現在も育児休業中である」が7.1%、「育児休業中に離職した」が0.4%となっている。

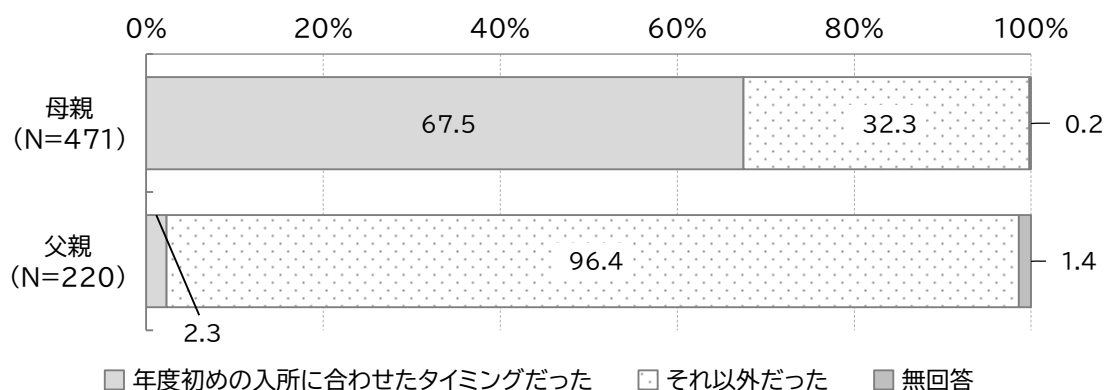


## (43) 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 27-3)

母親は「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が67.5%、「それ以外だった」が32.3%となっている。

父親は「それ以外だった」が96.4%、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が2.3%となっている。





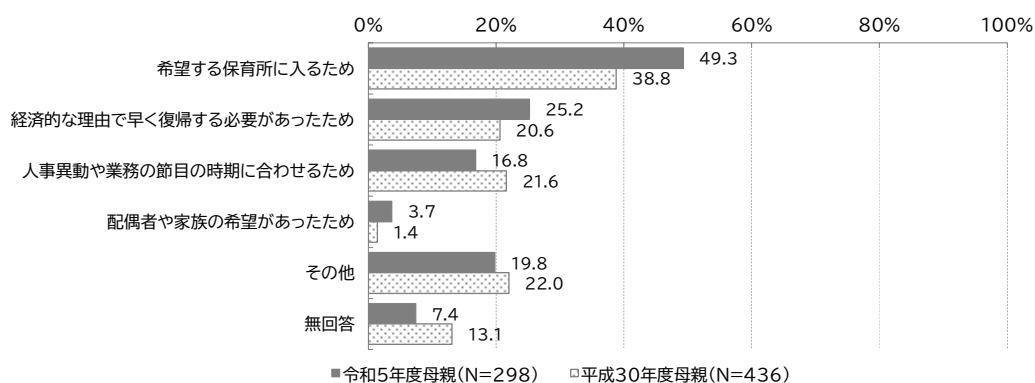
#### (44) 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。〈複数回答〉

(就学前児童調査…問 27-6)

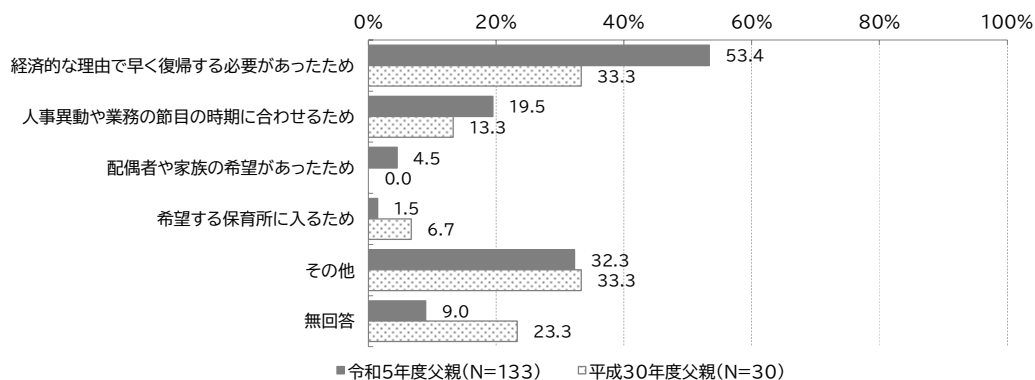
母親は「希望する保育所に入るため」が49.3%と最も多く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が25.2%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が16.8%となっている。

父親は「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が53.4%と最も多く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が19.5%となっている。

#### 【「希望」より早く復帰した方\_母親】

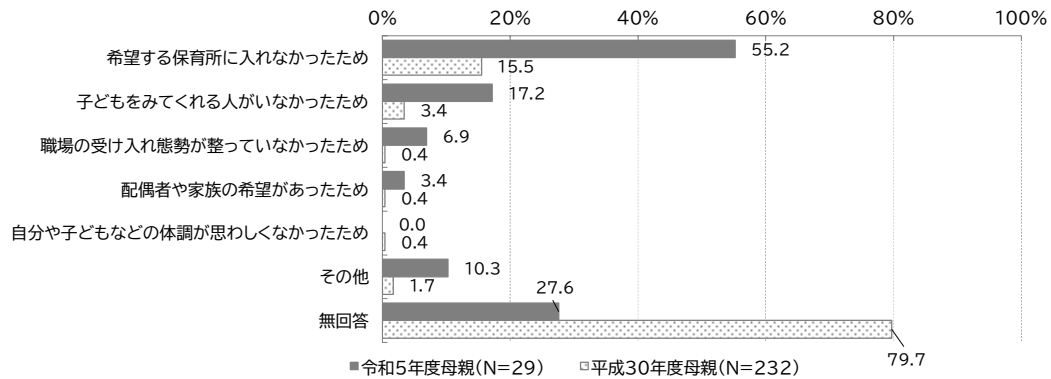


#### 【「希望」より早く復帰した方\_父親】

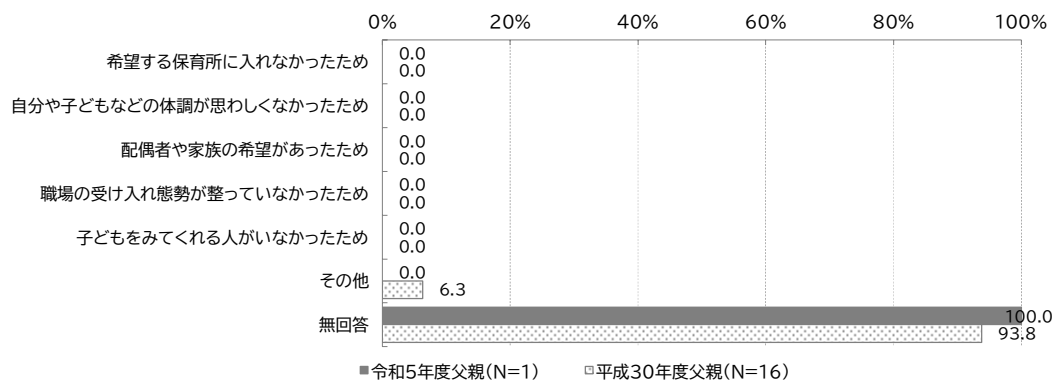


母親は「希望する保育所に入れなかったため」が55.2%と最も多く、次いで「子どもをみてくれる人がいなかったため」が17.2%となっている。これらは前回調査時と比べて大幅に増加している。

### 【「希望」より遅く復帰した方\_母親】



### 【「希望」より早く復帰した方\_父親】

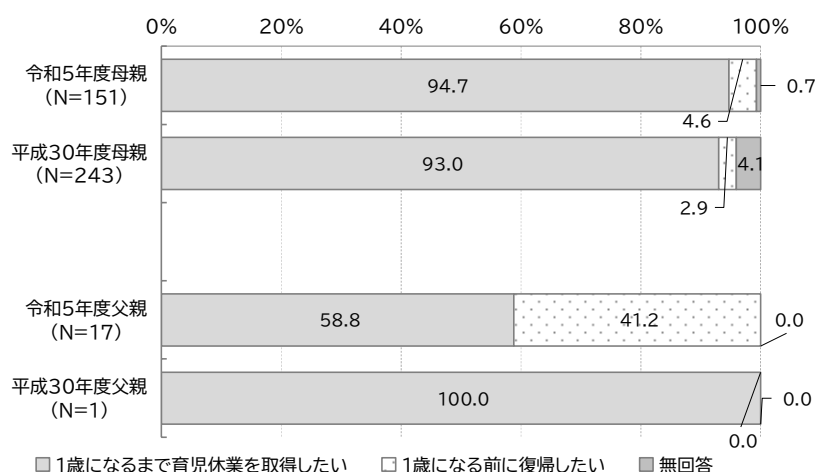


(45) お子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。又は、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。＜単数回答＞

(就学前児童調査…問 27-7)

母親は「1歳になるまで育児休業を取得したい」が94.7%、「1歳になる前に復帰したい」が4.6%であり、前回調査時とほぼ同様の傾向となっている。

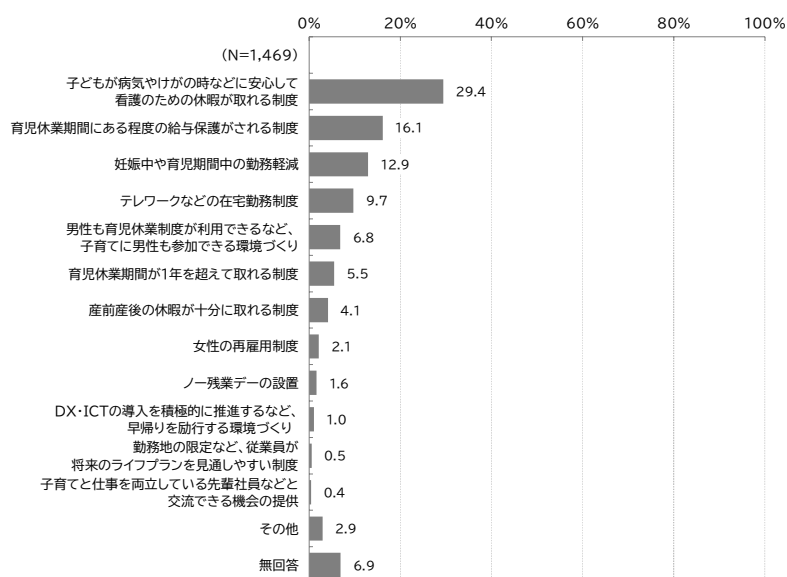
父親は「1歳になるまで育児休業を取得したい」が58.8%、「1歳になる前に復帰したい」が41.2%となっている。



(46) 子育てと仕事の両立のために、職場にどのようなことを望みますか。＜複数回答＞

(就学前児童調査…問 28)

「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」が29.4%と最も多く、次いで「育児休業期間にある程度の給与と保護がされる制度」が16.1%、「妊娠中や育児期間中の勤務軽減」が12.9%となっている。



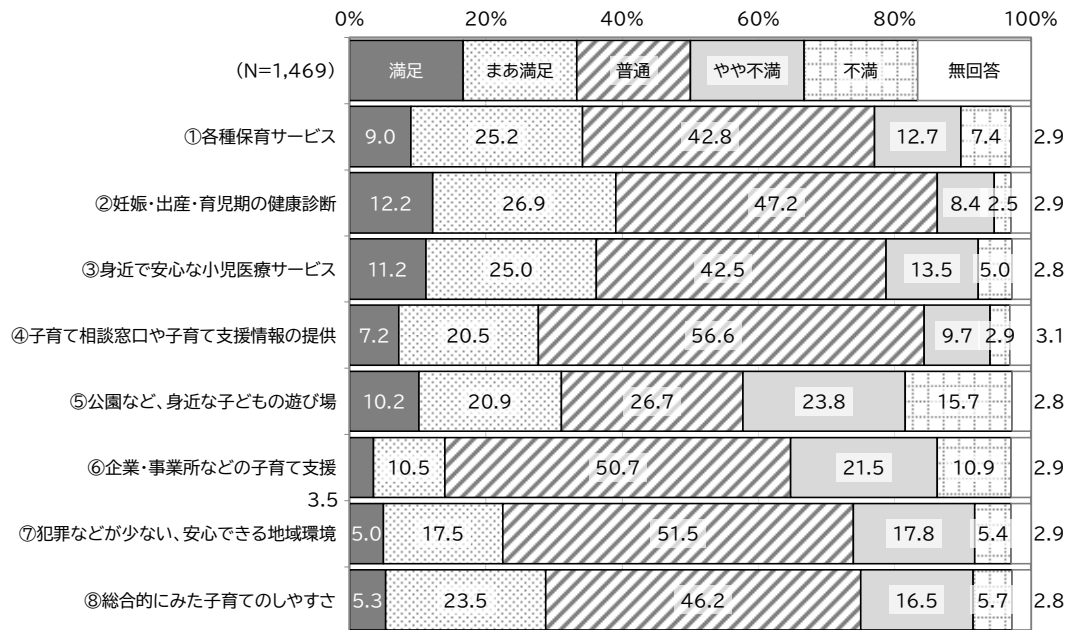
(47) 岡崎市における以下のような分野について満足していますか。〈単数回答〉

(就学前児童調査…問 31 小学生児童調査…問 27)

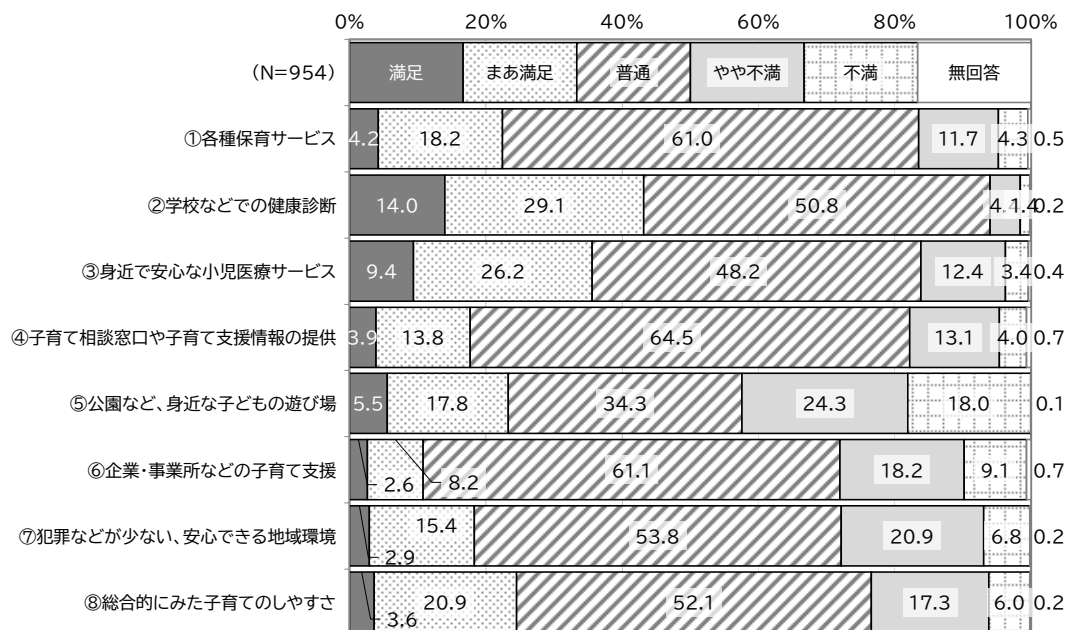
就学前児童について、「満足」と「まあ満足」の合計は「②妊娠・出産・育児期の健康診断」が39.1%、小学生児童については「②学校などでの健康診断」が43.1%と最も多い。

その一方で、「不満」と「やや不満」の合計は、就学前児童・小学生児童ともに「⑤公園など、身近な子どもの遊び場」がそれぞれ39.5%、42.3%となっている。

【就学前児童】



【小学生児童】

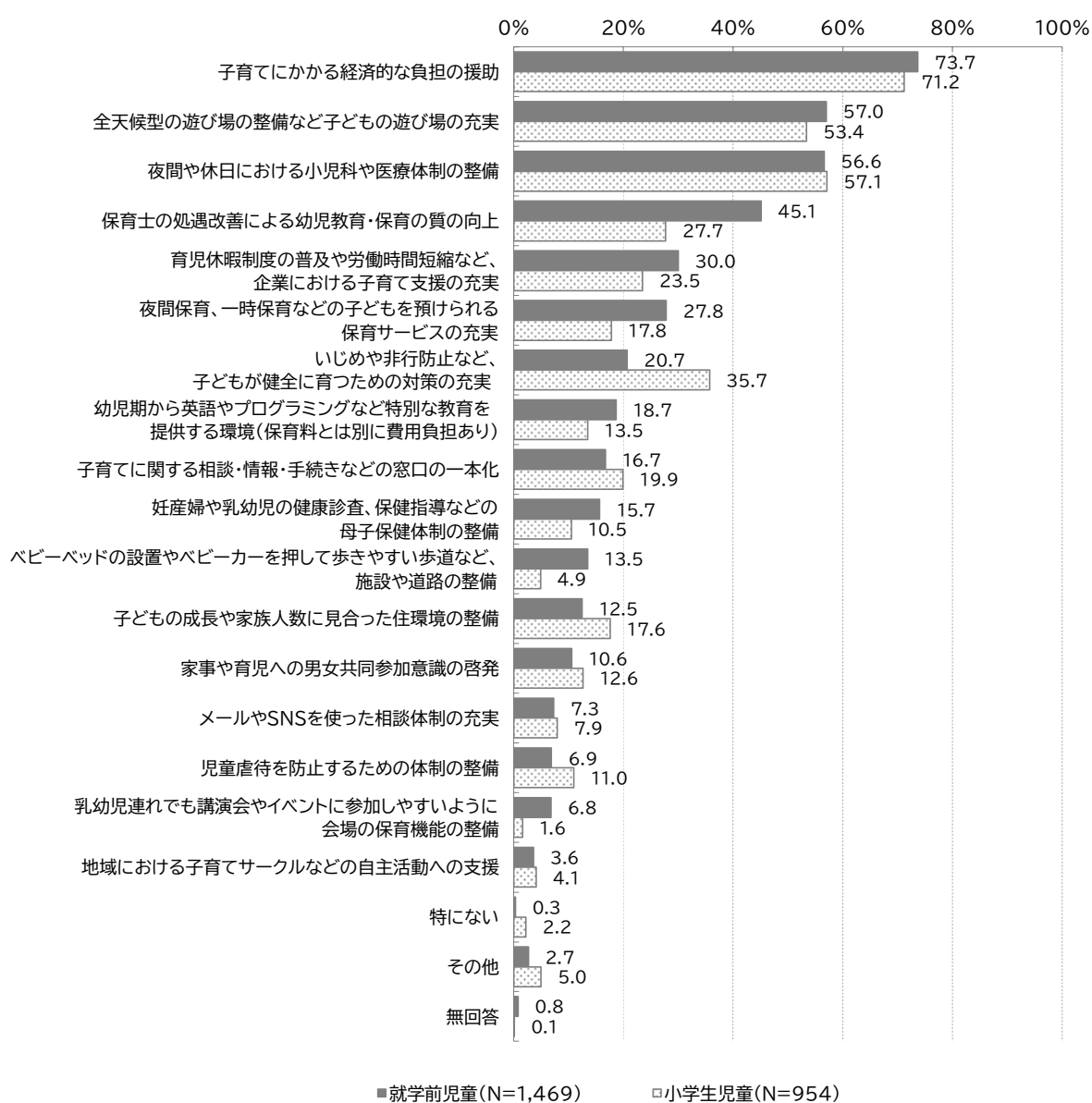


## (48) 子どもを安心して産み育てられる環境のために、市に対してどのような施策を期待しますか。＜複数回答＞

(就学前児童調査…問 32 小学生児童調査…問 28)

就学前児童では「子育てにかかる経済的な負担の援助」が73.7%と最も多く、次いで「全天候型の遊び場の整備など子どもの遊び場の充実」が57.0%、「夜間や休日における小児科や医療体制の整備」が56.6%となっている。

小学生児童では「子育てにかかる経済的な負担の援助」が71.2%と最も多く、次いで「夜間や休日における小児科や医療体制の整備」が57.1%、「全天候型の遊び場の整備など子どもの遊び場の充実」が53.4%、となっている。

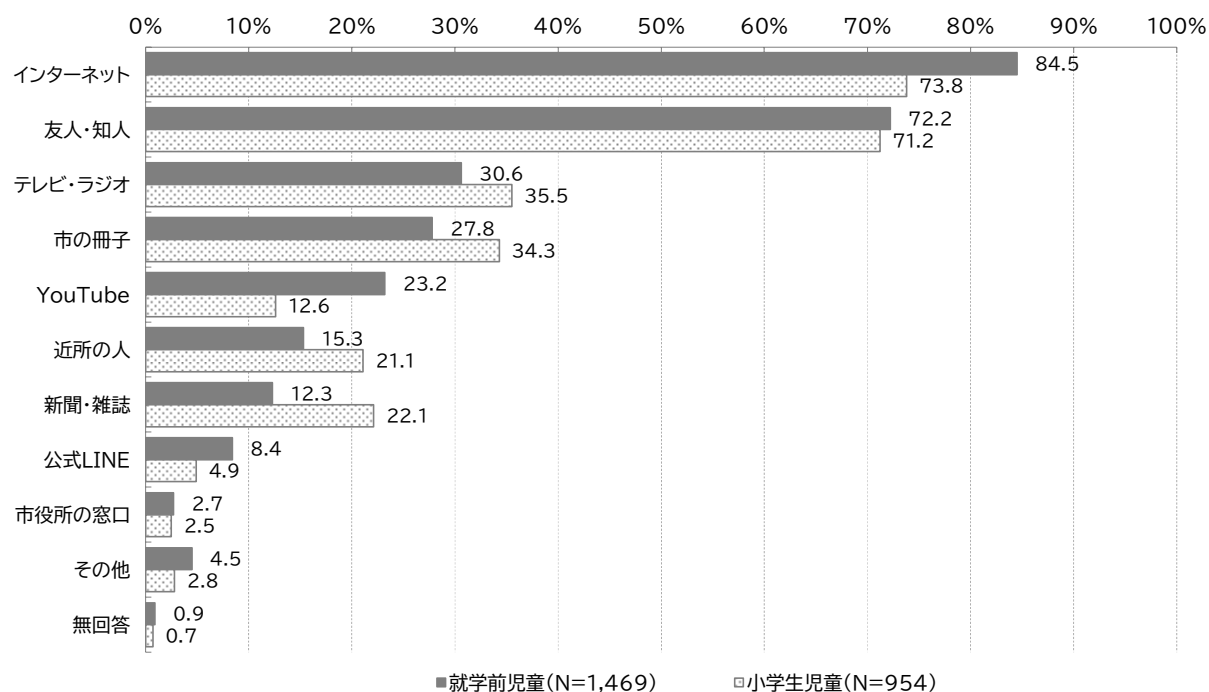


(49) あなたは、どのような方法で子育てに関する情報を収集していますか。

<複数回答>

(就学前児童調査…問 33 小学生児童調査…問 29)

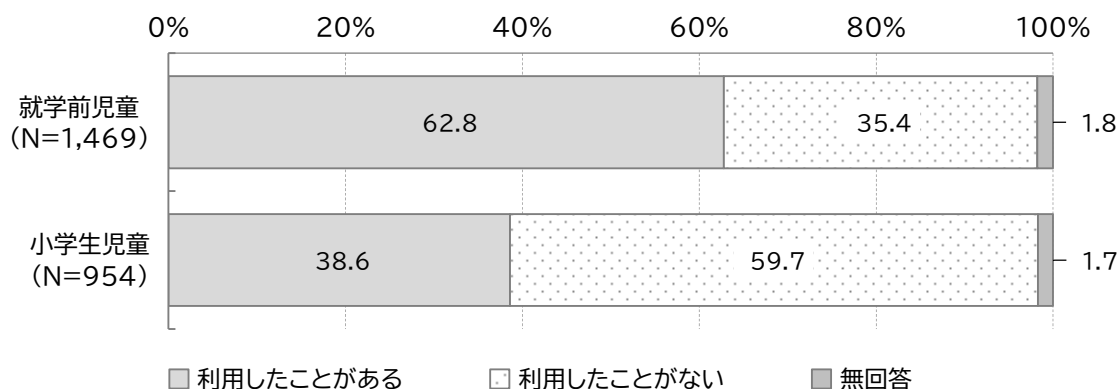
就学前児童・小学生児童ともに「インターネット」が最も多く、それぞれ84.5%、73.8%となっている。次いで「友人・知人」がそれぞれ72.2%、71.2%となっている。



(50) あなたは、インターネットやアプリを使った子育てサービスを利用したことがありますか。<単数回答>

(就学前児童調査…問 34 小学生児童調査…問 30)

就学前児童では「利用したことがある」が62.8%であるのに対し、小学生児童は「利用したことがない」が59.7%となっている。

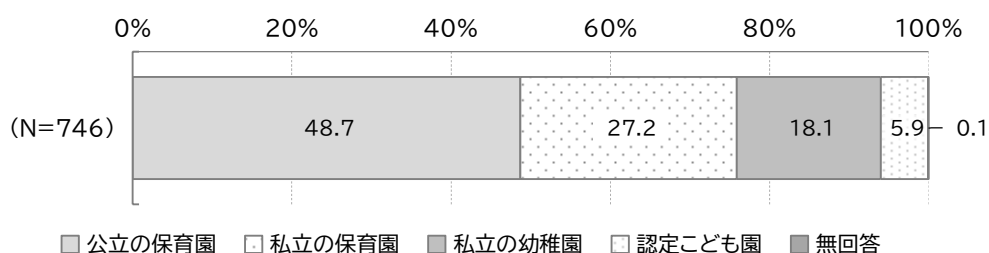


## Ⅱ. 調査結果（保育園・幼稚園・認定こども園職員）

### （１）あなたの勤務地は次のうちどれですか。＜単数回答＞

（園職員調査…問１）

「公立の保育園」が48.7%、「私立の保育園」が27.2%、「私立の幼稚園」が18.1%、「認定こども園」が5.9%となっている。

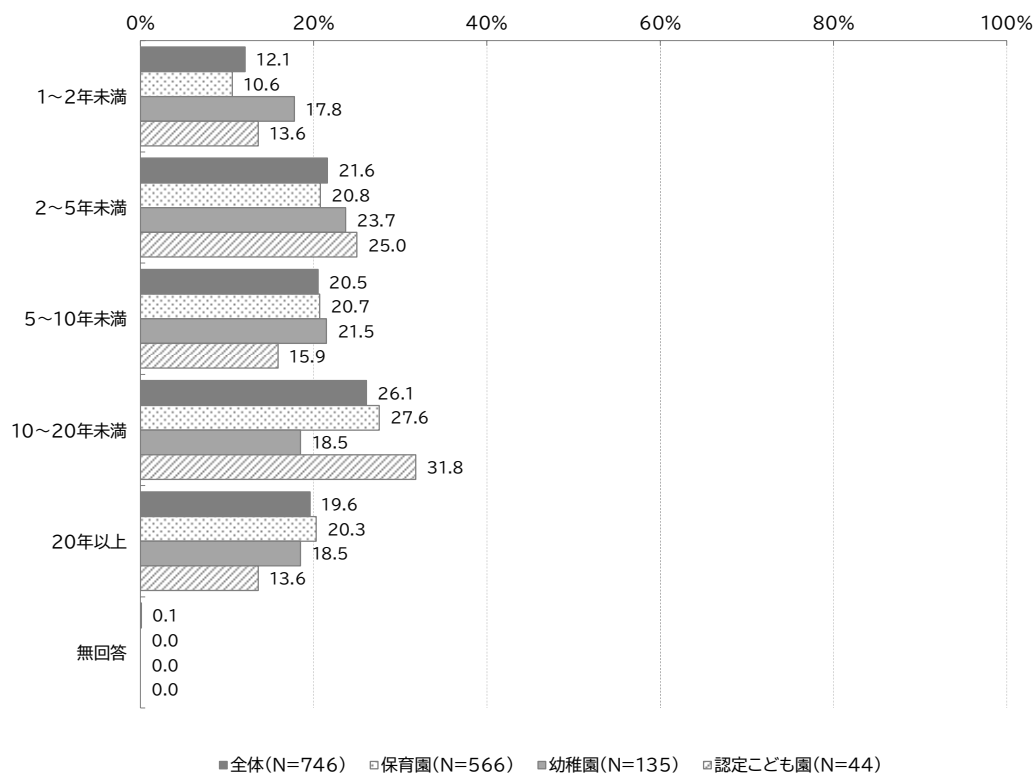


### （２）保育園・幼稚園・認定こども園での保育経験年数は次のうちどれですか。

＜単数回答＞

（園職員調査…問２）

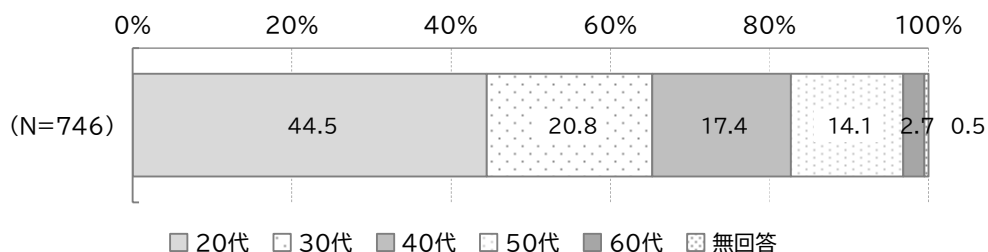
保育園・認定こども園では「10～20年未満」がそれぞれ27.6%、31.8%、幼稚園は「2～5年未満」が23.7%と最も多い。



### (3) 現在の年齢は、次のうちどれですか。〈単数回答〉

(園職員調査…問3)

「20代」が44.5%と最も多く、次いで「30代」が20.8%、「40代」が17.4%となっている。

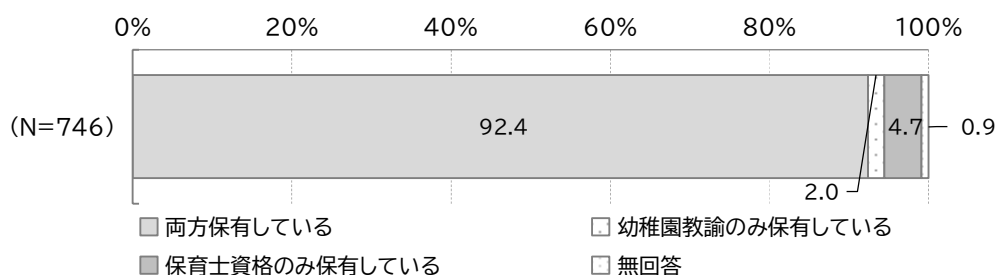


### (4) 現在、幼稚園教諭免許及び保育士資格の両方を保有していますか。

〈単数回答〉

(園職員調査…問4)

「両方保有している」が92.4%と最も多く、次いで「保育士資格のみ保有している」が4.7%、「幼稚園教諭のみ保有している」が2.0%となっている。

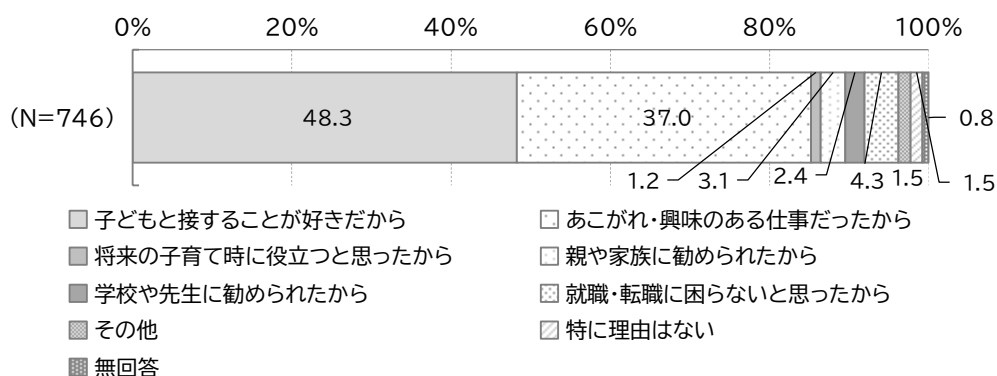


### (5) あなたが幼稚園教諭免許や保育士資格を取得した理由は何ですか。

〈単数回答〉

(園職員調査…問5)

「子どもと接することが好きだから」が48.3%と最も多く、次いで「あこがれ・興味のある仕事だったから」が37.0%、「就職・転職に困らないと思ったから」が4.3%となっている。

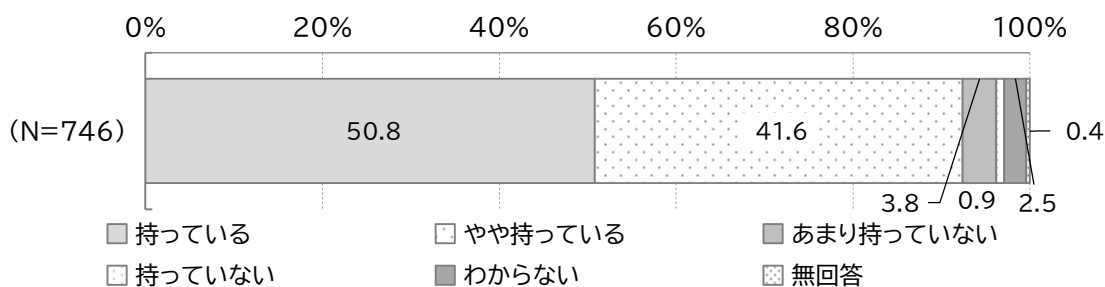




(6) 保育園・幼稚園・認定こども園の仕事にやりがいや充実感を持っていますか。〈単数回答〉

(園職員調査…問6)

「持っている」が50.8%と最も多く、次いで「やや持っている」が41.6%、「あまり持っていない」が3.8%となっている。

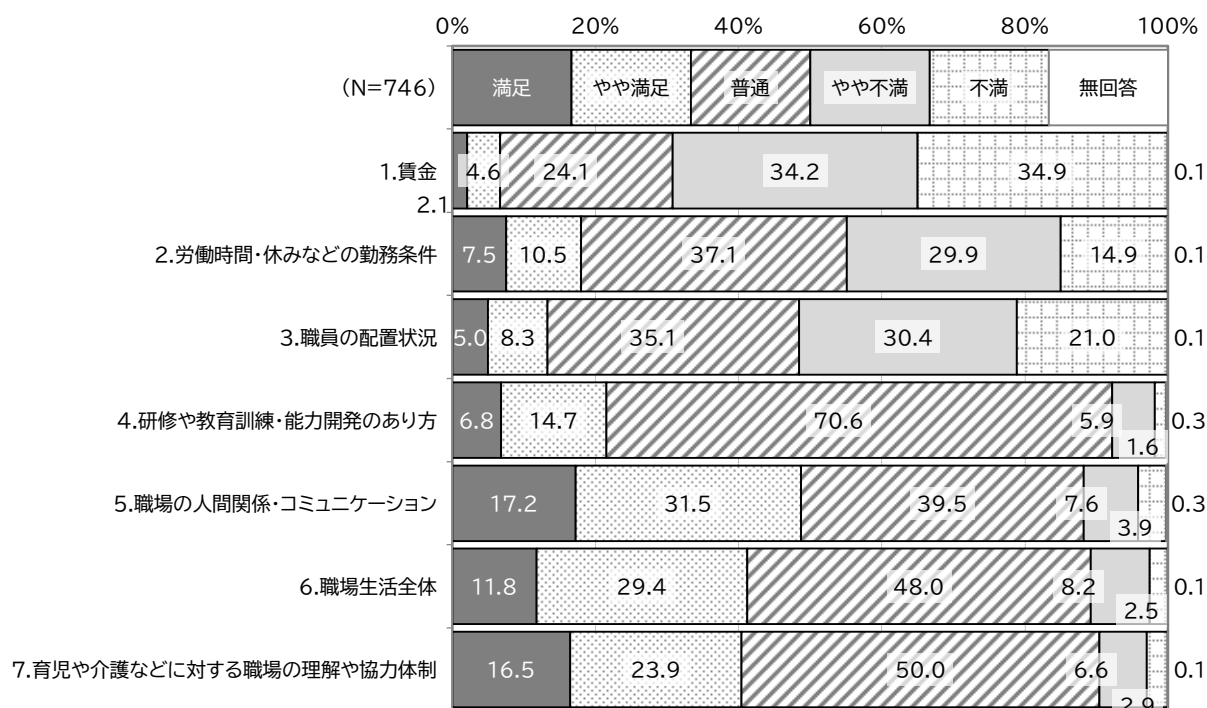


(7) 現在の仕事の満足度についてうかがいます。〈単数回答〉

(園職員調査…問7)

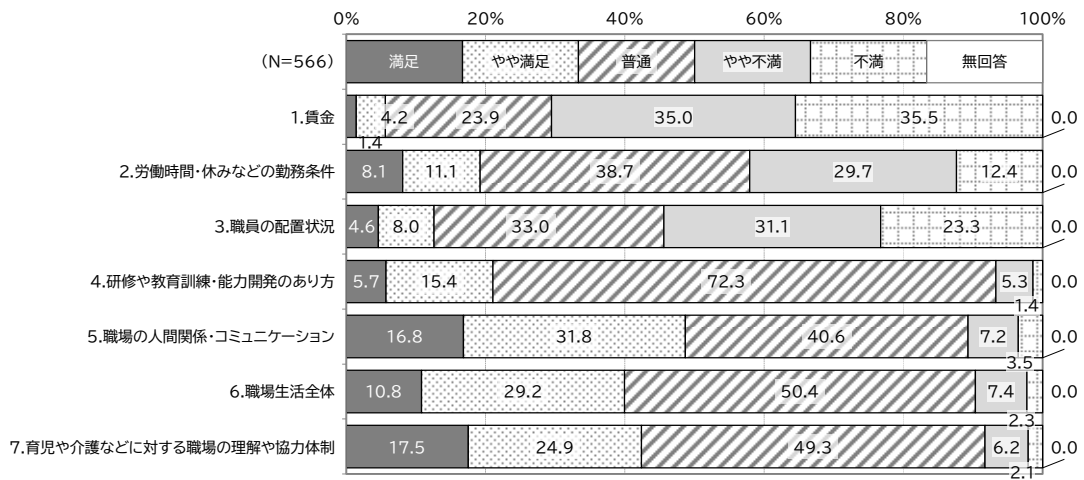
「満足」と「やや満足」の合計は、「5. 職場の人間関係・コミュニケーション」が48.7%と最も高い。その一方で、「1. 賃金」が6.7%となっている。

「職員の配置状況」では私立の方が公立に比べてやや多い。

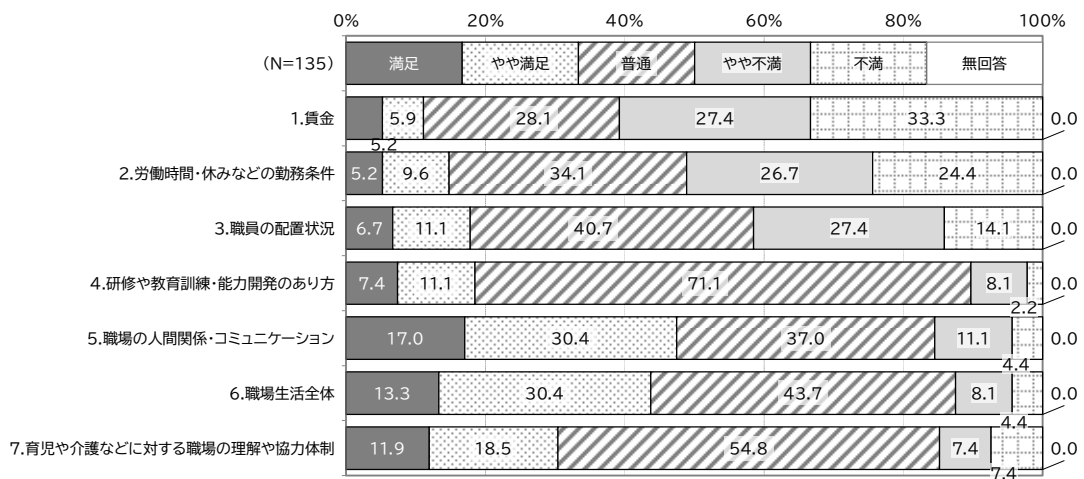


勤務地別について、認定こども園では「5. 職場の人間関係・コミュニケーション」がほかよりもやや高い。その一方で、「1. 賃金」の「不満」と「やや不満」が高い。

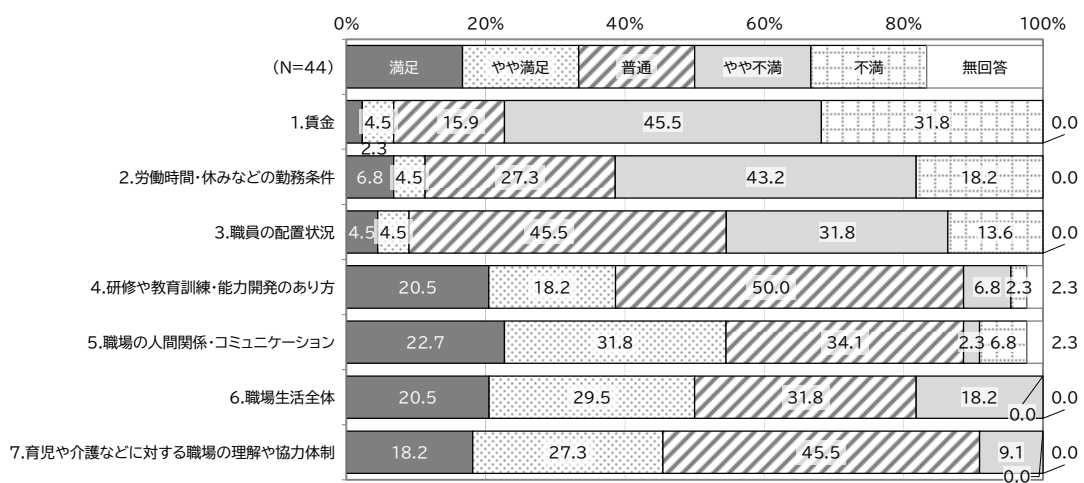
### 【保育園】



### 【幼稚園】



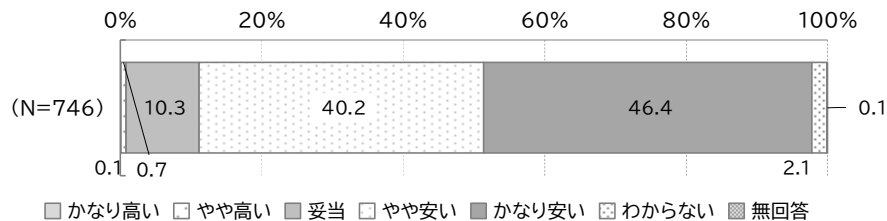
### 【認定こども園】



(8) 業務内容と比較した給与について、どう感じていますか。〈単数回答〉

(園職員調査…問9)

「かなり安い」が46.4%と最も多く、次いで「やや安い」が40.2%、「妥当」が10.3%となっている。

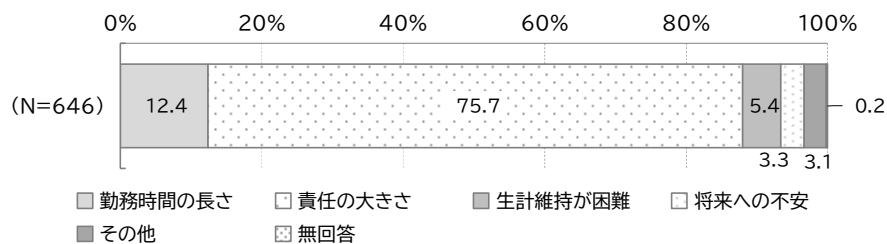


(9) (賃金が安い理由) そのように思われた最も大きな理由は何ですか。

〈単数回答〉

(園職員調査…問9-1)

「責任の大きさ」が75.7%と最も多く、次いで「勤務時間の長さ」が12.4%、「生計維持が困難」が5.4%となっている。

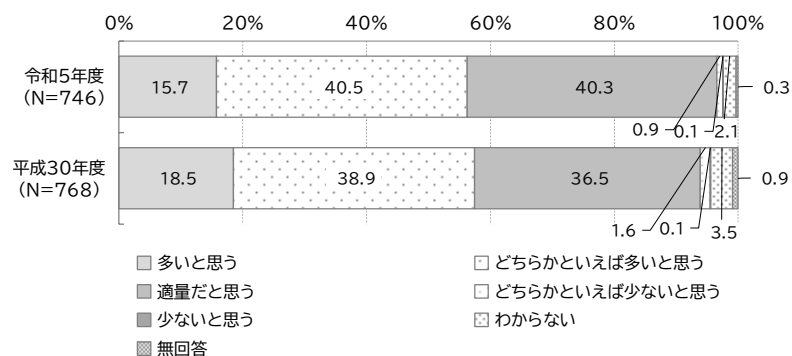


(10) あなたに任されている現在の業務量は適量だと思いますか。〈単数回答〉

(園職員調査…問10)

「どちらかといえば多いと思う」が40.5%と最も多く、次いで「適量だと思う」が40.3%、「多いと思う」が15.7%となっている。

勤務地別について、幼稚園では「多いと思う」と「どちらかといえば多いと思う」の合計がほかよりもやや高い。また、経験年数が高まるにつれて業務量を多いと感じている傾向にある。

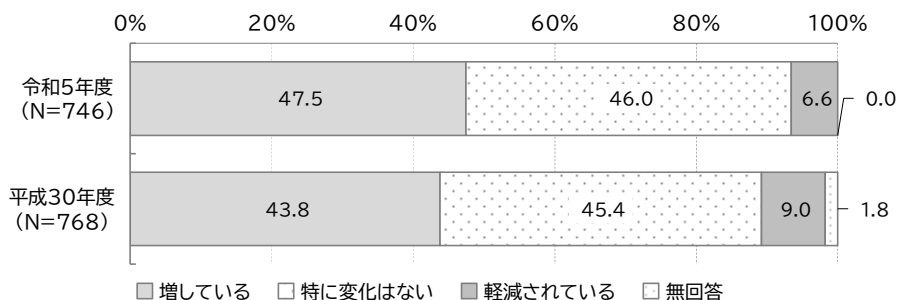


## (11) ここ数年の間で、あなたの業務負担は増していますか。〈単数回答〉

(園職員調査…問 11)

「増している」が47.5%と最も多く、次いで「特に変化はない」が46.0%、「軽減されている」が6.6%となっている。

勤務地別について、幼稚園では「増している」がほかよりもやや高い。また、経験年数が高まるにつれて業務量が増していると感じる傾向にある。

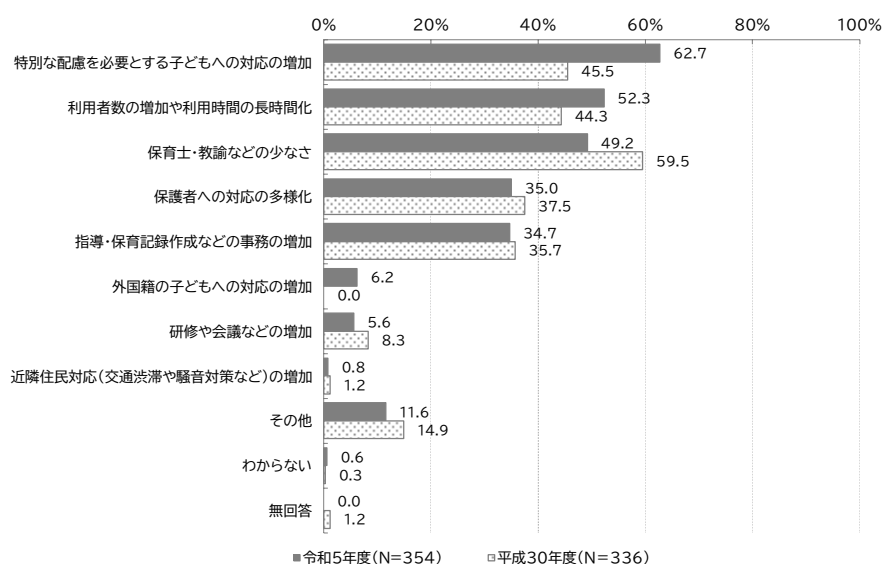


## (12) 業務負担が増してきた原因は何だと思いますか。〈複数回答〉

(園職員調査…問 11-1)

「特別な配慮を必要とする子どもへの対応の増加」が62.7%と最も多く、次いで「利用者数の増加や利用時間の長時間化」が52.3%、「保育士・教諭などの少なさ」が49.2%となっている。

前回調査時と比べて、「保育士・教諭などの少なさ」が10.3ポイント減少したが、「特別な配慮を必要とする子どもへの対応の増加」が17.2ポイント増加した。

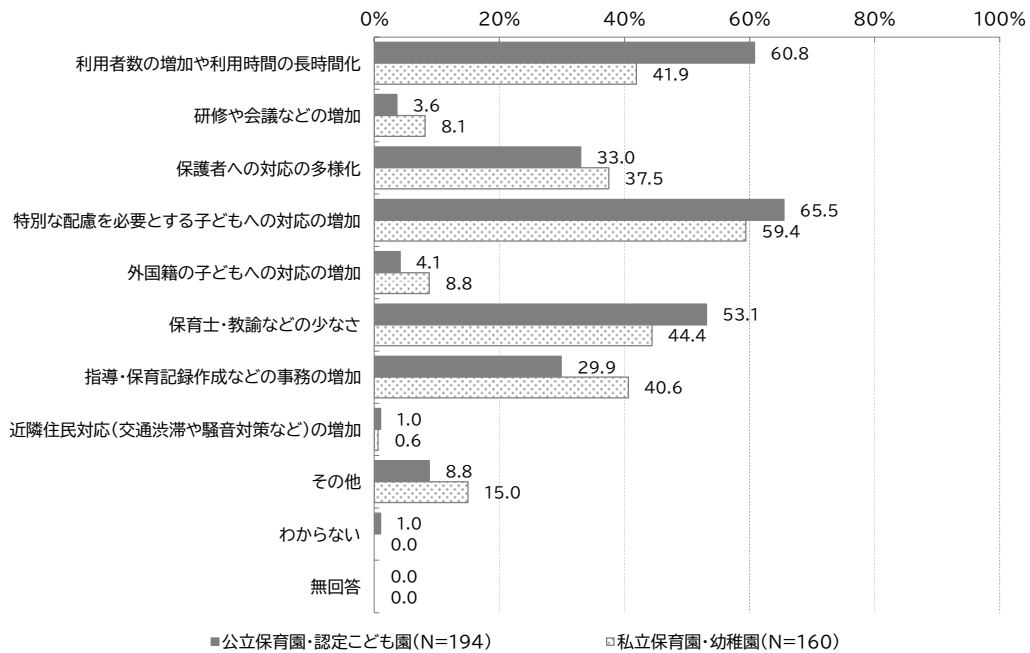


※平成30年度調査では「外国籍の子どもへの対応の増加」の選択肢なし。

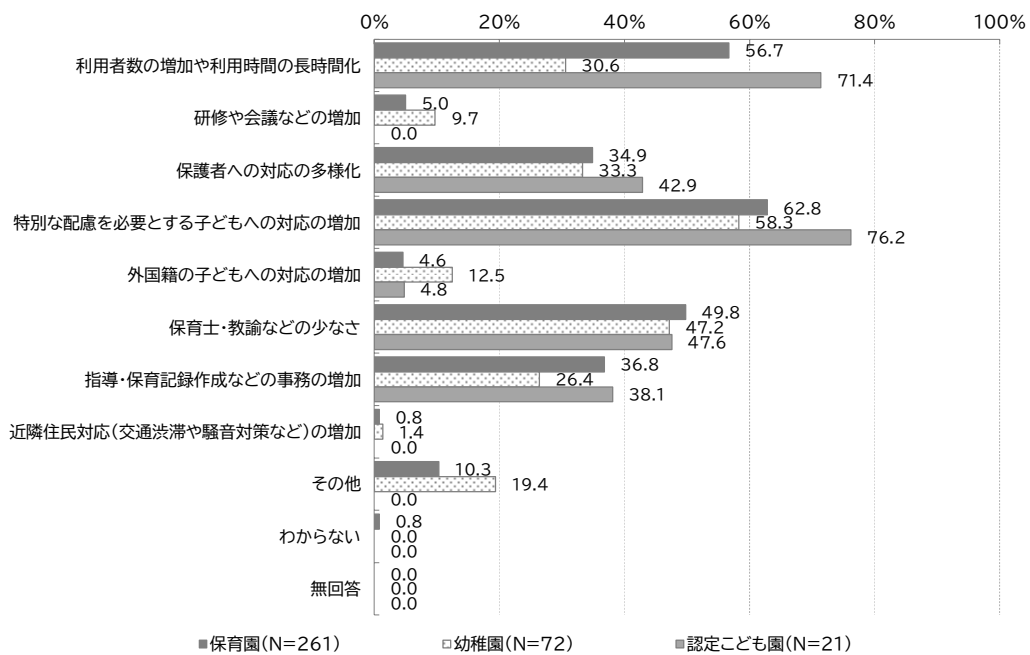
公立・私立ともに「特別な配慮を必要とする子どもへの対応の増加」「利用者数の増加や利用時間の長時間化」「保育士・教諭などの少なさ」が多い。

勤務地別では「特別な配慮を必要とする子どもへの対応の増加」が最も多い。また、認定こども園は「利用者数の増加や利用時間の長時間化」がほかの勤務地に比べて多い。

### 【公立・私立別】



### 【勤務地別】



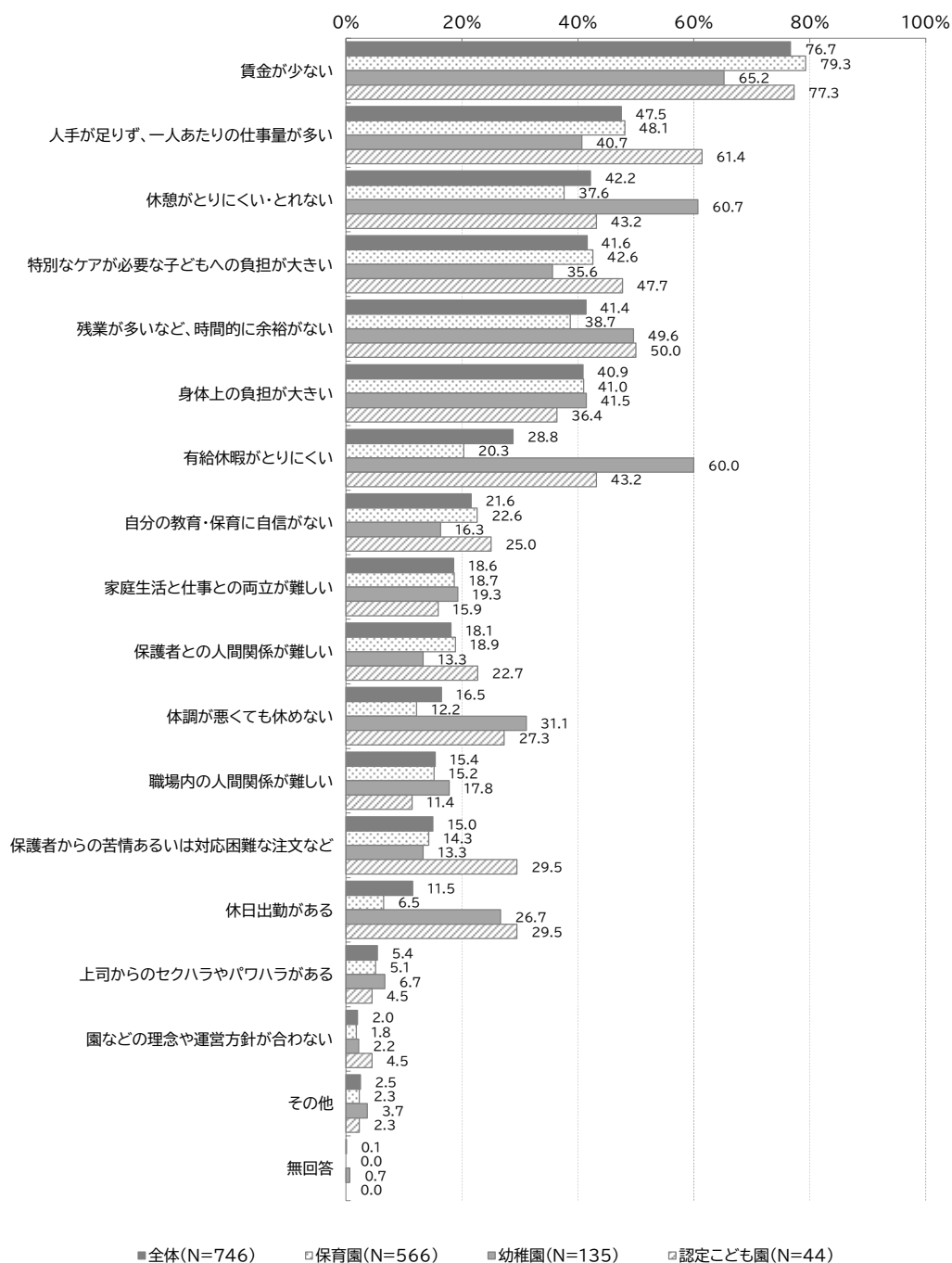
### (13) 労働条件・仕事の負担に関して以下のような悩み・不満などはありますか。

<複数回答>

(園職員調査…問 12)

全体では「賃金が少ない」が76.7%と最も多く、次いで「人手が足りず、一人あたりの仕事量が多い」が47.5%、「休憩がとりにくい・とれない」が42.2%となっている。

また、「人手が足りず、一人あたりの仕事量が多い」は認定こども園、「休憩がとりにくい・とれない」「有給休暇がとりにくい」は幼稚園で多い。

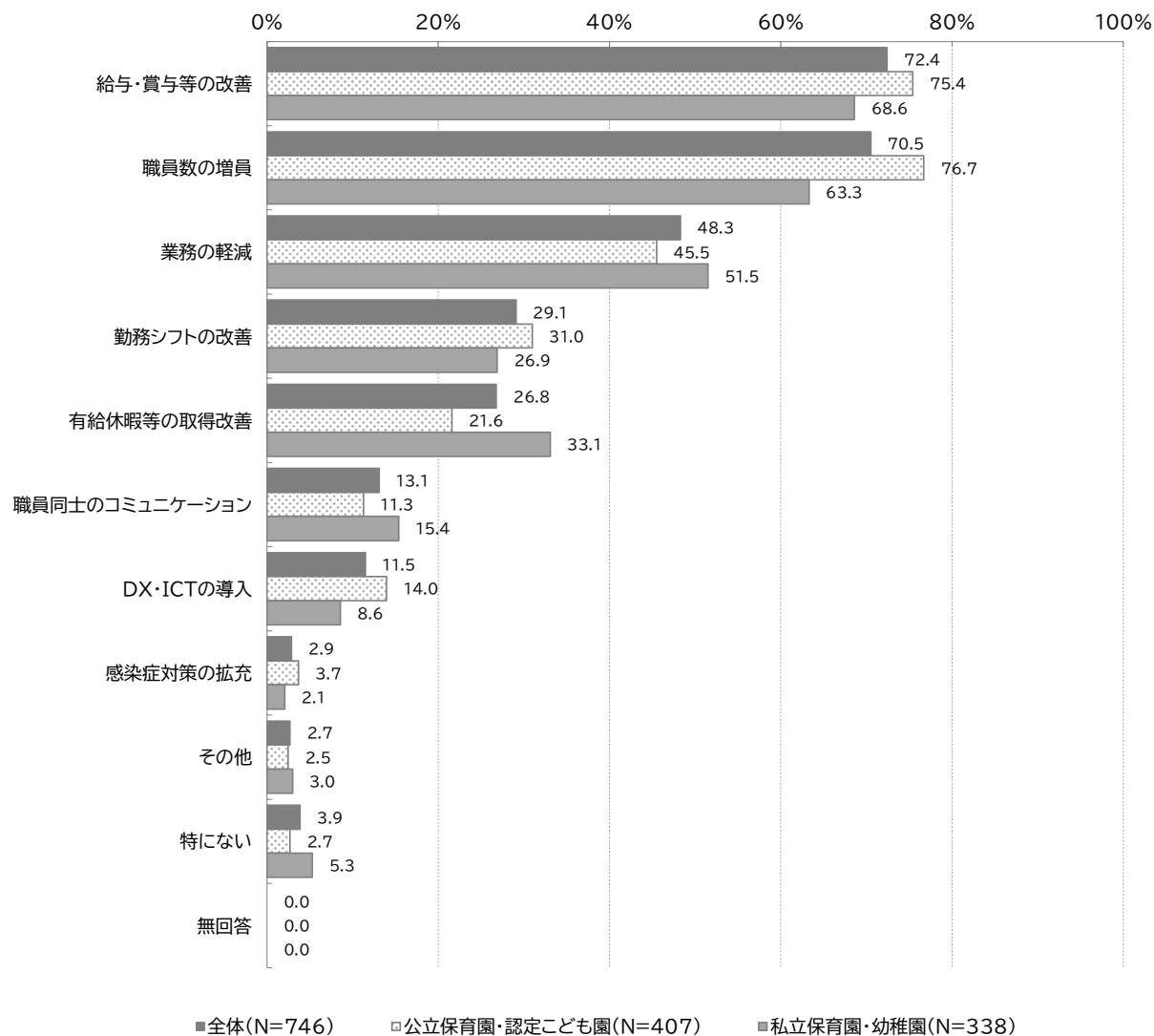


## (14) 今の職場に必要な改善策は何だと思いますか。＜複数回答＞

(園職員調査…問 13)

公立・私立別について、公立では「給与・賞与等の改善」や「職員数の増員」が私立に比べて多く、私立では「業務の軽減」「有給休暇等の取得改善」「職員同士のコミュニケーション」が公立に比べて多い。

### 【公立・私立別】

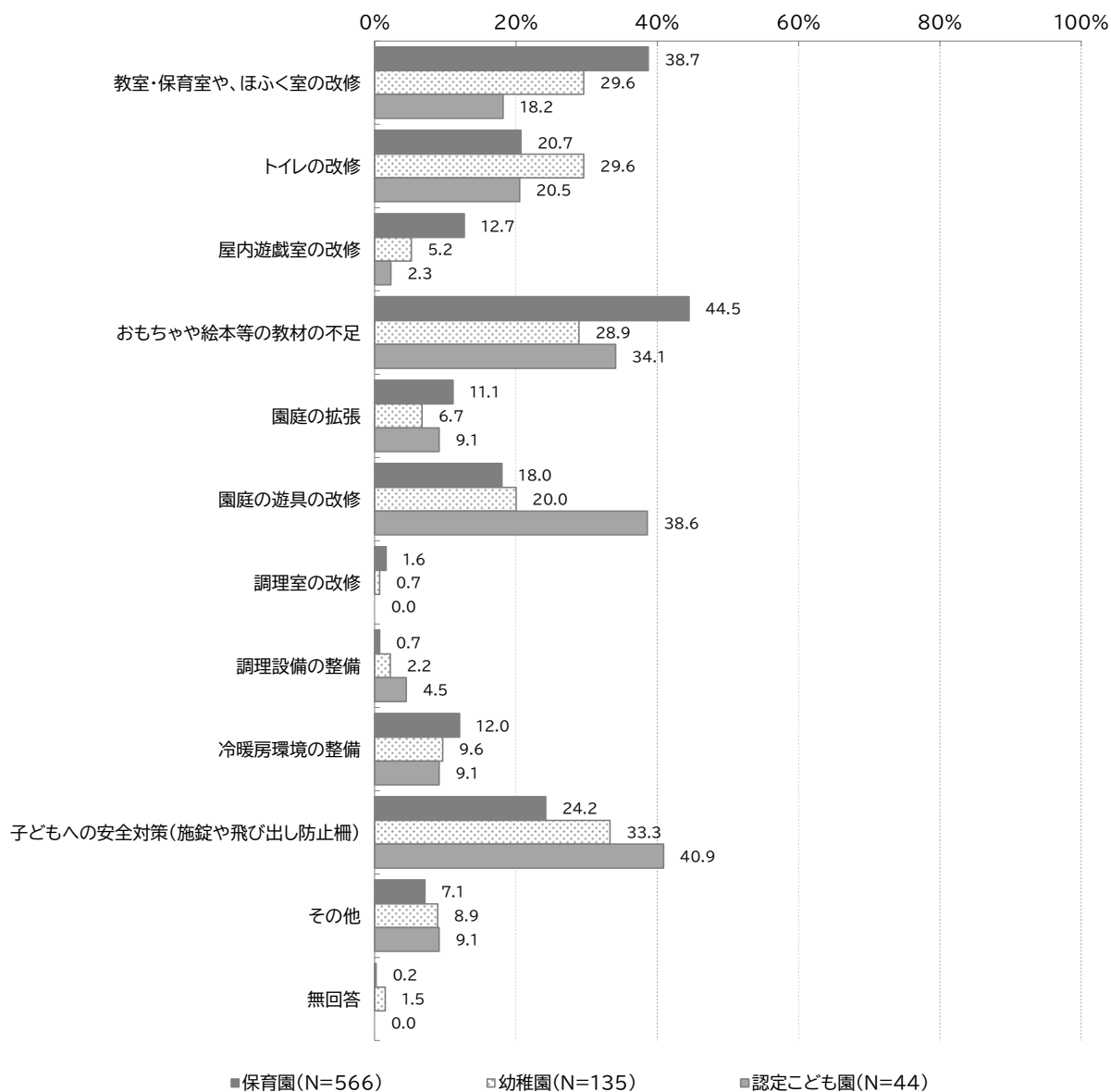


(15) 今の施設について、改善が必要だと思う箇所や不足していると思うことは何ですか。＜複数回答＞

(園職員調査…問 14)

勤務地別について、保育園は「教室・保育室や、ほふく室の改修」「おもちゃや絵本等の教材の不足」が多く、幼稚園は「トイレの改修」、認定こども園は「園庭の遊具の改修」「子どもへの安全対策（施錠や飛び出し防止柵）」がほかの勤務地に比べて多い。

【勤務地別】

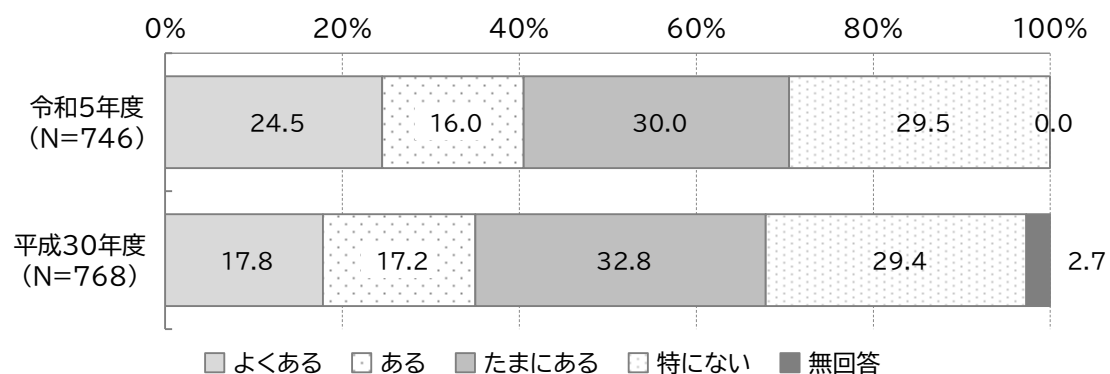




(16) 今の職場・施設をやめる、あるいは、保育園・幼稚園・認定こども園の仕事からの転職を考えたことはありますか。＜単数回答＞

(園職員調査…問 15)

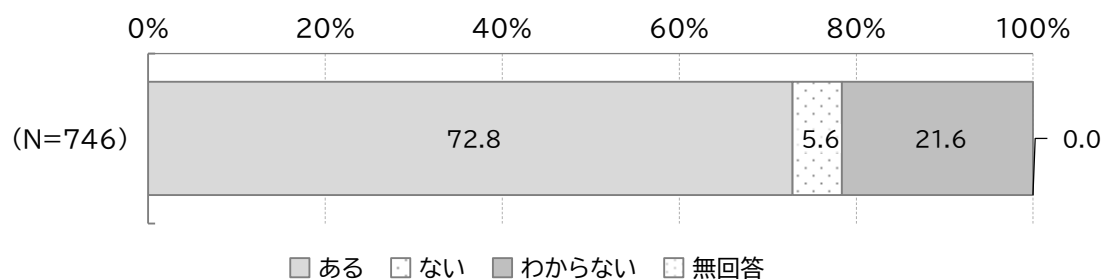
「たまにある」が30.0%と最も多く、次いで「特にない」が29.5%、「よくある」が24.5%となっている。前回調査時と比べて「よくある」と「ある」の合計が多くなっている。



(17) あなたは、自分の知識や専門性を高めるため、研修などへの参加意向はありますか。＜単数回答＞

(園職員調査…問 16)

「ある」が72.8%と最も多く、次いで「わからない」が21.6%、「わからない」が5.6%となっている。

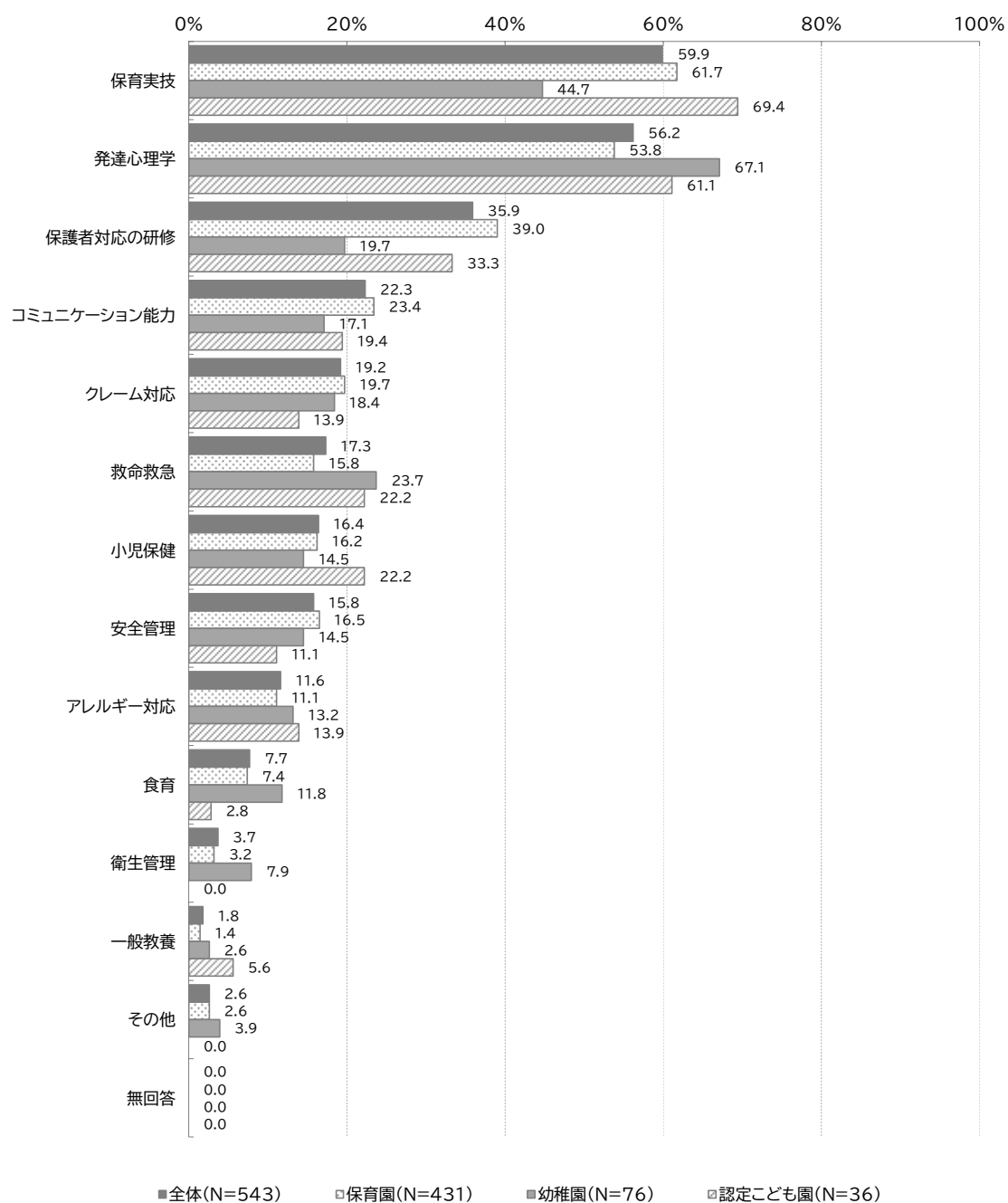


(18) 保育や幼児教育に関する研修では、どのような内容を希望しますか。

<複数回答>

(園職員調査…問 16-1)

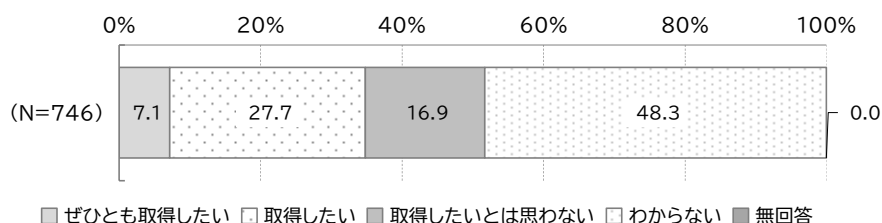
保育園は「保護者対応の研修」「コミュニケーション能力」、幼稚園は「発達心理学」「救命救急」「食育」「衛生管理」、認定こども園は「保育実技」「小児保健」「アレルギー対応」が他の勤務地に比べて多い。



(19) 2024年に「こども家庭ソーシャルワーカー」が創設される予定です。この資格に対する取得意欲はありますか。＜単数回答＞

(園職員調査…問17)

「わからない」が48.3%と最も多く、次いで「取得したい」が27.7%、「取得したいとは思わない」が16.9%となっている。

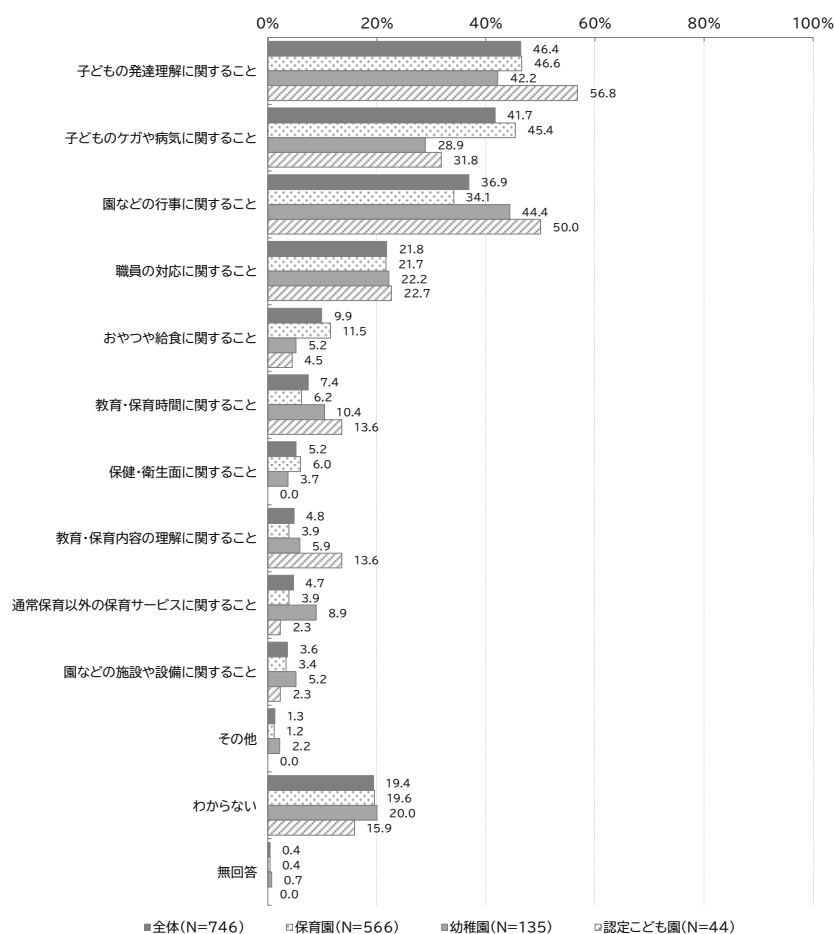


(20) 保護者から寄せられる要望としては、どのようなものが多いですか。

＜複数回答＞

(園職員調査…問18)

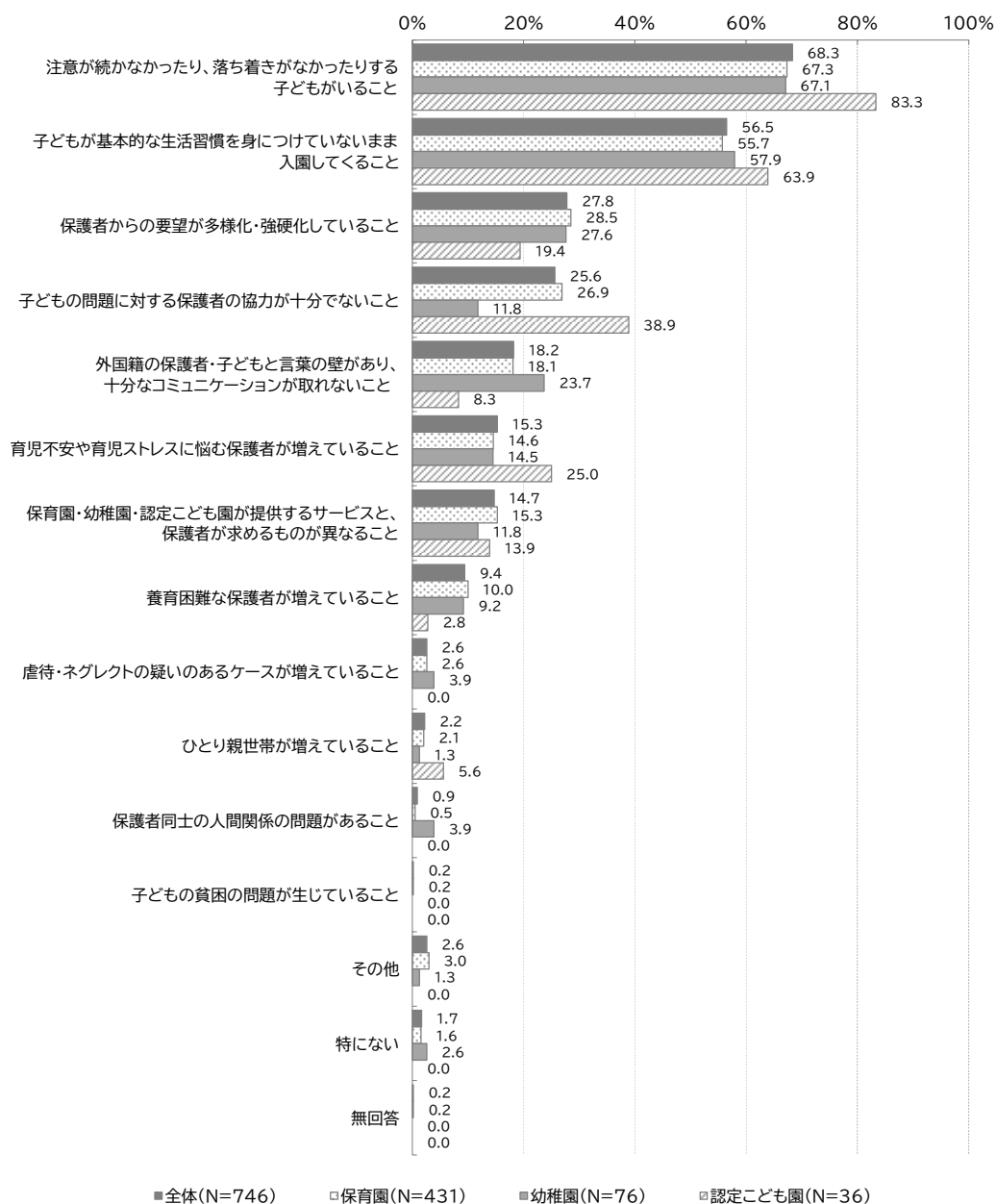
勤務地別について、保育園は「子どものケガや病気に関すること」、認定こども園は「子どもの発達理解に関すること」「園などの行事に関すること」が多い。



## (21) 最近の保護者やその子どもにみられる状況について、特に問題だと思うことは何ですか。＜複数回答＞

(園職員調査…問 19)

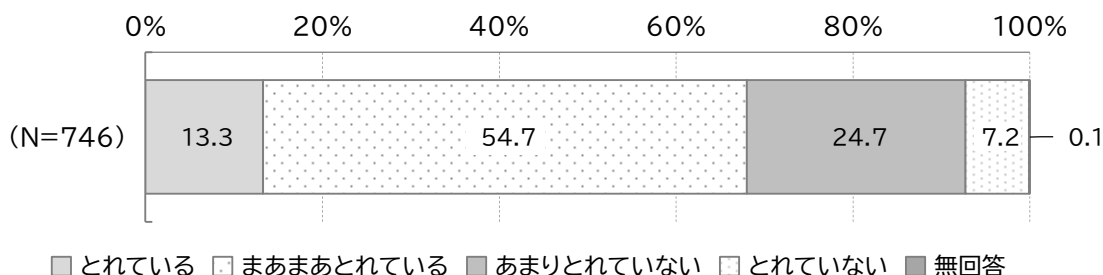
勤務地別について、認定こども園は「注意が続かなかったり、落ち着きがなくなったりする子どもがいること」「子どもが基本的な生活習慣を身につけていないまま入園してくること」「子どもの問題に対する保護者の協力が十分でないこと」「育児不安や育児ストレスに悩む保護者が増えていること」がほかの勤務地に比べて多い。



(22) 自分の仕事と生活（趣味・家庭生活・余暇など）のバランスはとれていますか。＜単数回答＞

（園職員調査…問 20）

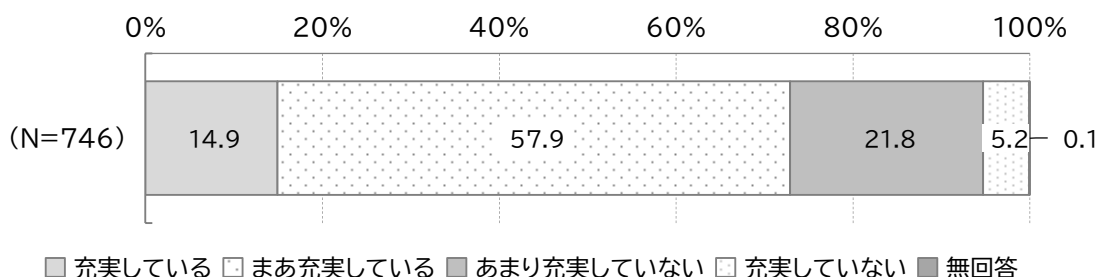
「まあまあとれている」が54.7%と最も多く、次いで「あまりとれていない」が24.7%、「とれている」が13.3%となっている。



(23) 自分の仕事と生活（趣味・家庭生活・余暇など）は両方充実していますか。＜単数回答＞

（園職員調査…問 21）

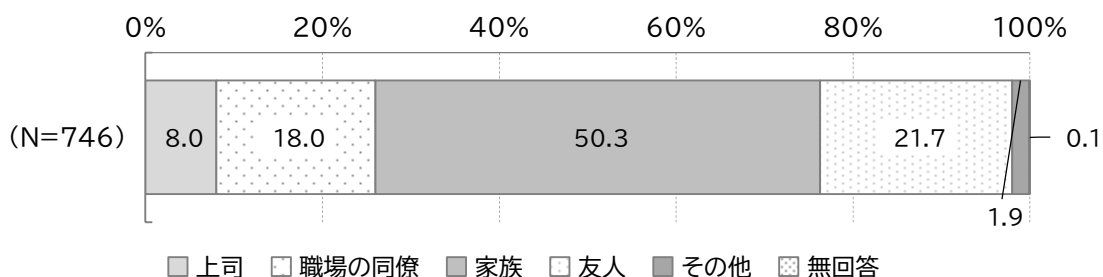
「まあ充実している」が57.9%と最も多く、次いで「あまり充実していない」が21.8%、「充実している」が14.9%となっている。



(24) あなたは困ったとき、誰に相談しますか。＜単数回答＞

（園職員調査…問 22）

「家族」が50.3%と最も多く、次いで「友人」が21.7%、「職場の同僚」が18.0%となっている。

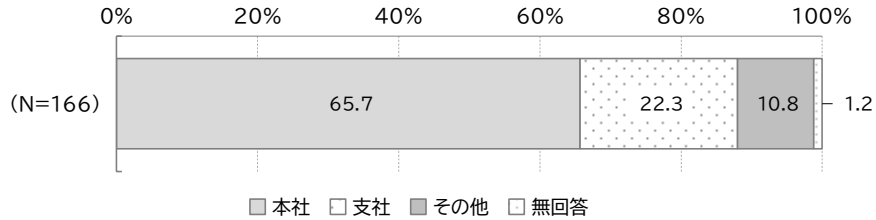


### Ⅲ. 調査結果（事業所）

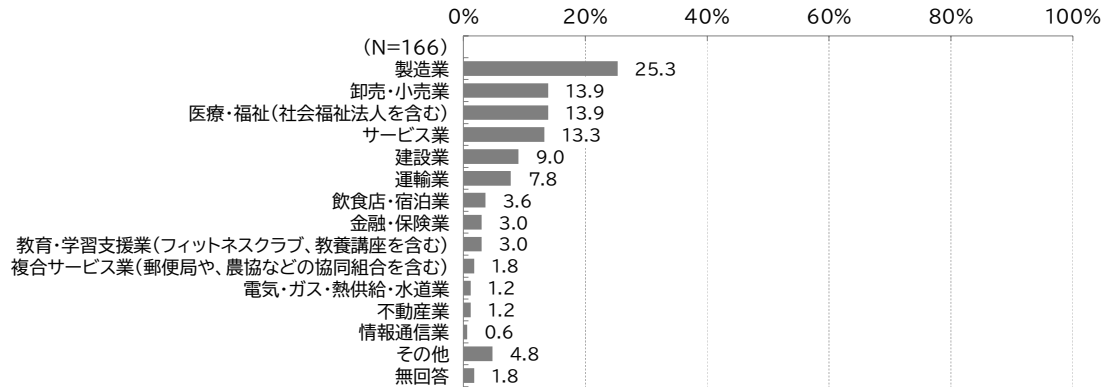
#### （1）貴事業所の概要についてお答えください。＜単数回答＞

（事業所調査…問2）

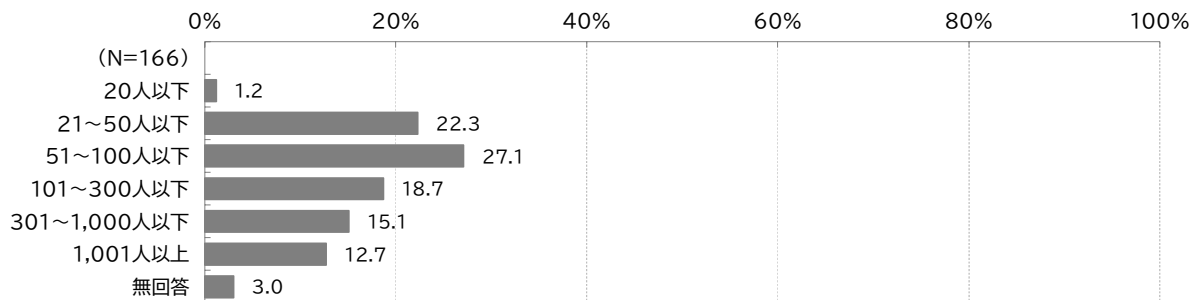
##### 【事業所の組織】



##### 【企業の業種】



##### 【従業員数\_全社人数】

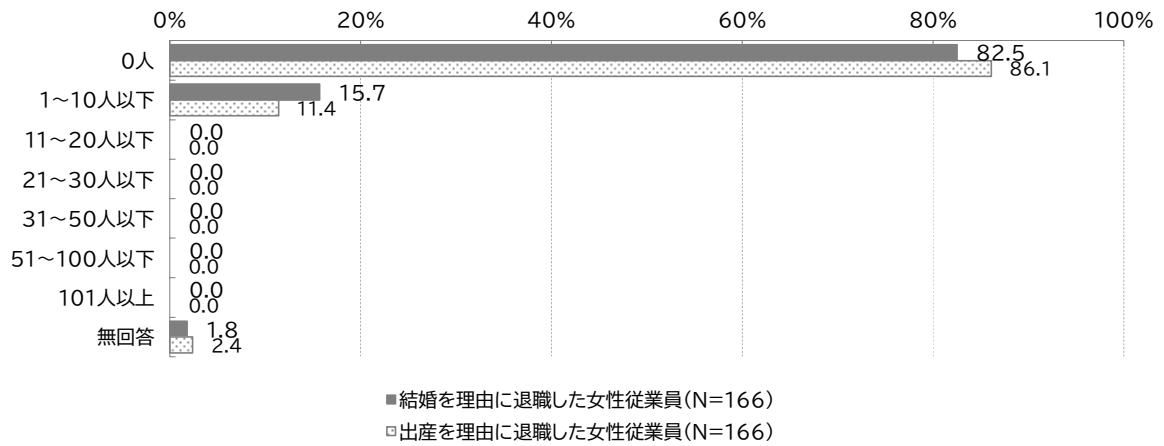


##### 【従業員数\_貴事業所（支社）人数】



(2) 過去3年間に退職した女性従業員のうち、結婚や出産を理由に退職した従業員は何割程度を占めますか。＜数量回答＞

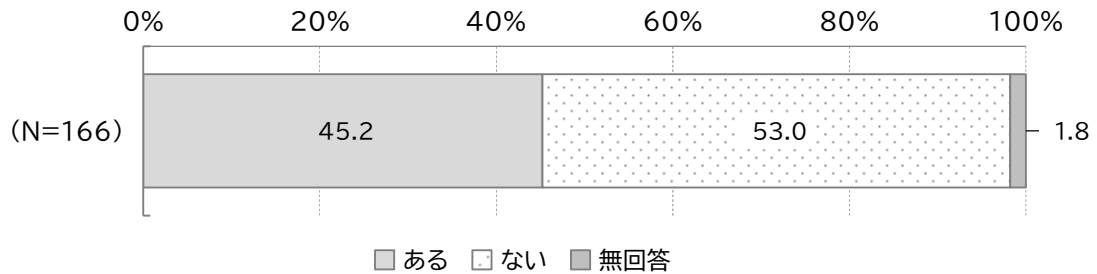
(事業所調査…問5)



(3) 過去3年間に、結婚や妊娠・出産などで退職した女性を再雇用したことがありますか。＜単数回答＞

(事業所調査…問6)

「ない」が53.0%、「ある」が45.2%となっている。

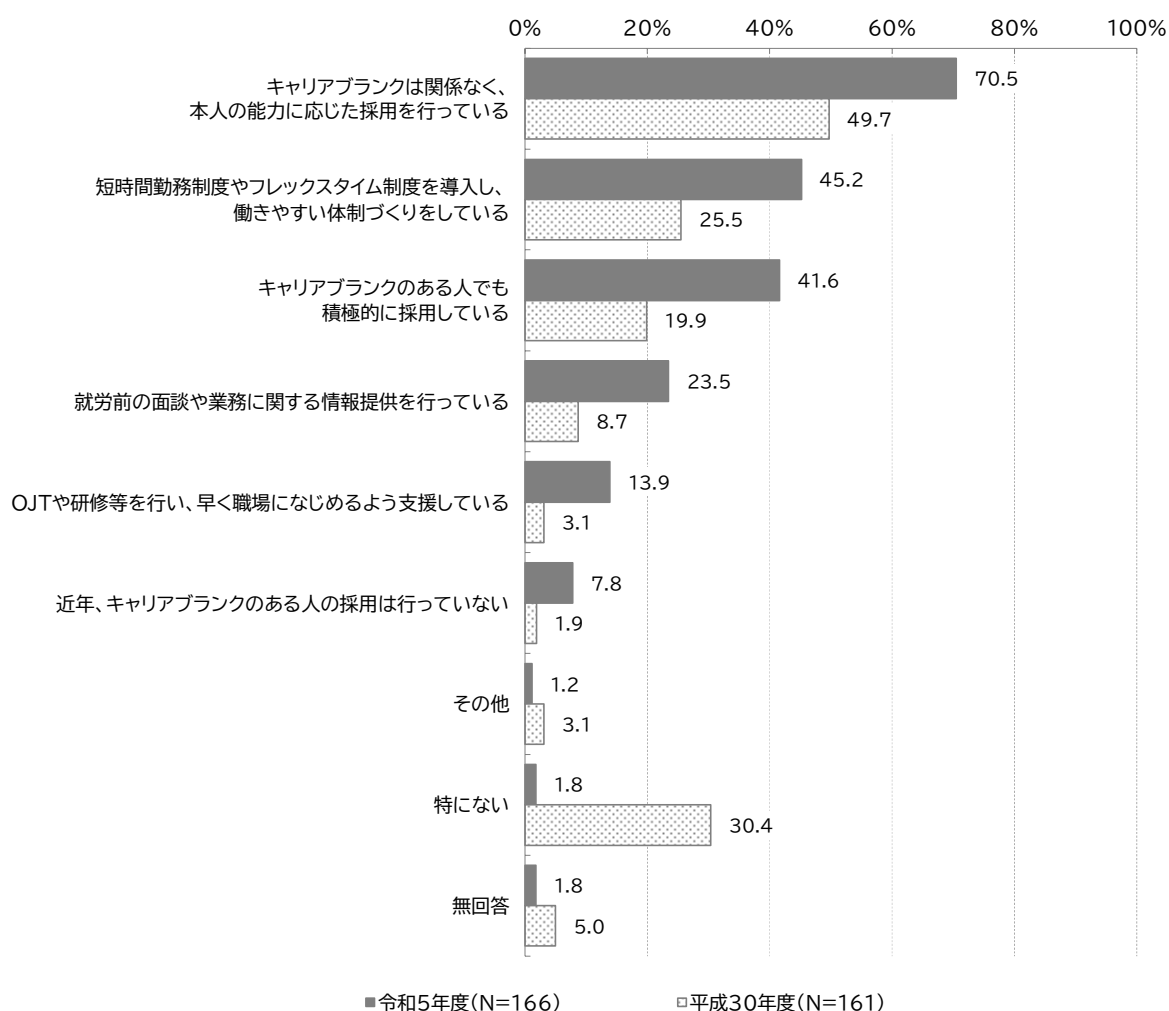


(4) 結婚や妊娠・出産などによりキャリアブランクのある人材の雇用について、  
貴事業所ではどのようにお考えですか。〈複数回答〉

(事業所調査…問7)

全体では「キャリアブランクは関係なく、本人の能力に応じた採用を行っている」が70.5%と最も多く、次いで「短時間勤務制度やフレックスタイム制度を導入し、働きやすい体制づくりをしている」が45.2%、「キャリアブランクのある人でも積極的に採用している」が41.6%となっている。

前回調査時と比べて「キャリアブランクは関係なく、本人の能力に応じた採用を行っている」が20.8ポイント、「短時間勤務制度やフレックスタイム制度を導入し、働きやすい体制づくりをしている」が19.7ポイント、「キャリアブランクのある人でも積極的に採用している」が21.7ポイント増加するなど、20ポイント程度もしくはそれ以上の増加となっている。



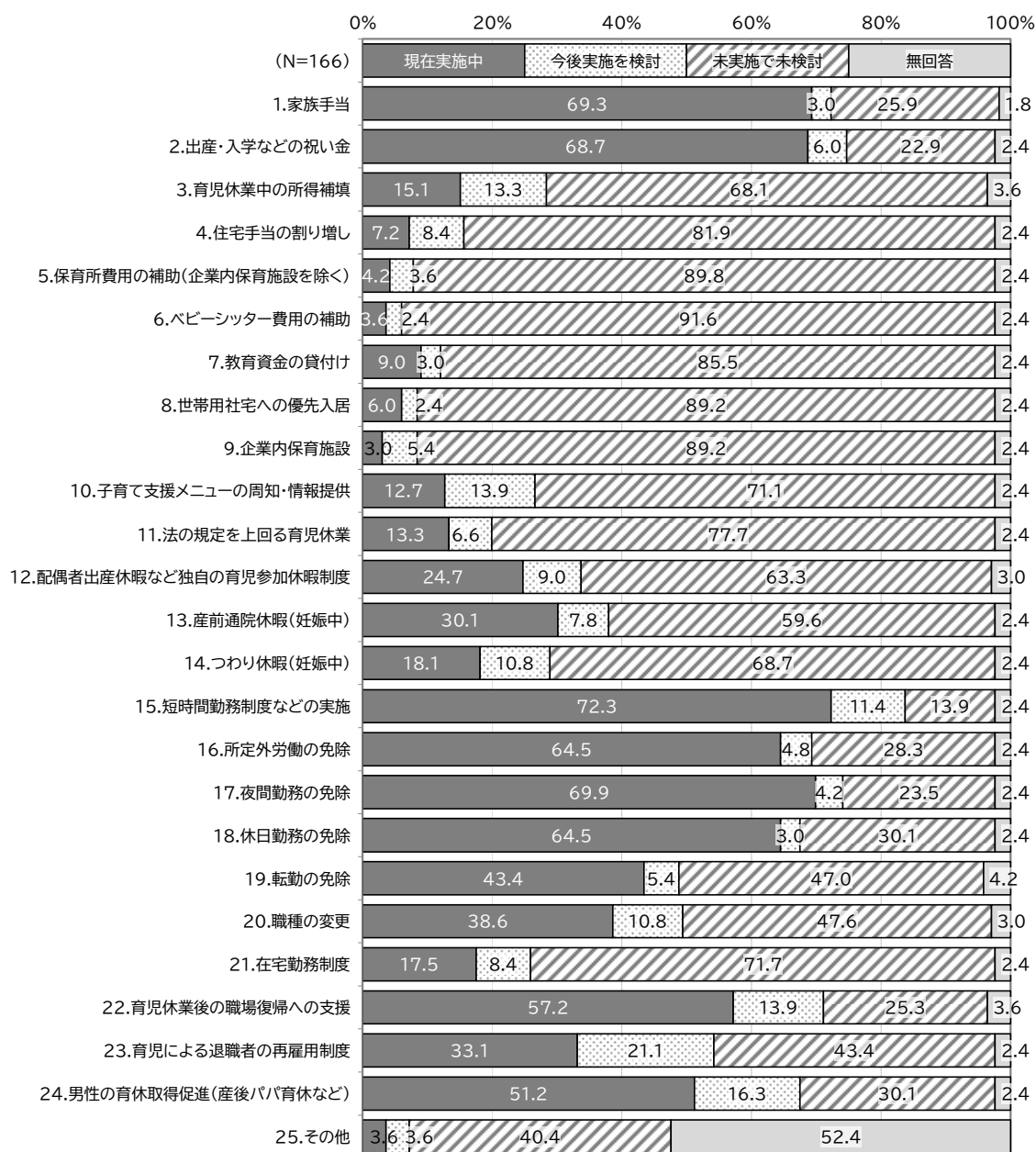


(5) 企業の子育て支援制度について、現在実施されているものと、今後実施されるもの、未実施・未検討の支援策についてお答えください。＜単数回答＞

(事業所調査…問8)

現在実施中の支援策について、「15. 短時間勤務制度などの実施」が72.3%と最も多い。また、「1. 家族手当」「2. 出産・入学などの祝い金」「17. 夜勤勤務の免除」が約7割、「16. 所定外労働の免除」「18. 休日勤務の免除」が6割台となっている。

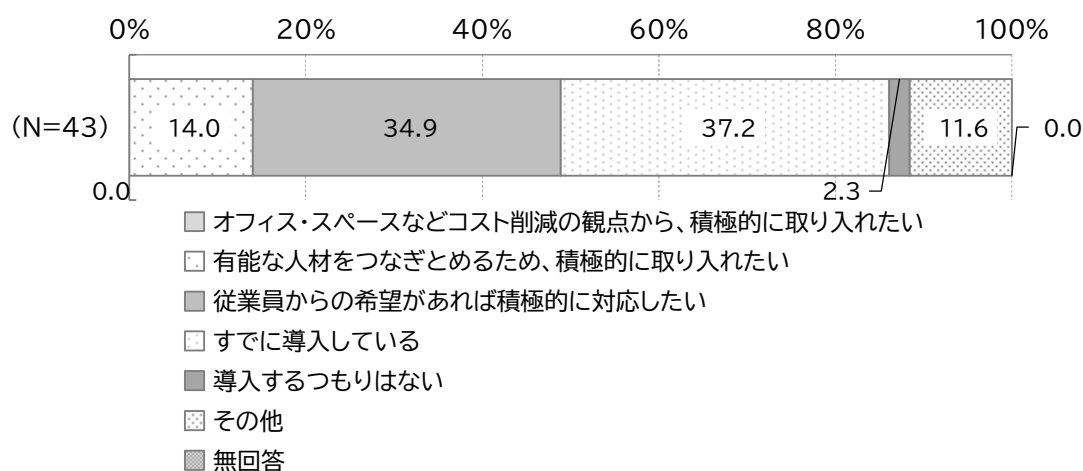
その一方で、「5. 保育所費用の補助（企業内保育施設を除く）」が4.2%、「6. ベビーシッター費用の補助」が3.6%、「9. 企業内保育施設」が3.0%であり、今後の実施を検討する割合も少ない。



(6) 子育て支援を目的とする在宅勤務制度について、貴事業所ではどのようにお考えですか。〈単数回答〉

(事業所調査…問 8-1)

「すでに導入している」が37.2%と最も多く、次いで「従業員からの希望があれば積極的に対応したい」が34.9%、「有能な人材をつなぎとめるため、積極的に取り入れたい」が14.0%となっている。

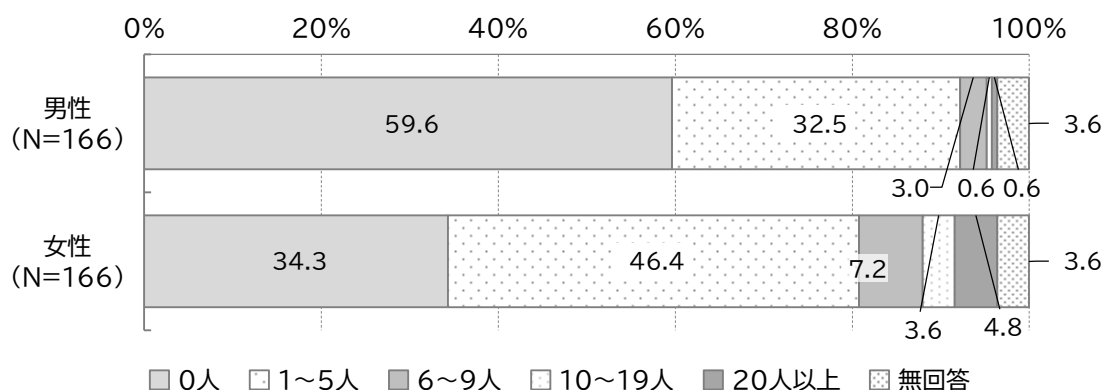


(7) 育児休業制度についてうかがいます。貴事業所では、従業員の育児休業の取得状況はどうですか。〈単数回答〉

(事業所調査…問 9)

男性は「0人」が59.6%と最も多く、次いで「1～5人」が32.5%、「無回答」が3.6%となっている。

女性は「1～5人」が46.4%と最も多く、次いで「0人」が34.3%、「6～9人」が7.2%となっている。



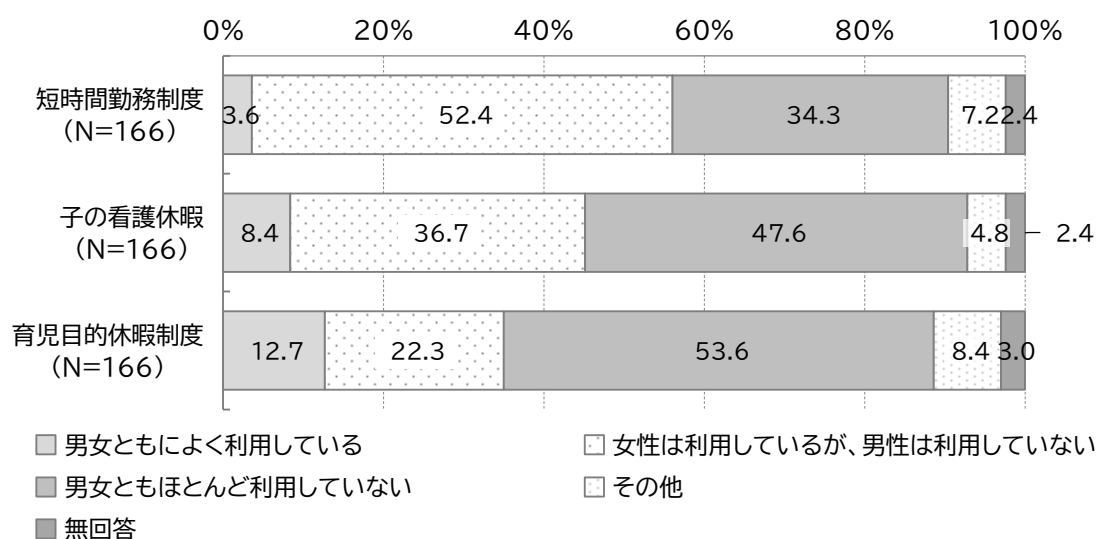
(8) 育児・介護休業法では「3歳までの子を養育する労働者について、短時間勤務制度（1日6時間）を設けることを事業主の義務」とすることや「子の看護休暇（年5日の努力義務）」が記載されています。また、2022年4月の改正では、有期雇用の従業員の育児休業の取得要件が緩和されたほか、2023年4月の改正では、従業員1,000名以上の企業は男性の育児休業取得率等や育児休業・休暇の取得率を年1回公表することと定められました。貴事業所では、以下(1)~(3)の利用（進捗）状況はどうか。＜単数回答＞

（事業所調査…問10）

短時間勤務制度では「女性は利用しているが、男性は利用していない」が52.4%と最も多く、次いで「男女ともほとんど利用していない」が34.3%、「その他」が7.2%となっている。

子の看護休暇では「男女ともほとんど利用していない」が47.6%と最も多く、次いで「女性は利用しているが、男性は利用していない」が36.7%、「男女ともよく利用している」が8.4%となっている。

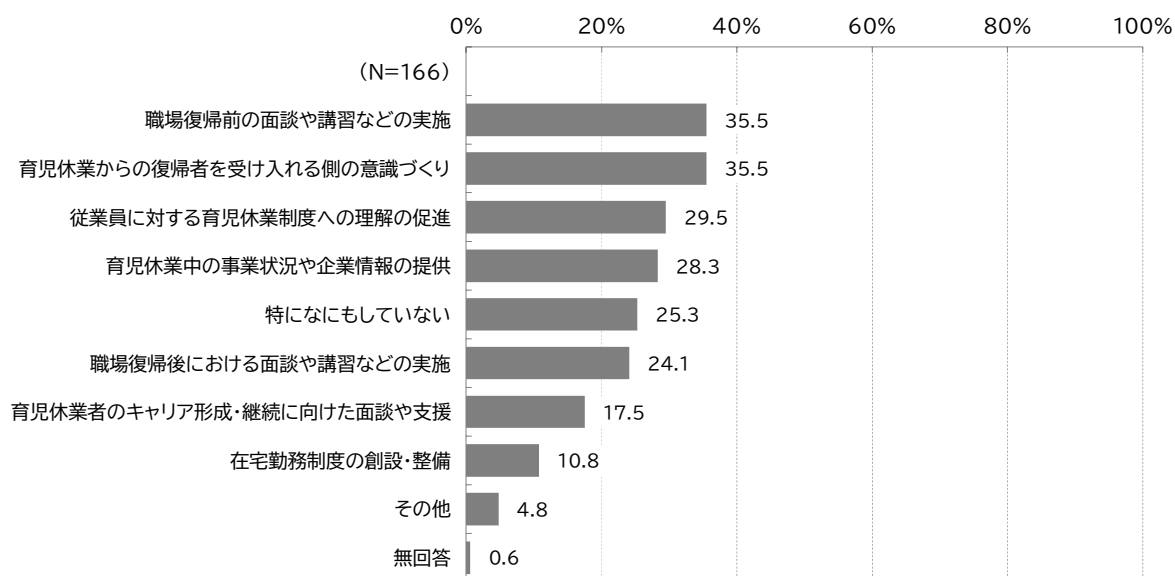
育児目的休暇制度では「男女ともほとんど利用していない」が53.6%と最も多く、次いで「女性は利用しているが、男性は利用していない」が22.3%、「男女ともよく利用している」が12.7%となっている。



(9) 企業では、育児休業から職場復帰する従業員に対し、復帰支援として取り組まれていることはありますか。＜複数回答＞

(事業所調査…問 11)

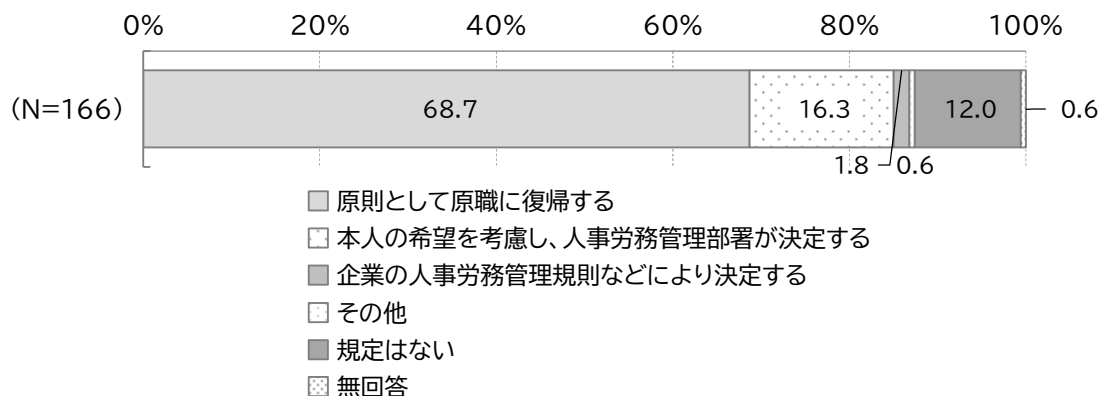
「職場復帰前の面談や講習などの実施」「育児休業からの復帰者を受け入れる側の意識づくり」がそれぞれ 35.5%と最も多く、「従業員に対する育児休業制度への理解の促進」が 29.5%となっている。



(10) 育児休業を終えて職場に復帰した従業員の配置について、就業規則などではどのように規定されていますか。＜単数回答＞

(事業所調査…問 12)

「原則として原職に復帰する」が 68.7%と最も多く、次いで「本人の希望を考慮し、人事労務管理部署が決定する」が 16.3%、「規定はない」が 12.0%となっている。

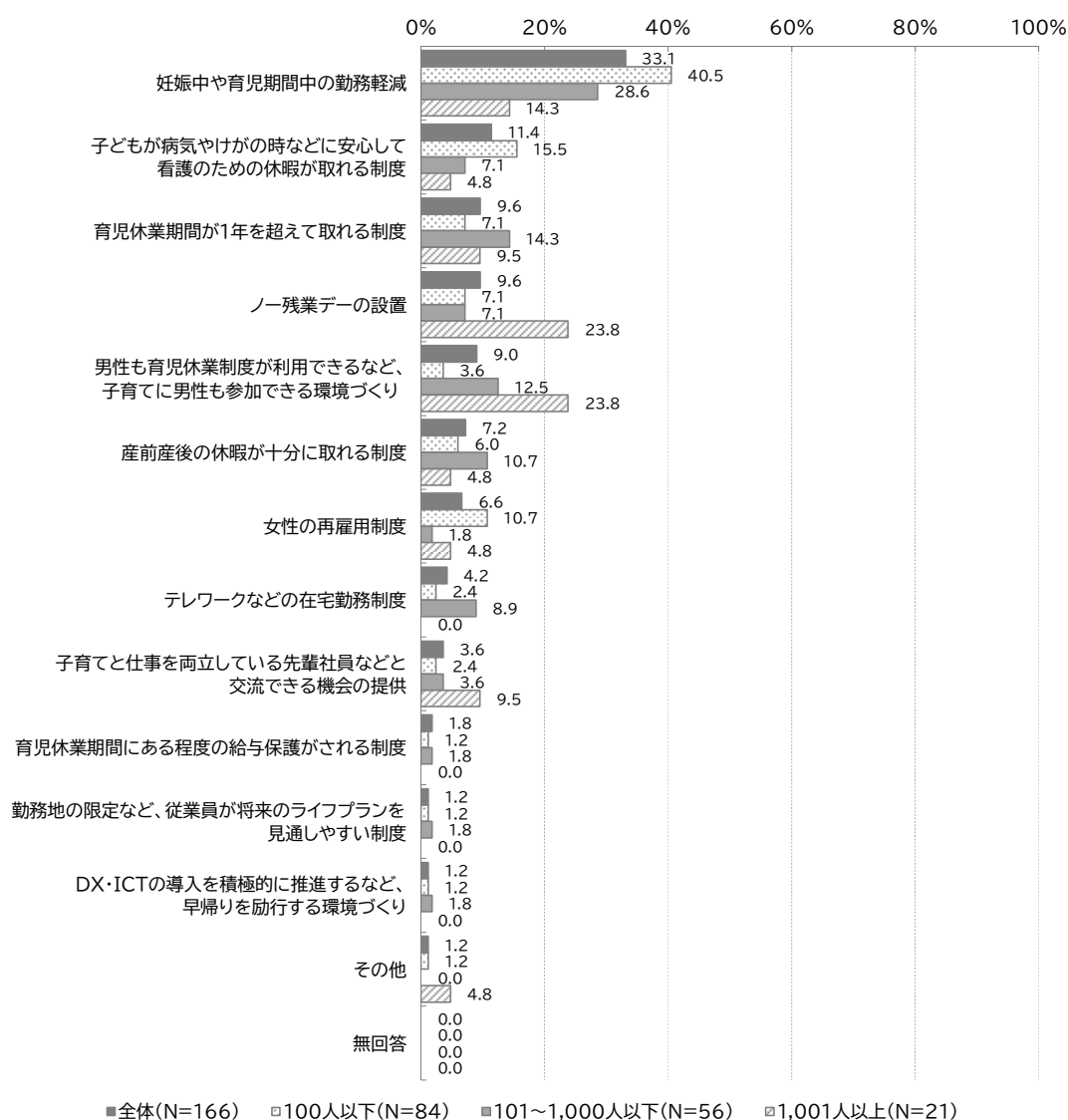


## (11) 貴事業所では、子育てと仕事の両立のために職場でどのようなことが取り組みそうですか。＜単数回答＞

(事業所調査…問 13)

全体では「妊娠中や育児期間中の勤務軽減」が33.1%と最も多く、次いで「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」が11.4%、「ノー残業デーの設置」が9.6%となっている。

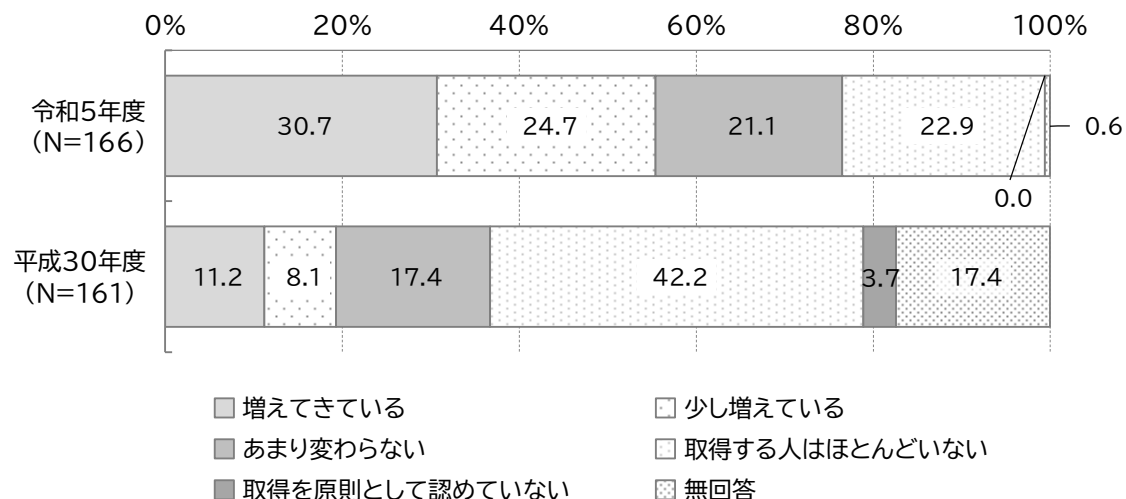
従業員数別について、100人以下では「妊娠中や育児期間中の勤務軽減」「子どもが病気やけがの時などに安心して看護のための休暇が取れる制度」「女性の再雇用制度」、101～1,000人以下では「育児休業期間が1年を超えて取れる制度」「産前産後の休暇が十分に取れる制度」「テレワークなどの在宅勤務制度」、1,001人以上では「ノー残業デーの設置」「男性も育児休業制度が利用できるなど、子育てに男性も参加できる環境づくり」「子育てと仕事を両立している先輩社員などと交流できる機会の提供」の割合がほかの従業員数の事業所に比べて多い。



(12) 貴事業所では、ここ5年間において育児休業や育児休暇を取得する人は増えて  
いますか。＜単数回答＞

(事業所調査…問 14)

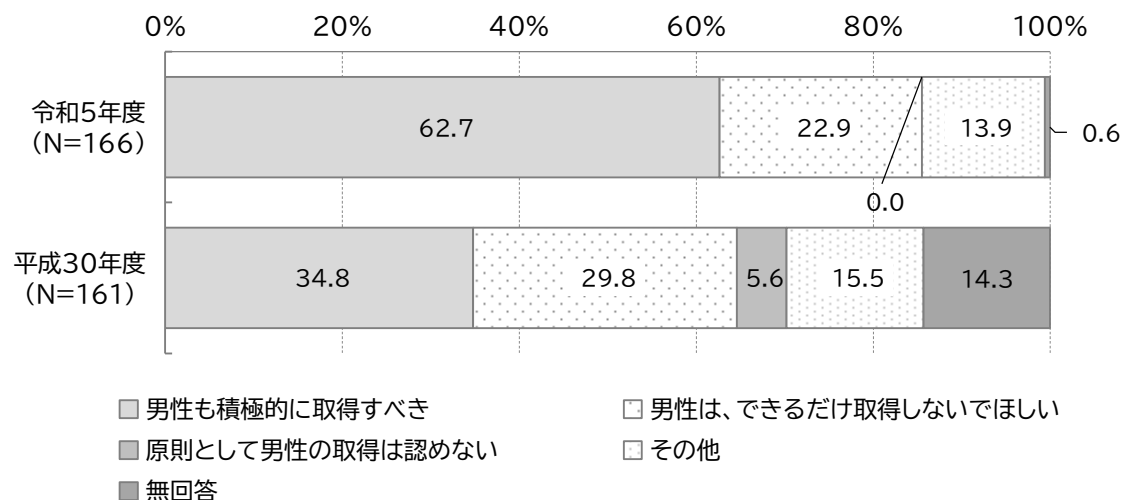
「増えてきている」と「少し増えている」の合計が55.4%であり、前回調査時の19.3%と比べて36.1ポイント増加している。



(13) 男性が育児休業や育児休暇を取得することについて、貴事業所ではどのよう  
にお考えですか。＜単数回答＞

(事業所調査…問 15)

「男性も積極的に取得すべき」が62.7%と最も多く、前回調査時と比べて27.9ポイント増加している。次いで「男性は、できるだけ取得しないでほしい」が22.9%、「その他」が13.9%となっている。



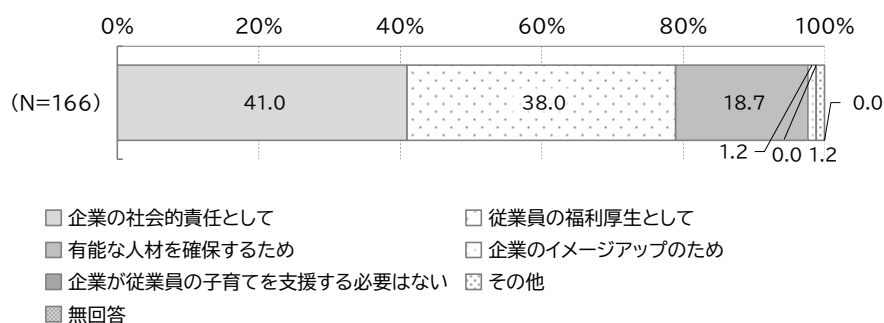
(14) 従業員の子育て支援について、貴事業所ではどのようにお考えですか。

<単数回答>

(事業所調査…問 16)

全体では「企業の社会的責任として」が41.0%と最も多く、次いで「従業員の福利厚生として」が38.0%、「有能な人材を確保するため」が18.7%となっている。

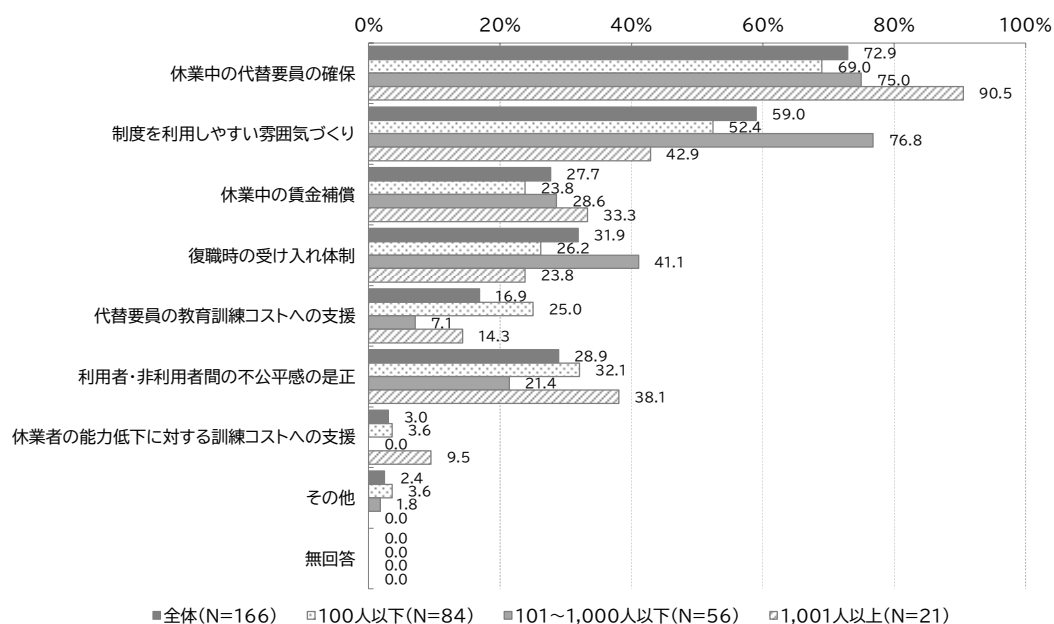
従業員数別について、101～1,001人以下では「従業員の福利厚生として」「有能な人材を確保するため」、1,001人以上では「企業の社会的責任として」の割合がほかの従業員数の事業所に比べて多い。



(15) 貴事業所では、育児・介護休業制度を定着させるために特に必要だと思われることは何ですか。 <複数回答>

(事業所調査…問 17)

従業員数別について、101～1,001人以下では「休業中の代替要員の確保」「制度を利用しやすい雰囲気づくり」「復職時の受け入れ体制」、1,001人以上では「休業中の代替要員の確保」「利用者・非利用者間の不公平感の是正」の割合がほかの従業員数の事業所に比べて多い。



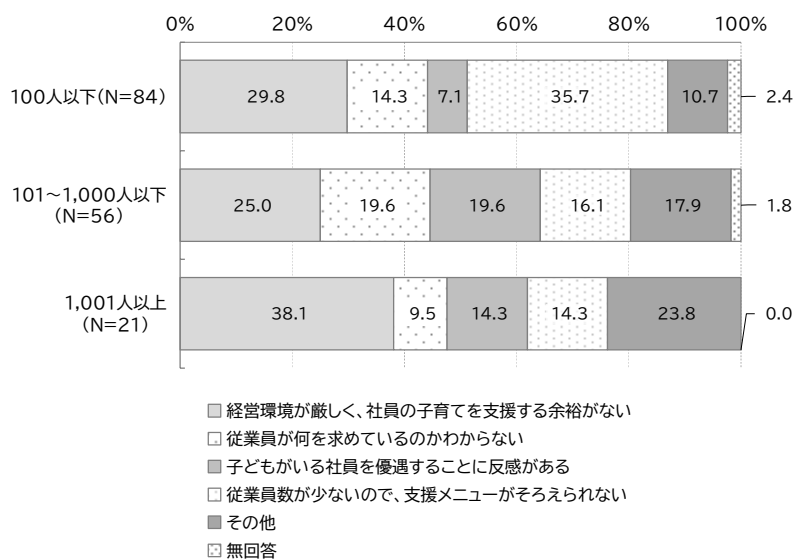
## (16) 企業が子育て支援を進めるにあたって、何が問題になると思いますか。

<単数回答>

(事業所調査…問 18)

従業員数別について、100人以下では「経営環境が厳しく、社員の子育てを支援する余裕がない」「従業員数が少ないので、支援メニューがそろえられない」がほかの従業員数の事業所に比べて多い。

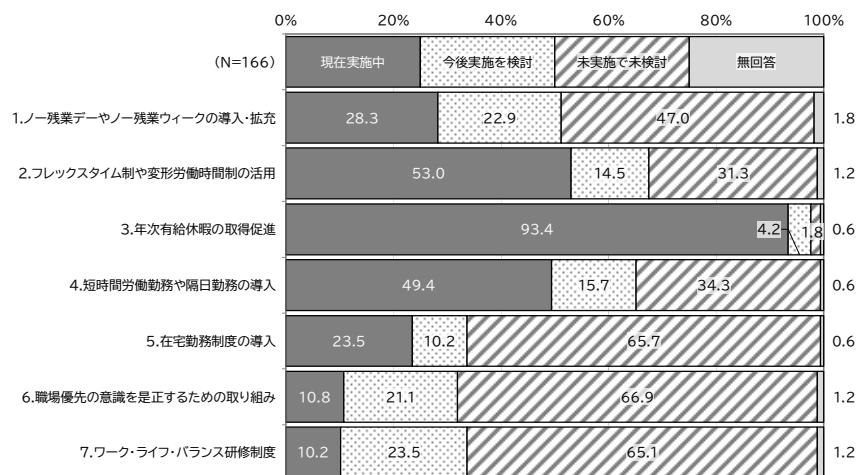
### 【従業員数別】



## (17) 従業員の働き方の見直しについて、企業ではどんなことを実施していますか。<単数回答>

(事業所調査…問 19)

現在実施中の見直しについて、「3. 年次有給休暇の取得促進」が93.4%と最も多く、「2. フレックスタイム制や変形労働時間制の活用」が53.0%、「4. 短時間労働勤務や隔日勤務の導入」が49.4%となっている。

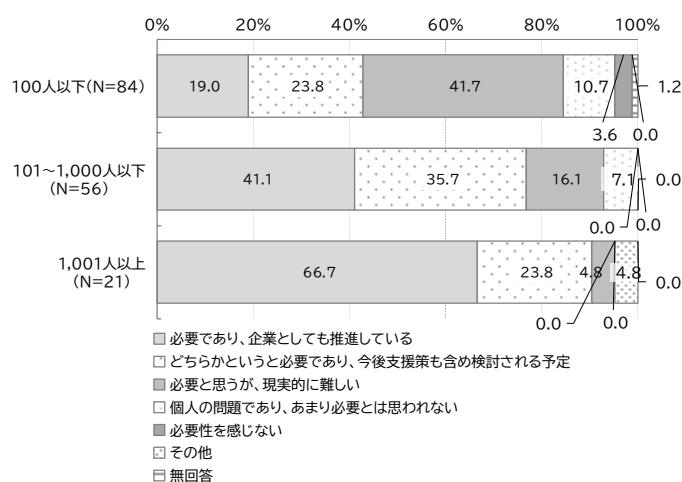




(18) ワーク・ライフ・バランスの推進について、企業における取り組みをどのように思いますか。〈単数回答〉

(事業所調査…問 20)

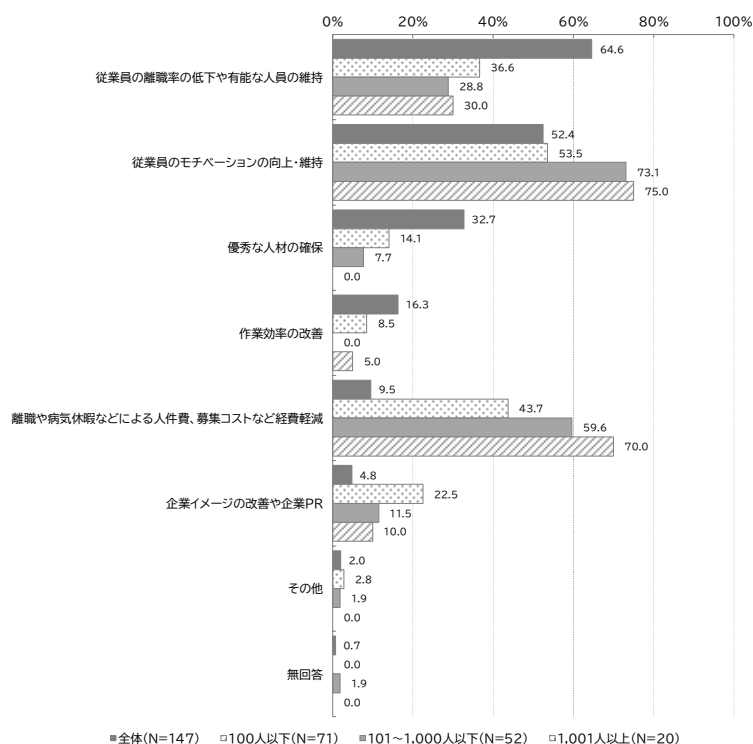
従業員数別について、100 人以下では「必要と思うが、現実的に難しい」、101～1,000 人以下では「どちらかという必要であり、今後支援策も含め検討される予定」、1,001 人以上では「必要であり、企業としても推進している」がほかの従業員数の事業所に比べて多い。



(19) ワーク・ライフ・バランスの推進が必要と考えられる理由は何ですか。〈複数回答〉

(事業所調査…問 20-1)

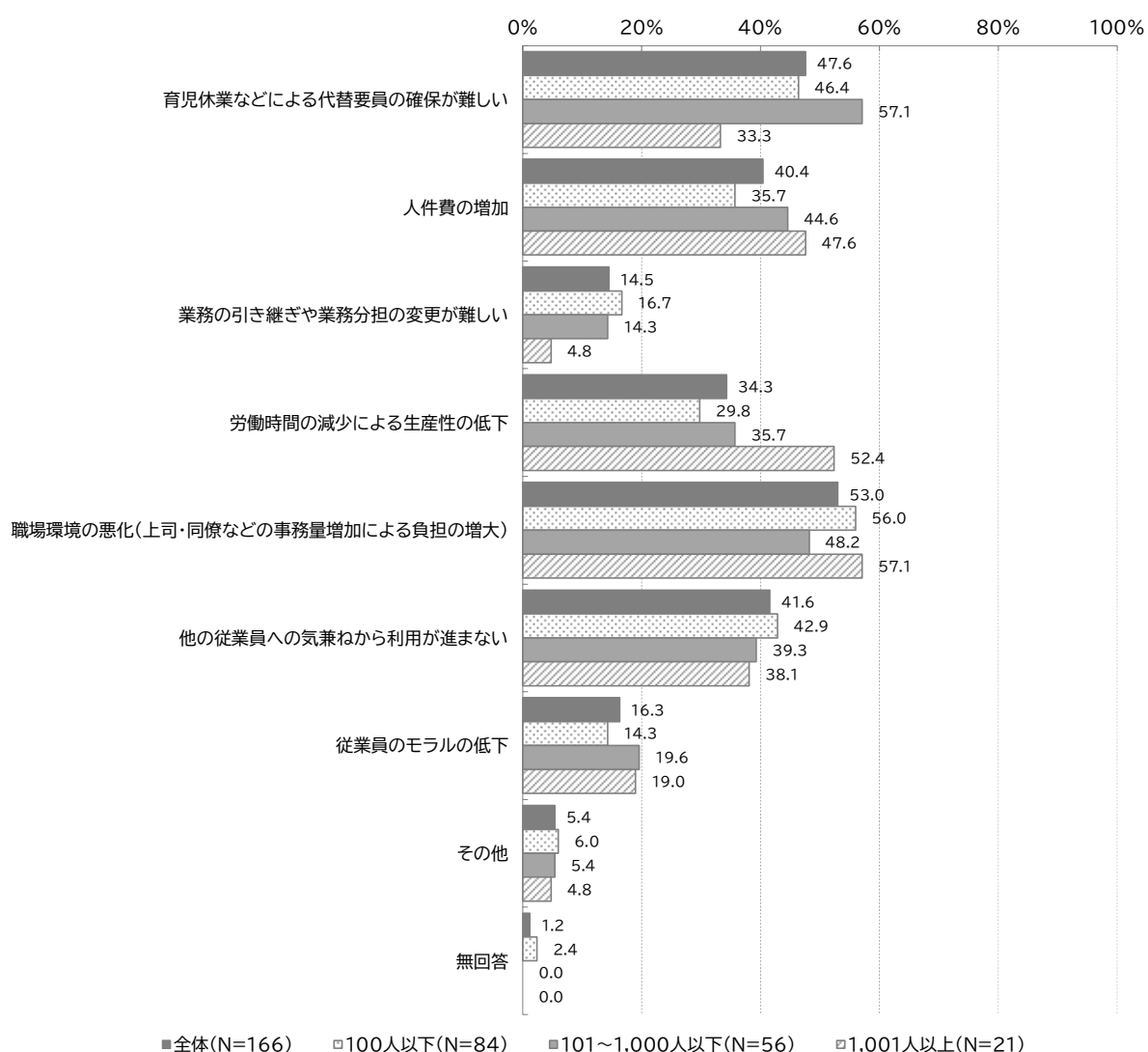
従業員数別について、101～1,000 人以下と 1,001 人以上では「従業員のモチベーションの向上・維持」「離職や病気休暇などによる人件費、募集コストなど経費軽減」の割合が多い。



## (20) ワーク・ライフ・バランスの推進において障がいとなりそうなこと、障がいとなっていること。＜複数回答＞

(事業所調査…問 21)

従業員数別について、100人以下では「他の従業員への気兼ねから利用が進まない」、101～1,000人以下では「育児休業などによる代替要員の確保が難しい」「従業員のモラルの低下」、1,001人以上では「人件費の増加」「労働時間の減少による生産性の低下」「職場環境の悪化（上司・同僚などの事務量増加による負担の増大）」がほかの従業員数の事業所に比べて多い。



(21) 仕事と家庭の両立について、自治体が特に重点をおいて取り組むべきだと思うことはどのようなことですか。＜複数回答＞

(事業所調査…問 22)

「保育所、放課後児童クラブなどの保育環境を整備する」が64.5%と最も多く、次いで「仕事と家庭の両立支援に取り組む事業所などに対する、国や自治体が行う支援策を充実させる」が63.9%、「仕事と家庭の両立支援に関する情報提供を充実する」が29.5%となっている。

